

スリランカ民主社会主義共和国
中央文化基金

NO.

スリランカ民主社会主義共和国
シーギリア博物館展示機材整備計画
基本設計調査報告書

平成 19 年 8 月
(2007 年)

独立行政法人国際協力機構
(JICA)

委託先
株式会社全国農協設計

無償

CR(1)

07-096

スリランカ民主社会主義共和国
中央文化基金

スリランカ民主社会主義共和国
シーギリア博物館展示機材整備計画
基本設計調査報告書

平成 19 年 8 月
(2007 年)

独立行政法人国際協力機構
(JICA)

委託先
株式会社全国農協設計

序 文

日本国政府は、スリランカ民主社会主義共和国政府の要請に基づき、同国のシーギリア博物館展示機材整備計画にかかる基本設計調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施しました。

当機構は、平成 19 年 1 月 11 日から 2 月 15 日まで基本設計調査団を現地に派遣しました。

調査団は、スリランカ政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施しました。帰国後の国内作業の後、平成 19 年 5 月 11 日から 5 月 19 日まで実施された基本設計概要書案の現地説明を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終りに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 19 年 8 月

独立行政法人国際協力機構
理事 黒木 雅文

伝 達 状

今般、スリランカ民主社会主義共和国におけるシーギリア博物館展示機材整備計画基本設計調査が終了いたしましたので、ここに最終報告書を提出いたします。

本調査は、貴機構との契約に基づき弊社が、平成18年12月より平成19年8月までの8ヵ月にわたり実施いたしてまいりました。今回の調査に際しましては、スリランカの現状を十分に踏まえ、本計画の妥当性を検証するとともに、日本の無償資金協力の枠組みに最も適した計画の策定に努めてまいりました。

つきましては、本計画の推進に向けて、本報告書が活用されることを切望いたします。

平成19年8月

株式会社全国農協設計
スリランカ民主社会主義共和国
シーギリア博物館展示機材整備計画
基本設計調査団
業務主任 榎原 幹基

要 約

① 国の概要

スリランカ民主社会主義共和国（以下、「ス」国という）は、インド南端から約 30km 南東に位置し、面積 65,607 km² のインド洋に浮かぶ島嶼国である。人口は 1,967 万人（2005 年）であり、民族の大多数（73%）はシンハラ人であるが、タミル人、スリランカ・ムーア人なども混在する。公用語はシンハラ語、タミル語であるが、連結語の英語も使用している。

一人当たりの GNI は 1,010 米ドル（2004 年）、2006 年の産業別内訳は第一次産業の GDP 比率が 17.3%、第二次産業が 27.3%、第三次産業が 55.4% である。「ス」国政府は 1983 年以降悪化した経済状況の建て直しを図るため、世界銀行・国際通貨基金との合意に基づき 1988 年より財政支出の削減、公的企業の民営化、為替管理を含む規制緩和等を内容とする構造調整政策を実施してきている。2001 年はマイナス成長であった経済は、2002 年に入ってプラスへと転換し、年後半には力強い成長となった。これは主として、和平プロセスの進展により国内経済の環境が良好となったことによるものであるが、その他の要因に政策金利の抑制等による金融政策、財政改善努力、構造改革の進展、世界経済の回復による国際環境の変化等の影響もあげられる。近年では、治安情勢の悪化、津波災害をはじめとする自然災害、国際的な原油価格の高騰等のマイナス要因はあるものの、サービス業が堅調に推移するなど、全体としては 5～6% 程度の成長率を維持している。

「ス」国にはシーギリア遺跡を含む 7 箇所のユネスコ世界遺産（うち 6 箇所は世界文化遺産）があり、その他にも文化遺産・遺跡が多く存在する。文化遺産は主にアヌラーダプラ、ポロンナルワ及びキャンディの 3 都市を頂点とした「文化三角地帯」と呼ばれる国の中央部に集中している。シーギリア遺跡は、文化三角地帯の中心、マータレ県シーギリアに位置しており、国内最大の都市コロombo から北東約 160km に位置する。

② 要請プロジェクトの背景、経緯及び概要

「ス」国政府は、国家開発計画 10 ヶ年戦略計画書（2006～2016 年）において、年間 8% 超の GDP 成長率という目標を達成するための戦略として、国内民間企業の育成と海外からの投資の促進による市場経済政策を打ち出している。同計画書では、観光セクターを含むサービス分野において年間 9～10% の成長を目指すとしており、雇用促進と外貨獲得のための観光セクター開発促進が、国の重要政策の一つとして位置付けられている。また、文化セクターの開発戦略では、「国民及び国外の人々による「ス」国文化と歴史の重要性、国内の遺産や遺跡の価値への理解を促す」が目的として示され、具体的な計画として文化開発計画（2007～2016 年）が策定されている。この計画において、新シーギリア博物館を含む重点博物館 4 館の新設または改修が文化財保護に係る目標達成のための手段として位置づけられている。あわせて都市計画開発セクターでは、シーギリア遺跡が所在するダンブッラ地区が開発重点地区 7 ヶ所の一つにあげられ、交通、観光、農業の要衝となることが期待されると同時に、考古学遺跡の保護が開発計画に含まなければならないことが明示されている。

シーギリア遺跡は、ユネスコ世界遺産に登録された国際的に貴重な文化遺産であり、「ス」国内のみならず全世界から多くの来訪者を迎えていることから、「ス」国政府は上述の国家開発計画におけ

る観光セクター、文化セクター、都市計画開発セクターの方針に基づき、新シーギリア博物館整備プロジェクトを立ち上げた。この整備プロジェクトは、「1)施設の建設、2)展示機材の整備、3)施設の運営、4)周辺環境の整備」により構成され、2009年度の新シーギリア博物館の開館に向けて準備が進められている。

1)施設の建設については、2004年度に文化遺産無償資金協力として「ス」国政府から日本国政府に要請されたが、予備調査を実施した結果、要請施設の規模が大きく文化遺産無償資金協力に適さないことが判明した。そのため、「ス」国政府は、貧困農民支援(2KR)の見返り資金を活用し新シーギリア博物館の建設を実施することにした。現在2008年3月の竣工に向けて建設中である。3)施設の運営に関しては、2006年9月に実施されたプロジェクト形成調査の結果を受け、同博物館の運営強化を含むシーギリア遺跡を拠点とした観光開発の技術協力プロジェクトが2008年度の実施に向け検討されている。4)周辺環境の整備については、国際協力銀行(JBIC)による2004年度の案件形成促進調査(SAPROF)を経て、円借款による観光セクター開発計画の一環として、シーギリア遺跡へのアクセス道路及び遺跡内インフラ(シーギリア・ロックへの登坂ルート等)の整備が実施され、2009年3月に完工する予定である。

全体整備プロジェクトにおける2)展示機材の整備の部分が、本件要請プロジェクトである。新シーギリア博物館の展示機能強化を目的とし、2005年10月に映像ソフトの作成及び上映のための機材調達等が一般文化無償資金協力として要請された。しかし、博物館の全体コンセプト及び機材内容が不明確であり、上述のプロジェクト形成調査において協力内容の整理がなされた。この調査結果を受け、「ス」国は無償資金協力の要請内容を見直し、2006年11月に展示用機材を中心とした機材の供与・据付を改めて要請した。

③ 調査結果の概要とプロジェクトの内容

「ス」国政府からの要請を受けて、日本国政府は基本設計調査の実施を決定し、基本設計調査団を平成19年1月11日から2月15日まで「ス」国に派遣し、相手国政府関係者と協議を行うとともに、要請内容の確認、サイト調査等を実施した。帰国後、国内解析に基づき基本設計概要書を取りまとめ、平成19年5月10日から5月20日まで基本設計概要書の説明のため、調査団を再度派遣した。

シーギリア遺跡は「ス」国内外から年間60万人以上の来訪者があり、国内で最も魅力的な世界遺産の一つであるにもかかわらず、既存博物館における遺物の収蔵展示は、建物・展示物・展示形態・サービス等のレベルが「ス」国内の他の博物館に比べて明らかに劣っている状況にある。また解説が著しく少なく、歴史の学習に利用できる設備も整っていない。なお遺跡の中心であるシーギリア・ロックの中腹にプレスコポケット、頂上には宮殿跡があるが、これらへのアクセス手段は階段のみであり、高齢者や身体の不自由な来訪者にはアクセスが困難である。

「ス」国新シーギリア博物館整備プロジェクトは、このシーギリア遺跡への関心と理解をより深めるために必要な歴史と文化に関する情報提供、及び観光振興を目的としている。本無償資金協力は、「ス」国新シーギリア博物館整備プロジェクトの完遂に資するため、博物館の展示に必要な機材調達を行うものである。計画にあたり、「ス」国政府の要請と現地調査及び協議結果をふまえて、以下の方針に基づき実施することとした。

展示計画及び機材計画は、新シーギリア博物館が重要な世界遺産を紹介する遺跡博物館であること、全世界からより多くの見学者を迎えることを考慮し、世界遺産の展示に相応しいレベルの展示を目指

して策定する。そのために、「ス」国内の既存博物館では達成できていない「見学者への配慮」と「展示の一貫性」を実現する計画とする。具体的には見学者の視点を考慮した展示デザイン（わかりやすい誘導と表示、展示品と解説の量のバランス、展示空間やパネル内での図画・文字の配分やバランスなど）、見学者の興味を持続させる物語性、わかりやすい見学動線、展示の起伏を作り、単に遺物陳列で終わらない展示手法など、日本の博物館展示技術を参考にして世界遺産に相応しい博物館作りを目指す。

機材のグレードについては、「ス」国内の他の博物館と比較して極端に高いあるいは低いといったように著しくバランスを欠くことがなく、華やかな装飾、不要に先進的な展示機材、維持管理の難しい機材、不必要に高額な機材の導入を避ける。また、来館者が直接目にする展示ケースなどの機材は、諸外国から多数の来館者が訪れることが想定されるため、国際的な水準を基本としてシーギリア遺跡の価値を損なわないグレード、遺跡から出土した遺物の展示保存が可能なグレードの確保に留意する。

機材内容は以下のとおりである。

機材名	用途	数量
展示ケース	土器・石器・鉄器・装身具等の展示物を収納・展示する。	19 台
展示台	石像・塑像等を展示する。	5 台
演示具	石像・塑像・土器・鉄器を演示する。	66 台
館内案内表示	博物館平面図を用いた全館案内を表示する。	1 台
エリア表示	エリア名・エリア平面図・エリア概略を表示する。	2 台
ギャラリー表示	ギャラリー名・ギャラリー平面図・ギャラリー概略を表示する。	7 台
展示パネル	図版、解説、写真等による展示を行う。	※56 枚
展示パネル (発光表示地図)	考古学的時代毎の変遷を表示し、シーギリア遺跡の各時代における位置づけを展示する。	1 台
展示パネル(内照式)	シーギリア・ロックの地質と写真を照合させて展示する。	1 台
地形モデル	シーギリア・ロックを中心とした地形モデルをガラス床下に展示する。	1 式
人骨発掘現場復元地型	人骨発掘状況を再現して展示する。	1 式
巨石墓レプリカ	石棺発掘状況を再現して展示する。	1 式
溶鉱炉レプリカ	溶鉱炉の発掘状況を再現し、溶鉱炉本体を想像復元して展示する。	1 式
フレスコポケットレプリカ	岩壁形状及びフレスコ画の忠実な複製を展示する。	1 式
AV システム	シーギリア地域の観光案内を兼ね、映像によるオリエンテーションを行う。	1 式
プロジェクターシステム (ギャラリー3 用)	シーギリア・ロック頂上の宮殿の想像復元図等について、複数案を投影展示する。	1 式
オーディオシステム	落書き詩を朗読する音声による演出を行う。	1 式
プロジェクターシステム (オーディトリウム用)	主に団体利用客、英語以外の音声案内を必要とする外国人を対象に、映像展示・解説を行う。	1 式
展示照明	展示に適した照度を確保する。	205 台

※のうち、3枚は印刷シートを壁直貼、パネルなし

④ プロジェクトの工期及び概算事業費

本プロジェクトを日本国政府による無償資金協力で実施する場合、実施設計業務に 1.5 ヶ月間、入

札業務に2.0ヶ月間、機材調達に14.5ヶ月間、合計18.0ヶ月間を要する。概算事業費は約2.12億円（日本側負担1.70億円、「ス」国側負担0.4260億円）である。

⑤ プロジェクトの妥当性の検証

シーギリア遺跡の既存博物館は、建物、展示物、展示形態、サービス等のレベルにおいて、国内の他の博物館と比べて明らかに劣っている状態にある。「ス」国政府は、観光開発を外貨獲得のための重要政策と位置づけており、シーギリア遺跡を世界遺産に相応しいレベルに整備するため、アクセス道路及び遺跡内インフラの整備、新シーギリア博物館の建設に着手している。

本プロジェクトは、全体計画における新シーギリア博物館の展示機材の整備であり、直接効果としては、以下の効果が期待される。

- 1) 既存博物館にはない貴重遺物等のケース保護展示19点、モデル・レプリカ展示5点、パネル展示55点、映像展示5点などが新たにわかりやすく展示され、国内外の来訪者がシーギリア遺跡への関心・理解を深めることができる。
- 2) 「ス」国の教育プログラムにも組み入れられている歴史・文化の学習の場として学生・学校関係者に利用される機会が増加する。
- 3) フレスコポケットやロック頂上の宮殿跡等、高齢者や身体の不自由な来訪者にとって実物へのアクセスが困難な文化財について、レプリカや映像等の展示を通じて観覧できるようになる。

また、間接効果としては、以下の効果が期待される。

- 1) シーギリア遺跡の来訪者に対する博物館利用者の割合が増加する。
- 2) シーギリア遺跡の歴史・文化価値が「ス」国内外において再認識され、シーギリア遺跡への訪問者が増加し、周辺地域において観光振興に寄与する。
- 3) 観光振興により周辺地域の活性化が図られ、地域住民の生活レベルが向上する。

本プロジェクトは、上述のように多大な効果が期待できると同時に、シーギリア遺跡が世界の財産として共有されることに寄与するものであることから、全体整備プロジェクトの一部に対して我が国の無償資金協力を実施することの妥当性が認められる。また、本プロジェクトの運営・維持管理についても、相手国体制において人員・技術・予算とも十分で実施上の問題はないと考えられる。

なお、本プロジェクトがより円滑かつ効果的に実施されるためには、新シーギリア博物館の建設工事、内装および設備工事、解説文・図版・写真等展示情報の提供など、無償資金協力の実施工程に影響する「ス」国側分担事業が遅滞なく実施されることに留意する必要がある。

さらに、新シーギリア博物館を通じて、技術協力プロジェクトによる支援、観光セクター開発計画との連携を積極的に活用し、地域の観光振興や開発、新シーギリア博物館を中心とした博物館間連携・遺跡間連携、博物館の運営・教育・普及・広報などの諸活動において「ス」国類似施設の先達となる新たな取り組みを実施すれば、「ス」国の観光振興に向け、本プロジェクトはより効果的なものとなると考えられる。

目 次

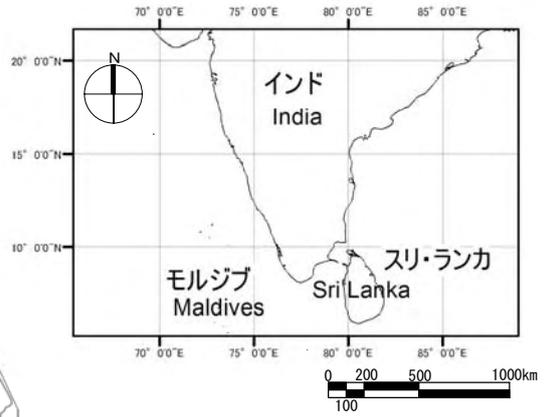
序文	
伝達状	
要約	
目次	
位置図／写真	
図表リスト／略語集	

第1章 プロジェクトの背景・経緯	1
1-1 当該セクターの現状と課題.....	1
1-1-1 現状と課題.....	1
1-1-2 開発計画.....	2
1-1-3 社会経済状況.....	3
1-2 無償資金協力要請の背景・経緯及び概要.....	4
1-3 我が国の援助動向.....	5
1-4 他ドナーの援助動向.....	7
第2章 プロジェクトを取り巻く状況	11
2-1 プロジェクトの実施体制.....	11
2-1-1 組織・人員.....	11
2-1-2 財政・予算.....	13
2-1-3 技術水準.....	15
2-1-4 既存施設・機材.....	18
2-2 プロジェクト・サイト及び周辺の状況.....	18
2-2-1 関連インフラの整備状況.....	19
2-2-2 自然条件.....	22
2-2-3 環境社会配慮.....	23
2-2-4 プロジェクトに関連する社会状況.....	23
第3章 プロジェクトの内容	25
3-1 プロジェクトの概要.....	25
3-2 協力対象事業の基本設計.....	27
3-2-1 設計方針.....	27
3-2-2 基本計画（展示計画／機材計画）.....	29
3-2-2-1 展示計画.....	29
3-2-2-2 機材計画.....	37
3-2-3 基本設計図.....	41
3-2-4 調達計画.....	48

3-2-4-1	調達方針	48
3-2-4-2	調達上の留意事項	49
3-2-4-3	調達・据付区分	49
3-2-4-4	調達監理計画	50
3-2-4-5	品質管理計画	52
3-2-4-6	資機材等調達計画	53
3-2-4-7	初期操作指導・運用指導等	55
3-2-4-8	ソフトコンポーネント計画	55
3-2-4-9	実施工程	55
3-3	相手国側分担事業の概要	57
3-4	プロジェクトの運営・維持管理計画	58
3-5	プロジェクトの概算事業費	60
3-5-1	協力対象事業の概算事業費	60
3-5-2	運営・維持管理費	61
3-6	協力対象事業実施に当たっての留意事項	62
第4章	プロジェクトの妥当性の検証	63
4-1	プロジェクトの効果	63
4-2	課題・提言	66
4-2-1	相手国側が取り組むべき課題・提言	66
4-2-2	技術協力等との連携	67
4-3	プロジェクトの妥当性	72
4-4	結論	73

[資 料]

1. 調査団員・氏名
2. 調査行程
3. 関係者（面会者）リスト
4. 討議議事録（M/D）
5. 事業事前評価表（基本設計時）
6. 参考資料／入手資料リスト
7. その他の資料・情報



位置図

写 真



プロジェクト・サイト周辺(シーギリア・ロック)
シーギリア遺跡は年間60万人以上の来訪者がある世界遺産。中心は垂直に約200m切り立った岩山。



プロジェクト・サイト周辺(案内板)
シーギリア遺跡内にあるノルウェー開発協力局の援助による案内板。シンハラ語、タミル語、英語を併記。



プロジェクト・サイト周辺(フレスコポケット外部)
アクセスは螺旋階段のみで、身障者・高齢者等にとってアクセスが困難。



プロジェクト・サイト周辺(フレスコポケット壁画)
美術的にも特筆すべき遺構である美女(一説では天女)のフレスコ画が遺る。



既存博物館・外部
国家遺産省考古局が運営する既存博物館。利用率は低い。新シーギリア博物館完成後に取り壊す予定。



既存博物館・内部
遺物の収蔵展示は、解説が少なく、建物・展示物・展示形態・サービス等のレベルが低い。



プロジェクト・サイト(新シーギリア博物館)

2008年3月竣工予定で建設中。遺跡及び自然環境保護区域内にあり、小川を跨ぎ自然と一体になる設計。



オーデトリウムの設備(ポロンナルワ博物館)

ポロンナルワ博物館では約50席のオーデトリウムが整備され、視聴覚機材を利用したオリエンテーション、公開セミナー、講演に活用。



壁画・フレスコ画の複製画

ダンブッラ絵画博物館では壁画・フレスコ画の複製画を収蔵展示。シーギリア遺跡・フレスコポケット壁画の複製画も収蔵。



展示パネル

コロンボ・国立博物館の展示パネルの解説は、シンハラ語・タミル語・英語を併記。

図表リスト

第1章

- 表 1-1 我が国の援助動向
- 表 1-2 他ドナー国・国際機関の援助動向（文化分野）
- 表 1-3 NORAD による案内板・地図の整備状況
- 表 1-4 CCF が関連するオランダ政府の援助

第2章

- 表 2-1 文化大臣、国会遺産大臣職掌区分
- 表 2-2 文化遺産省予算
- 表 2-3 CCF 予算
- 表 2-4 類似施設の概要
- 表 2-5 シーギリア遺跡周辺施設の概要
- 表 2-6 シーギリア地方(北緯 8.12 度、東経 80.47 度)の月間平均気温(2002～2006 年)
- 表 2-7 シーギリア地方(北緯 8.12 度、東経 80.47 度)の月間平均湿度(2001～2005 年)
- 表 2-8 シーギリア付近(北緯 7.85 度、東経 80.64 度)の月間降水量 mm(2002～2006 年)

- 図 2-1 文化省組織図
- 図 2-2 CCF 組織図
- 図 2-3 プロジェクト・サイト及び周辺概略図
- 図 2-4 プロジェクト・サイト及び周辺道路整備計画図
- 図 2-5 「ス」国の教育システムと歴史教育

第3章

- 表 3-1 日本側負担機材計画の概要
- 表 3-2 機材配置計画
- 表 3-3 「ス」国側負担機材計画の概要
- 表 3-4 調達・据付区分表
- 表 3-5 コンサルタントの実施設計体制
- 表 3-6 機材調達先
- 表 3-7 新シーギリア博物館の要員配置計画
- 表 3-8 概算事業費（日本側負担経費）
- 表 3-9 「ス」国側の負担内容及び経費
- 表 3-10 本事業実施による維持管理費

- 図 3-1 プロジェクトの概要
- 図 3-2 機材据付対象室配置図
- 図 3-3 ロビー及びビジター・オリエンテーション・ロビー平面図
- 図 3-4 ミニオーデトリウム平面図
- 図 3-5 ギャラリー 1～5 平面図
- 図 3-6 フレスコギャラリー平面図
- 図 3-7 壁面展示イメージ図
- 図 3-8 事業実施関係図
- 図 3-9 事業実施工程表

第 4 章

- 表 4-1 プロジェクトの効果
 - 表 4-2 プロジェクト形成調査で検討された技術協力プロジェクトの方向性
-
- 図 4-1 外国人のアクセス状況
 - 図 4-2 将来の来訪者アクセス経路

略語集

略語	英文	和文
A/P	Authorization to Pay	支払授權書
ASEAN	Association of South-East Asian Nations	東南アジア諸国連合
AV	Audio Visual	視聴覚
B/A	Banking Arrangement	銀行取極
CCF	Central Cultural Fund	中央文化基金
CEA	Central Environmental Authority	中央環境局
DWNR	Department of Wildlife and Natural Resources	野生生物・自然資源局
E/N	Exchange of Notes	交換公文
FRP	Fiber Reinforced Plastics	繊維強化プラスチック
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GNI	Gross National Income	国民総所得
HSBC	Hongkong and Shanghai Banking Corporation Ltd.	香港上海銀行
IEA	Initial Environment Assessment	初期環境評価
IMF	International Monetary Fund	国際通貨基金
IT	Information Technology	情報技術
JBIC	Japan Bank for International Cooperation	国際協力銀行
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers	青年海外協力隊
LED	Light Emitting Diode	発光ダイオード
LTTE	Liberation Tigers of Tamil Eelam	タミル・イーラム解放の虎
M/D	Minutes of Discussions	討議議事録
MHC	Mutual Heritage Centre	両国遺産センター
NORAD	Norwegian Agency for Development Cooperation	ノルウェー開発協力局
PC	Personnel Computer	パーソナルコンピューター
RDA	Road Development Authority	道路局
SAPI	Special Assistance for Project Implementation	案件実施支援調査
SAPROF	Special Assistance for Project Formation	案件形成促進調査
TOR	Terms of Reference	業務指示書
TRIP	Tourism Resources Improvement Project	観光セクター開発計画
UCSC	University of Colombo School of Computing	コロンボ大学 コンピューター独立学部
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
3D	Three Dimensional	3次元

第 1 章 プロジェクトの背景・経緯

第 1 章 プロジェクトの背景・経緯

1-1 当該セクターの現状と課題

1-1-1 現状と課題

スリランカ民主社会主義共和国（以下、「ス」国という）には 7 箇所の世界遺産（うち 6 箇所は世界文化遺産）があり、その他にも文化遺産・遺跡が多く存在する。文化遺産はアヌラダプラ、ポロンナルワ及びキャンディの 3 都市を結ぶ「文化三角地帯」と呼ばれる国の中央部に集中している。シーギリア遺跡は国内最大の都市コロンボから北東約 160km、文化三角地帯の中心、中央州マータレ県シーギリアに位置しており、アジアの中でも重要な考古学遺跡である。

シーギリア遺跡は、西暦 477 年にカシャパ王が 200m の高さにそびえ立つ断崖絶壁の岩山（以下、シーギリア・ロックという）の上に宮殿を建設したことで有名であり、現在に遺るシーギリア遺跡の多くはこの時代に形成されたものである。宮殿の他、王の私庭である「水の庭園」、「ボルダーガーデン」、東側に広がる廷臣の居住域を含む「王城（市街地）」が建設された。これらはアジアにおける早期の都市計画・造園・建築の発展例として考古学的に重要であり、特にシーギリア・ロック頂上の「王宮跡」や中腹の「ライオンの入口階段」は有名である。また、庭園から望めるシーギリア・ロック西側の岩肌に美術的にも特筆すべき遺構である美女（一説では天女）のフレスコ画が残るフレスコポケットがある。

またシーギリア遺跡は、カシャパ王の時代のみならず、「ス」国の歴史全般にわたる遺跡としても重要である。「ス」国の歴史は、先史時代（農耕以前）、原史時代（史書以前）、低地乾燥地帯で中央集権的の巨大王朝が発展した歴史時代前半、南西海岸部に政権が移りポルトガル・オランダをはじめとするヨーロッパの諸勢力に翻弄されはじめた歴史時代後半を経てイギリスの植民地となるが、シーギリア遺跡には先史、原史、歴史時代前半の各期の遺跡や遺構が揃うのみならず、後・近世についてもヨーロッパ勢力への抵抗の歴史などが遺構・遺物として残っている。

シーギリア遺跡は 1982 年に国際連合教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization : 以下、UNESCO という）世界文化遺産に指定されている。同遺跡における文化遺産保護事業については、1980 年に「ス」国文化省の傘下に設置された中央文化基金（Central Cultural Fund : 以下、CCF という）と UNESCO が協力し推進してきた。観光資源としても「ス」国で最も魅力的な世界遺産の一つであるシーギリア遺跡には年間約 60 万人が来訪している。「ス」国を訪れる外国人にも人気が高く、年間 10 万人前後が同遺跡を訪問している。また「ス」国内の修学旅行訪問先としても人気が高い。

しかしながら、シーギリア遺跡には既存の博物館（以下、既存博物館という）があるものの、遺物の収蔵展示のみで解説が少なく、建物・展示物・展示形態・サービス等のレベルが、「ス」国内の他の博物館に比べて明らかに劣っている状況にある。外国人遺跡来訪者の既存博物館への認知度が低いのに加え、大多数の来訪者は遺跡の中心であるシーギリア・ロック見学を優先しているため、博物館の利用率が低い状況である。またシーギリア・ロックの中腹にフレスコポケット、頂上には王宮跡があるが、これらへのアクセス手段は階段のみであり、高齢者や身体の不自由な来訪者にはアクセスが困難である。

近年では、「ス」国の世界遺産において博物館の改装、特に展示のアップグレードと視聴覚施設の整備が推進されているが、シーギリヤ遺跡の既存施設は改装で対応できる状況になく、また遺跡の規模が大きく人気が高いことから、多くの人数を収容でき、かつ水準の高い博物館の建設が望まれている。

「ス」国政府は、観光開発を外貨獲得のための重要政策と位置づけ、その推進に積極的に取り組んでおり、世界遺産に相応しい周辺インフラ、遺跡内インフラ、展示施設などの観光環境を整備し、観光振興を通じて「ス」国経済の発展に貢献することを目指している。シーギリヤ遺跡での課題は、観光施設および教育施設として国内外の観光客の期待に応じることができ、シーギリヤ遺跡見学の新たな拠点となりうる博物館の整備である。

1-1-2 開発計画

(1) 国家開発計画 10 ヶ年戦略（「ス」国政府、2006～2016 年）

国家開発計画 10 ヶ年戦略計画書（2006 年～2016 年）（Mahinda Chintana: A Ten Year Horizon Development Framework 2006-2016）において、「ス」国政府は年間 8%超の GDP 成長率という目標を達成するための戦略として、国内民間企業の育成と海外からの投資の促進による市場経済政策を打ち出している。同計画書では、観光セクターを含むサービス分野において年間 9～10%の成長を目指すとされており、雇用促進と外貨獲得のための観光セクター開発促進が、国の重要政策の一つとして位置付けられている。また文化セクターの開発戦略では、「国民及び国外の人々による「ス」国文化と歴史の重要性、国内の遺産や遺跡の価値への理解を促す」が目的として示され、具体的な計画として文化開発計画(2007 年～2016 年)が策定されている。この計画において、シーギリヤ博物館（以下、新シーギリヤ博物館という）を含む重点博物館 4 館の新設または改修が文化財保護に係る目標達成のための手段として位置付けられている。あわせて都市計画開発セクターでは、シーギリヤ遺跡が所在するダンプッラ地区が開発重点地区 7 ヶ所の一つにあげられ、交通、観光、農業の要衝となることが期待されていると同時に、考古学遺跡の保護が開発計画に含まなければならないことが明示されている。

(2) 国家文化政策案（文化遺産省、2006 年）

2006 年に文化遺産省（現在の文化省）が策定した文化政策案（Proposed National Cultural Policy of Sri Lanka）において、国家アイデンティティ、文化遺産、工芸技術、民俗伝統、言語文学の確立について言及し、その総合的ビジョンとして「様々な文化遺産に恵まれた国として自覚を持つ」ことを打ち出している。

この文化政策案では、文化遺産に関わる政策として「ス」国内の遺産・遺跡を将来のために保護・保存すること、遺産・遺跡の破壊や破損を阻止すること、「ス」国独自の文化を自覚し「ス」国人としてのプライドを育むために博物館等を利用すること、有形・無形を含めた遺産を宣伝・広報し、国内外の意識を高めること、そしてこれらの活動において遺産・遺跡の保護を第一とすることがあげられている。

(3) 10 カ年政策開発構想 (CCF、2007～2016 年)

本無償資金協力プロジェクトの実施機関である CCF は、「ス」国内の世界遺産の保護・保存活動を行っており、2007 年からの 10 カ年政策開発構想 (Development of a 10-Year Policy Framework for the Central Cultural Fund (2007-2016)) において、初期(3 年以内)、中期(4～7 年)、長期(5～10 年) の戦略を展開している。長期の総合目標としては「エコ・文化観光ゾーンの開発」、「東部・南部の文化観光開発」、中期目標としては「「ス」国の文化観光・世界遺産観光地としての広報」、「草の根の文化遺産保護意識の養育」、初期目標としては「各遺跡サイトにおける遺跡博物館や情報センターの整備」、「各サイトの美化」、「外国人観光客誘致目的の施設整備」、「遺跡の重要性、保護の重要性の啓蒙」等をあげている。また初期の戦略を達成するための具体的目標の一つが、新シーギリア博物館の整備であると明示されている。

「ス」国では、自国の文化と文化遺産の豊富さを強く意識し、対外的にも「文化の宝島」というアイデンティティを押し出そうとしており、国家レベルの開発計画、省レベルの文化政策、実施機関レベルの政策開発構想という各層において、新シーギリア博物館の整備が重点計画のひとつとして位置づけられている。

1-1-3 社会経済状況

「ス」国はインド南端から約 30km 南東に位置し、面積 65,607 km² のインド洋に浮かぶ島嶼国である。「ス」国の人口は 1,967 万人 (2005 年) であり、大多数 (73%) はシンハラ人であるが、タミル人、スリランカ・ムーア人なども混在する。公用語はシンハラ語、タミル語であるが連結語の英語も使用している。

一人当たりの GNI は 1,010 米ドル (2004 年、出典：外務省「ODA ホームページ」)、2006 年の産業別内訳は第一次産業の GDP 比率が 17.3%、第二次産業が 27.3%、第三次産業が 55.4% である (出典：アメリカ中央情報局)。

「ス」国政府は 1983 年以降悪化した経済状況の建て直しを図るため、世界銀行・国際通貨基金との合意に基づき 1988 年より財政支出の削減、公的企業の民営化、為替管理を含む規制緩和等を内容とする構造調整政策を実施してきている。2001 年はマイナス成長であった経済は、2002 年に入ってプラスへと転換し、年後半には力強い成長となった。これは主として、和平プロセスの進展により国内経済の環境が良好となったことによるものであるが、その他の要因に政策金利の抑制等による金融政策、財政改善努力、構造改革の進展、世界経済の回復による国際環境の変化等の影響もあげられる。

近年では、治安情勢の悪化、津波災害をはじめとする自然災害、国際的な原油価格の高騰等のマイナス要因はあるものの、サービス業が堅調に推移するなど、全体としては 5～6% 程度の成長率を維持している。

(特記以外の出典：外務省「各国・地域情勢」)

1-2 無償資金協力要請の背景・経緯及び概要

シーギリア遺跡は、ユネスコ世界遺産に登録された国際的に貴重な文化遺産であり、「ス」国内のみならず全世界から多くの来訪者を迎えていることから、上述の国家開発計画における観光セクター、文化セクター、都市計画開発セクターの方針に基づき、「ス」国政府は新シーギリア博物館の整備を計画した。この整備プロジェクトは、「1)施設の建設、2)展示機材の整備、3)施設の運営、4)周辺環境の整備」により構成され、2009年度の新シーギリア博物館の開館に向けて準備が進められている。

1)施設の建設については、シーギリア遺跡に国家遺産省(旧文化遺産省)考古局の運営する既存博物館が存在するが、規模・内容ともに観光客の満足するレベルにないため、2004年度に新たな博物館の建設が文化遺産無償資金協力として日本政府に要請された。予備調査を実施した結果、先方の要請内容が文化遺産無償資金協力の規模に適さないことが判明したため、無償資金協力による実施は見送られた。そのため、「ス」国政府は、貧困農民支援(2KR)の見返り資金を活用し新シーギリア博物館の建設を実施することにした。現在2008年3月の竣工に向けて建設中である。3)施設の運営に関しては、2006年7月に「博物館活動を通じたシーギリア地域の観光振興に関する技術協力プロジェクト」が要請され、技術協力の方向性を検討するための観光振興プログラム(シーギリア博物館活動振興)プロジェクト形成調査が2006年9月に実施された。調査結果を受け、同博物館の運営強化を含むシーギリア遺跡を拠点とした観光開発の技術協力プロジェクトが2008年度の実施に向け検討されている。4)周辺環境の整備については、国際協力銀行(JBIC)による2004年度の案件形成促進調査(SAPROF)を経て、円借款による観光セクター開発計画の一環として、シーギリア遺跡へのアクセス道路及び遺跡内インフラ(シーギリア・ロックへの登坂ルート等)の整備が実施され、2009年3月に完工する予定である。

全体整備プロジェクトにおける2)展示機材の整備の部分が、本件要請プロジェクトである。新シーギリア博物館の展示機能強化を目的とし、2005年10月に映像ソフトの作成及び上映のための機材供与等が一般文化無償資金協力として要請された。しかし、博物館の全体コンセプト及び機材内容が不明確であったため、上述のプロジェクト形成調査において「ス」国側と展示コンセプトについて確認し、日本の展示技術を導入した施設内の展示計画及び必要な機材の整備計画の整理がなされた。この調査結果を受け、「ス」国政府は無償資金協力の要請内容を見直し、2006年11月に展示用機材を中心とした機材の供与・据付を改めて要請した。

以上の要請の経緯から、無償資金協力の協力対象範囲として検討されるのは、博物館施設に必要な機材のうち、展示関連機材の調達・据付整備となる。

シーギリア遺跡の発掘・研究活動は、UNESCOのアドバイスが開始された1980年代から特に活発に行なわれており、実施機関CCFの一部門である「CCFシーギリア・プロジェクト事務所」がスタッフ308名の体制で発掘・研究及び保存整備活動を継続している。

博物館については、シーギリア遺跡出土遺物等を収蔵した国家遺産省考古局の運営する既存博物館が存在するが、既存博物館の展示品すべてを新シーギリア博物館に移管し、既存博物館は取り壊す予定である。新シーギリア博物館整備に伴い、CCFシーギリア・プロジェクト事務所は新シーギリア博物館内に拠点を移動し、博物館内の研究・収蔵部門として活動する予定である。

関係機関、要請内容及び新シーギリア博物館の展示コンセプトは、以下のとおりである。

(1) 関係機関

- ・ 主管官庁：文化省
- ・ 実施機関：中央文化基金（CCF）

(2) 要請内容

要請内容は、以下の展示関連機材の調達・据付整備である。

- ・ 展示用機器類： 展示ケース、展示台、演示具、展示パネル類
- ・ 展示用表示類： 館内案内・エリア・ギャラリー表示、キャプションボード
- ・ 展示モデル・レプリカ類：地形モデル、ウォーターガーデン水利模型、巨石墓レプリカ、人骨レプリカ、溶鉱炉レプリカ、ミラーウォールレプリカ、フレスコポケットレプリカ
- ・ 視聴覚機器類等： フラットパネルモニター、オーディオシステム、プロジェクターシステム、コンピューター・ネットワーク、タッチパネル式検索システム、展示照明
- ・ その他： 入場券収集・計数ユニット、チケットカウンター、セキュリティ・システム

(3) 展示コンセプト

新シーギリア博物館は、観光目的で訪れる見学者にも対応できる、ビジターセンターの要素を兼ね備えた博物館施設として計画されている。新シーギリア博物館は博物館活動・機能のうち、「展示」と並んで「教育・普及」、特に観光客として遺跡を訪れる見学者への情報提供に重点を置いている。このような新シーギリア博物館特有の施設計画を踏まえ、考古学博物館としてだけでなく、観光目的で訪れる見学者にも利用しやすくするため、「展示を通じて博物館空間とビジターセンター空間を敢えて明確に分離する」、「幅広い客層にアピールし、展示内容が体感できる展示を目指す」という二つの展示コンセプトがプロジェクト形成調査で検討された。本調査では、この展示コンセプトに基づき基本設計調査を実施し、展示計画を策定した。

1-3 我が国の援助動向

(1) パートナーシップ

「ス」国は、我が国に対する戦後賠償を自発的に放棄し、戦後における我が国発展のための政治的・経済的な国際環境の形成に大きく貢献した伝統的な親日国であり、1948年の独立以来、基本的に民主選挙により政権選択を維持してきている民主主義国である。経済政策においては、1977年に市場開放経済が導入され、1980年代後半には肥大化した公的部門の整理と対外債務の削減を推進、2002年末には「リゲイニング・スリランカ」として民間市場経済の活性化を通して経済発展を目指す政策

が発表され、高く評価されている。

1952年の国交樹立以来、我が国と「ス」国との間には、特に大きな政治的懸案もなく、貿易、経済・技術協力を中心に良好な関係が続いている。近年においては、「平和の定着」への貢献に資するとの観点から、明石康元国連事務次長を「ス」国の平和構築及び復旧、復興に関する政府代表に任命し、「スリランカ復興開発に関する東京会議」を開催するなど、スリランカ和平プロセスを積極的に支援している。

(2) 当該セクターにおける我が国の援助動向

当該セクターにおける我が国の援助動向は表 1-1 のとおりである。

表 1-1 我が国の援助動向

実施年度	機関名	案件名	援助形態	概要
1996～2003	JICA	文化財修復整備技術コース	研修員受入	1996、1997、1998、2000、2001、2003年度各1名
1997	外務省	コロンボ国立博物館図書館マイクロフィルム機材供与	文化無償	機材調達
1998	JICA	文化研修所楽器	文化無償	機材調達
1999	外務省	ジョン・デ・シルヴァ国立劇場に対する音響・照明機材	文化無償	機材調達
2001	外務省	国立教育研究所西洋音楽研修センターに対する楽器輸送費供与	文化無償	輸送費供与
2001	外務省	タワーホール劇場に対する音響・機材供与	文化無償	機材調達
2002～2005	JICA	情報分野人材育成計画	技術協力プロジェクト	コロンボ大学コンピューター独立学部におけるIT人材育成（シーギリア遺跡を題材とした試作3Dソフト作成を含む）
2003	日本大使館	アマラーダプラ和平文化振興計画	草の根無償	ローカルNGOへの活動支援
2005～	JBIC	観光セクター開発計画	有償資金協力	シーギリア、ネゴンボ等、「ス」国内計6地域におけるマーケティング・プロモーション、人材育成、インフラ整備および住民への啓発活動
2006	JICA	観光振興プログラム（シーギリア博物館活動振興）	プロジェクト形成調査	シーギリア博物館を核とした観光振興技術協力を含む支援についての協議、確認
2008～（予定）	JICA	新シーギリア博物館を通じての観光振興計画	技術協力プロジェクト	新シーギリア博物館を通じての観光振興、博物館活動・運営、教育・普及・広報活動、地域・観光振興支援

(3) 青年海外協力隊の活動

「ス」国には、1981年に青年海外協力隊（以下、JOCV という）の派遣取り決めが締結されて以降、延べ 688 名を超える JOCV が派遣されてきた。そのうち、スポーツ・文化振興プログラムは主に日本語教師など、競技者や学習者対象 JOCV の派遣を行なってきた。文化財関連の支援としては、1990 年代前半に世界遺産であるアヌラーダプラ市において考古学分野に JOCV が継続して投入されている。現行の同市への考古学分野の JOCV 派遣（2005 年～2007 年予定）は、観光サブ・セクターにおける投入という位置付けである。（出典：JICA）

1-4 他ドナーの援助動向

当該セクターにおける他ドナー等の援助動向は表 1-2 に示すとおりである。

表 1-2 他ドナー国・国際機関の援助動向（文化分野）

年度	ドナー名	プロジェクト名（英名／和名）	金額	援助形態
1982-96	ユネスコ	UNESCO-SRILANKA Project of the Cultural Triangle –to conserve & World Heritage Site／世界遺産保存—文化三角、ユネスコ-スリランカ計画	15,875	技術協力
1991-93	中国政府	Construction of a Museum and Interpretation center, Abhayagiriya /アバヤギリヤ博物館・解説センター建設計画	49,482	無償資金 技術協力
1996-98	オランダ政府	Establishment of Polonnaruwa Museum／ポロンナルワ博物館設立計画	10,822	技術協力
2002-04	オランダ政府	Conservation of the Dutch of Reformed church, Galle／ゴール、オランダ改革派教会保存計画	13,773	資金協力
2004	UNDP／国連開発計画	Laboratories in CCF Anuradhapura／国連開発計画による古建築材料研究、写真測量、年代測定ラボ整備	162	資金協力
2004-06	NORAD／ノルウェー開発協力局	Presentation, Information and Monitoring change of World Cultural Heritages Sites in Sri Lanka／スリランカ世界遺産劣化監視、紹介、情報計画	35,247	無償資金
2006-09	オランダ政府	The Netherlands-Sri Lanka Cultural Cooperation Program／オランダ・スリランカ文化協力計画	702,074 (予算額)	資金協力 技術協力

（単位：千 LKR : (スリランカルピー)）

(1) ノルウェー開発協力局（NORAD）

CCF は文化三角地帯の世界遺産サイト（アヌラーダプラのジェットワナ遺跡及びアバヤギリヤ遺跡、ポロンナルワ、シーギリヤ、ダンプッラ、キャンディ）を管轄し、1982 年以来「総合的な研究・調査・修復」、「教育と普及」、「周辺調査」を柱に活動を行っていた。ほぼ全域でこれらの活動が完了間近となった現状を踏まえ、次段階として「遺跡の紹介と情報提供、遺跡のモニタリング・記録システムの整備」(Program on Presentation, Information and Monitoring and Recording Change of World Cultural Heritage Sites in Sri Lanka)を打ち出し、これを受けてノルウェー開発協力局 (The

Norwegian Agency for Development Cooperation : 以下 NORAD という) が全面的に援助した。

NORAD の援助は博物館・情報センター改修、視聴覚機材整備、案内板や地図の整備、案内板に合わせたパンフレットやガイドブック等情報印刷物の整備、文化観光による遺跡の劣化を防ぐ環境モニタリング、人材の相互交流から成る。このような援助を通じて、世界遺産に関する観光活動の振興という面、特にシーギリア遺跡における次段階の整備の達成という面で本プロジェクトとの相乗効果が大きいと期待される。

なお、シーギリア遺跡における NORAD の援助は遺跡内および周辺の案内板・地図整備と遺跡の環境モニタリングなどに充てられており、我が国の博物館整備への協力(貧困農民支援の見返り資金及び無償資金協力)との重複はない。

- 1) 援助期間 : 2004~2006 年
- 2) 総 額 : 18,000,000NOK (ノルウェークローネ) (約 38,770 千円)
- 3) 概 要 : ①~⑤を含む CCF 管轄の文化三角地帯世界遺産の紹介、情報提供活動等に関する技術協力および資金協力

① 遺跡博物館及び情報提供センターの改修・改良

- アバヤギリヤ遺跡博物館 : 既存博物館の屋内レイアウト改修と見学動線変更、床改修、
展示台(レンガ、木材)作成、セキュリティ警報システム設置、展示照明設置、
展示パネル製作・設置、視聴覚機材の整備
- ジェトワナ遺跡博物館 : 既存博物館の改修(屋根修理)、展示パネル製作・設置、
視聴覚機材の整備
- キャンディ情報センター : 視聴覚機材の整備

② 案内板・地図の整備

- 主要アクセス道路から遺跡・遺産エリアまでの道順案内
- 遺跡内の主要モニュメントへの道順案内
- 駐車場内の地図付きビジター施設案内
- 遺跡内の保存と保全のための注意点、ビジター施設案内等のビジター情報案内
- 主要モニュメントの案内(名称、時期、機能等基礎情報の紹介)
- その他遺構・モニュメントの簡略な案内

表 1-3 NORAD による案内板・地図の整備状況

サイト	案内板の種類						合計
	主要アクセス 道順案内	遺跡内 道順案内	施設 案内	情報 案内	主要モニュメント 案内	その他 遺構案内	
アバヤギリヤ	7	21	3	75	36	139	281
ジェトワナ	4	2	-	37	24	87	154
ポロンナルワ	4	27	3	116	41	254	495
シーギリア	9	-	2	51	17	24	103
合計	24	50	8	329	118	504	1,033

③ 情報印刷物の作製（使用言語：シンハラ語、英語）

（対象サイト：アヌラーダプラ、ポロンナルワ、シーギリヤ、キャンディ）

遺跡パンフレット（歴史、重要性、営業時間、主な遺構・モニュメント、施設情報等）

ガイドマップ（主な遺構・モニュメント、アクセス道路、遺構、施設等の簡略な紹介）

ガイドブック（遺跡案内版番号に合わせた構成、必見度ランキング表示、歴史、観光情報、
アクセス道路、遺構・施設等の簡略な紹介、アドバイス等）

絵葉書、ポスター

④ 世界遺産の変化記録と環境モニタリング

（対象サイト：アヌラーダプラ、ポロンナルワ、シーギリヤ、キャンディ）

遺構・モニュメントのモニタリング（シーギリヤ 8 遺構含む合計 39 遺構）

モニタリング機材整備（pH メーター等科学分析機材、コンピューター等）

コロombo大学コンピューター独立学部でのモニタリング・データベース開発

⑤ 研究人材交流

ノルウェーより考古学・保存工学専門家各一名派遣（2 週間）

「ス」国より考古・建築・保存・学芸員計 4 名研修員受入れ（2 週間）

(2) オランダ政府

オランダの援助は、政府のみならずオランダ国内各団体の援助もオランダ大使館が管轄している。主にオランダに直接係わる文化財・史跡を援助対象としており、1998 年にポロンナルワ博物館改装の技術・資機材面をオランダのライデン大学及び大学博物館が支援したという例外を除き、オランダ・「ス」国関係の歴史理解を深めることを主目的としている。

2006 年には、両国の文化協力史における画期的なイベントとして、4 年間に渡る約 8 億円の技術・資金協力を「ス」国南部の世界遺産でありオランダ植民地時代の雰囲気色が濃く残る城砦都市ゴールを中心に展開する大型プロジェクトが発表された。このプロジェクトでは 11 種 20 項目の活動内容が予定されており、旧文化遺産省が主管官庁となって CCF を含む各実施機関を統率する。

この大型プロジェクトはシーギリヤを含む文化三角地帯に加え、文化三角地帯を南部にも発展させ、観光振興を図るというコンセプトにしたがって計画されている。長期的には文化観光地としての「ス」国の魅力を増加させるため、本無償資金協力プロジェクトとの相乗効果が期待される。援助対象地が異なるため、本無償資金協力プロジェクトとの重複はない。

1) 援助期間：2006～2009 年

2) 総 額：702,074, 000 LKR (スリランカルピー) (約 800,000 千円)

3) 概 要：「ス」国南部地方の遺跡の保護・保存と観光振興活動に関する 11 種 20 項目の
技術協力および資金協力

① オランダ倉庫計画（4 項目）

② 古城壁保護（3 項目）

③ ゴール砦の旧排水システムの修復

④ マタラ星砦の保存と景観

- ⑤ カツワナ南砦の保存と景観
- ⑥ ウルボッカダムの保存と景観
- ⑦ カタラガマのビジターセンターと博物館建設
- ⑧ ゴール砦の私邸所有者援助
- ⑨ 南部の文化観光振興援助
- ⑩ マタラのオランダ教会保存
- ⑪ 両国遺産センター（MHC：Mutual Heritage Centre）への一般支援（5項目）

11種20項目のうち、2007年にCCFと関連して実施が予定されている援助は表1-4の通りである。

表 1-4 CCF が関連するオランダ政府の援助

種別	CCF が実施する項目	2007年予算	(総額)	実施期間
①オランダ倉庫計画	建物の保存とビジターセンター整備	14,575	(30,575)	2006-07
	博物館等の整備	38,000	(91,000)	2006-08
	ビジター用施設の整備	6,500	(10,500)	2007-08
②古城壁保護	第 I・II 期	45,000	(120,000)	2007-09
⑪両国遺産センター (MHC)への一般支援	CCF への運営予算補助	50,000	(176,571)	2006-09
	MHC の能力強化と技術協力	5,036	(13,237)	2006-09

(単位：千 LKR (スリランカルピー))

(3) その他ドナー・国際機関

1982 年以来 UNESCO をはじめとする国際機関が CCF と密接に協力しつつ、シーギリアを含む文化三角地帯の世界遺産に関する調査・修復・整備を推進してきた。この時期に中国やオランダの援助によるアヌラダプラ及びポロンナルワの博物館整備、他ドナーの援助による発掘調査などが行われた。その後、文化三角地帯の世界遺産は大型の研究調査及び整備がほぼ完了した状態となり、上述 NORAD プロジェクトによる整備以外には、2004 年の国連開発計画によるアヌラダプラ考古研究設備整備に対する小額援助があったのみである。

2000 年以降は南部、特にゴールを中心としたオランダ植民地時代の遺跡・遺産の整備に焦点が移り、上述のオランダの大型プロジェクトも開始している。現在、シーギリアでは他ドナー・国際機関は活動していない。

第2章プロジェクトを取り巻く状況

第2章 プロジェクトを取り巻く状況

2-1 プロジェクトの実施体制

2-1-1 組織・人員

本プロジェクトの主管官庁は文化省、実施機関は CCF である。2007 年 1 月の現地調査時点では、主管官庁は文化遺産省であったが、機構改革により文化遺産省は文化省と国家遺産省に分割された経緯がある。

文化遺産省は有形文化財（動産・不動産、私有・国有含む）、無形文化財（音楽、舞踊、儀式、文学等）全ての統括省となっており、有形文化財は考古局、CCF、国立博物館局、国立公文書局が分野毎に担当し、無形文化財は文化局の担当となっていた。しかし、現地調査期間中の 2007 年 1 月 28 日に政府機構改革が発表され、1 月 31 日付で文化遺産省は文化省と国家遺産省に分割されることとなり、次いでその週末に新国家遺産大臣の更迭が発表された。このような状況下、現地調査期間中は具体的な省別の分担内容等の詳細は示されず、新文化省により従前の対応がなされ、基本設計概要書案の説明時に本計画の責任機関としての役割と内容は従前と変わらないことを確認した。なお、現地調査時の討議議事録（M/D）に署名を行なった文化遺産省次官は、新文化省次官として本計画を継続担当している。なお 2007 年 2 月には更迭された新国家遺産大臣が復職した。

機構改革後の各大臣の職掌は表 2-1 のとおりであり、実施機関の CCF は文化大臣管轄となっている。また文化省の組織構成は図 2-1 のとおりである。

表 2-1 文化大臣、国会遺産大臣職掌区分

文化大臣(Minister of Cultural Affairs)	
管轄局・管轄団体	分野・機能
文化局	文化に関する政策・計画・プログラムの実施
タワーホール劇場基金	演劇、音楽、舞踊の育成と推進
国立映画公社	文化協議会に関する事項とその運営
国立芸術協議会	—
公共上演会議	—
国立演劇センター	—
中央文化基金 (CCF)	—
国家遺産大臣(Minister of National Heritage)	
管轄局・管轄団体	分野・機能
考古局	国家遺産に関する政策・計画・プログラムの実施
国立博物館局	民族調査、民俗学・人類学・動物学・美術・歴史・古生物・古人類学に関する学術及び一般書物の発行
国立公文書局	公文書のシステム管理と保存
ゴール遺産基金	—
ジャフナ図書館プロジェクト	—

(出典：「ス」国政府ウェブサイト)

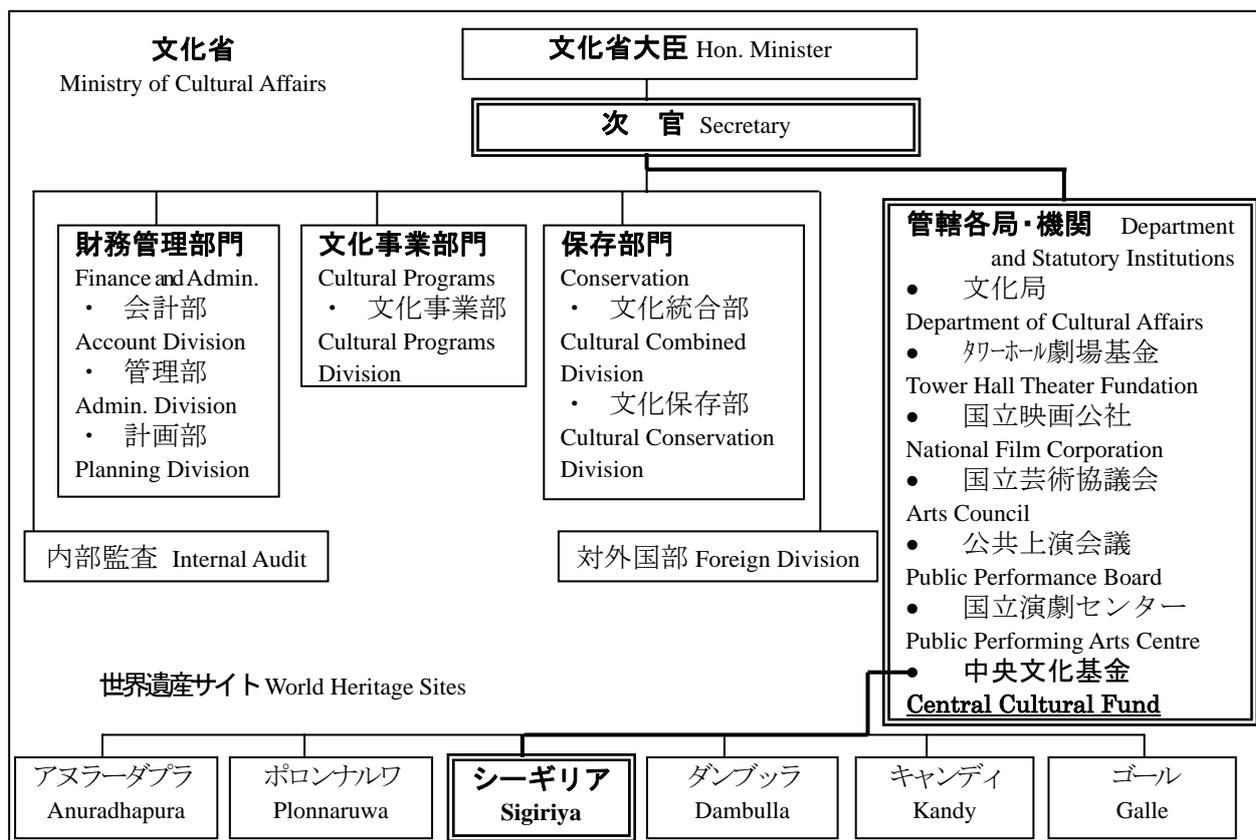


図 2-1 文化省組織図

本計画の実施機関である CCF は、文化・宗教関連施設の開発、修復、保護等に関する運営管理機関として 1980 年に法令により発足した機関である。CCF はファンド(基金)であり、その資産運用の方向性は理事会が決定する。理事会長は総理大臣であり、理事メンバーは総理次官、文化担当大臣・副大臣及び次官、経済担当大臣、UNESCO との交渉を担当する大臣、観光担当大臣、考古局長官、総理が任命する 2 名である。なお、文化省次官が CCF の管理長官であり、実質的に文化省管轄の組織となっている。CCF の年度事業収支は文化省次官によって承認される必要がある。

CCF は考古遺跡の発掘及び遺構・建造物の保存修復に係わる資金運用と運営が中心となっており、国家遺産省考古局と密接な関係にある。「ス」国には千以上の考古遺跡やモニュメントがあり、これらは 1956 年の文化財条例によって考古局の管理下に置かれた。1980 年の法令に「CCF のファンドは文化三角地帯はじめ公益のために開発すべき遺跡・文化財の開発に関する出費に充てられる」と明記されたため、CCF は UNESCO 世界遺産に指定された遺跡とその他幾つかの遺跡の発掘研究及び保護・保存を行なう権利を考古局によって与えられ実行している。考古局以外の文化財関連の部局である文化局との関係は、文化省傘下という組織上の関連性のみである。

CCF の職員数は 2,471 名、組織構成は、図 2-2 のとおりである。

なお、新シーギリア博物館の運営維持管理は CCF シーギリア・プロジェクト事務所(308 名)が予定されており、39 名が人事異動により配置される計画である。

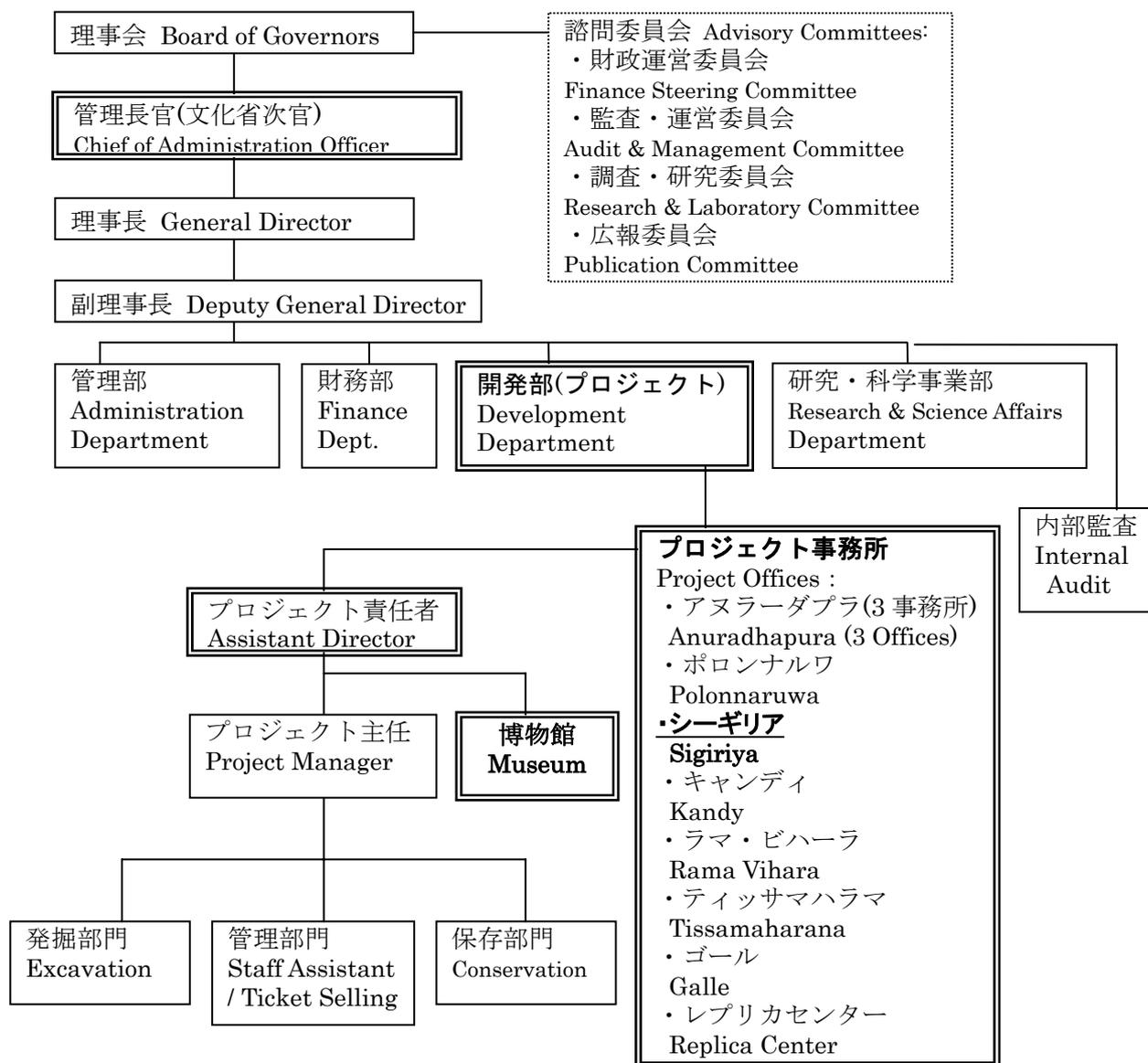


図 2-2 CCF 組織図

2-1-2 財政・予算

主管官庁である旧文化遺産省の年間予算は増加傾向にあり、大臣事務所一般管理費、省内事務所一般管理費、文化開発費からなる。旧文化遺産省予算の大部分（2006年：約80%、2007年：約88%）を占める文化開発費は、旧文化遺産省が管轄する各局及び団体の費用を含む経常歳出（CCFへの補助金も含まれる）、ドナー国・国際機関の援助プロジェクトを含む資産歳出にあてられる。

なお、新シーギリア博物館の建設費として、海外援助計画費から2007年に112百万LKR（スリランカピー）が計上されている。また、CCFへの補助金は、2006年に執行額141（予算額50）百万LKRの実績があり、2007年予算には58百万LKRが計上されている。

なお、2007年予算は、旧文化遺産省から文化省への移行にともなう省間職掌区分により、関連機関等への補助金154.1百万LKRのうち、ゴール遺跡基金への3.0百万LKRが国家遺産省扱いとなり、他は文化省扱いである。

表 2-2 文化遺産省予算 (単位：千 LKR (スリランカルピー))

'000. LKR	大臣事務所一般管理費			省内事務所一般管理費			文化開発費		
	2005	2006	2007	2005	2006	2007	2005	2006	2007
	実績	予算	予算	実績	予算	予算	実績	予算	予算
経常歳出	11,201	15,496	14,828	65,492	87,258	80,419	210,732	307,636	350,145
人件費	4,048	6,300	4,784	22,384	36,260	27,877	23,480	98,400	103,845
旅費	478	1,800	2,000	864	1,500	1,500	511	1,800	1,900
補給費	3,059	3,470	3,709	3,202	3,872	4,032	992	4,470	4,520
維持費	1,566	1,720	1,788	3,660	4,050	3,955	1,808	2,356	4,316
通信/光熱費	1,657	1,600	2,276	34,757	40,350	42,502	3,415	4,620	9,925
その他	393	606	271	625	1,226	553	10,492	20,290	26,100
譲渡							2,800	46,000	45,439
補助金							167,234	129,700	154,100
CCF対象補助金							100,000	50,000	58,000
資産歳出	22,890	3,050	3,000	4,268	14,450	2,220	48,704	160,300	407,700
修復改善費	1,439	2,200	2,150	3,157	2,300	1,050	29,180	38,000	33,350
有用資産取得	21,451	850	850	1,111	12,150	1,170	19,524	76,800	21,450
資産譲渡							9,000	---	80,900
海外援助計画								45,500	272,000
歳出計	34,091	18,546	17,828	69,760	101,708	82,639	259,436	467,936	757,845

実施機関である CCF は基本的に独立採算で、主に遺跡への入場料収入により運営されている。政府補助金に頼ることなく安定した運営を行ってきたが、2004 年 12 月の津波の影響により 2005 年は大幅な収入減となったため、同年以降「ス」国政府は CCF に補助金を支給している。

CCF の予算は、世界遺産とその周辺を管轄する各プロジェクト事務所と中央組織とに大別される。CCF が管轄する各サイト博物館は、所属する遺跡のプロジェクト事務所の予算で運営されている。

なお、ドナー・国際機関等による開発プロジェクトに関する予算は、CCF の予算とは別に計上されている。

表 2-3 CCF 予算 (単位：百万 LKR (スリランカルピー))

'000,000. LKR	2004(実績)	2005(実績)	2006(予算)	2007(予算)
政府補助金	-	100.0	150.0	90.0
予算支援 (オランダ政府援助)	-	-	-	50.0
遺跡入場料収入	551.8	296.0	481.0	466.0
キャンディ地区の地方特別援助	-	-	-	22.0
保存活動への公共献金	-	-	-	25.0
公共研究機関へのサービス等	-	-	-	26.7
その他収入 (レプリカを含む)	-	28.0	20.0	49.0
その他歳入	32.5	42.8	42.0	48.0
蓄積資金・繰越金	64.2	80.1	32.0	20.3
収入計	648.5	546.9	725.0	797.0
世界遺産・周辺サイト	421.3	420.4	566.4	605.8
中央サービス	34.4	39.7	50.4	60.0
宣伝広報・出版	18.2	6.0	20.0	26.5
研究・インフラ	2.8	2.8	6.5	9.5
文化三角地区外サイト	52.8	23.3	31.6	50.4
他文化・美術振興支援活動	14.7	39.1	40.5	39.9
準備金・他支出	104.3	15.6	9.6	4.9
支出計	648.5	546.9	725.0	797.0

2-1-3 技術水準

(1) プロジェクト関連機関の技術水準

新シーギリア博物館の運営維持管理に予定されている人員はCCFの人事異動により確保される計画である。CCFは本計画の対象となる新シーギリア博物館に類似した博物館を運営維持管理しており、実績と経験がある。維持管理に十分な組織・人員能力、技術力、技術レベルを有していると判断され、プロジェクトの実施に関して支障はない。

(2) 類似施設の技術水準

「ス」国内の各博物館の概要は表2-4のとおりである。興味を引く展示手法、近代的な展示手法が一部にみられるが、全体として博物館展示における技術水準は、一定の水準にあるものの高いとはいえない。また展示ケース、演示具等の機材についても、外国からの観光客を満足させる水準に達していない。

表 2-4 類似施設の概要

	博物館名及び概要	内容区分	所在	展示面積
1	博物館局コロombo国立博物館	考古、歴史、民俗	コロombo	約 3,600 m ²
	<p>施設規模・展示規模が「ス」国最大の博物館である。1階には世界遺産で調査発掘された遺品を含め「ス」国内で特に貴重な遺物が収蔵・展示されている。スリランカ先史・古代は時代順に、遺物の多い中世・近世は展示物の種類毎（石像・貴金属など）に展示されている。2階には多様な貴重な民俗コレクション及び考古・歴史絵画・壁画の複製品の展示がある。</p> <p>博物館の建物は1877年に旧植民地政府により博物館として建設された建物を改修したものである。2002年から本格的に展示改修・変更を開始し、2004年以降は香港上海銀行（HSBC）の資金援助によって1階部分は2006年末に改修が完了し、2階部分も2007年度中に改修が完了となる予定である。</p> <p>2007年1月現在実施中の展示改修作業は、自局の技術者に頼らず、「ス」国内の大学教授による専門的アドバイス、博物館員、民間企業の連携により実施されるものであり、画期的な試みである。改修された1階展示エリアでは、従来の実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な展示から近代的な博物館展示へ移行しようという努力がみられた。しかし、部屋毎の案内表示や展示テーマの表示がないなど見学者に対する配慮が足りない部分が多く、特に国外客が満足できるレベルに達していない。また、機材は展示に適さない材質のもの、仕上げに問題があるものが目につく。</p> <p>博物館には個人客以外に学生団体客が見学・研修に訪れている。改修に伴い、約50座席のオーディトリウムと視聴覚機材も整備し、博物館を教育の場としてさらに活性化させる気構えがみえた。総職員は65人である。</p>			
2	CCF ポロンナルワ遺跡博物館	考古、歴史	ポロンナルワ	約 1,000 m ²
	<p>コロombo市から北東約170kmにあるポロンナルワは世界遺産であり、中世10-13世紀のポロンナルワ時代の王都と王都に付随する寺院群があり、現在も聖地として信仰の対象となっている。</p>			

<p>遺跡博物館は、オランダのライデン大学による技術協力をベースに、CCF が建物設計から「ス」国内の大学の教授による専門的アドバイスを取り入れて計画し、1998 年に完成した施設である。オランダ政府及びライデン大学の資金による機材援助も実施された。</p> <p>博物館の展示空間は7つのモジュールに分かれている。エントランスモジュールは約 50 座席のオーディトリウムと視聴覚機材及び入場者管理施設、残り 6 つのうち始めのモジュールは遺跡全体の紹介、残り 5 つは遺跡出土物と遺跡写真を中心に遺跡種類別(たとえば、上座部僧院、ヒンズー寺院) に構成されている。</p> <p>各モジュールをつなぐ通路には次の空間の説明的展示が行なわれ、モジュール内では遺物・写真のほかに建築模型やジオラマを用い、わかりやすい解説を心がけている。展示としては評価できる面も多々あるが、一般的な博物館と異なり博物館と写真ギャラリーを融合したようなコンセプトで展示が構成されているため、わかりづらく、案内役がつかない個人客にとって博物館機能はあまり高くない。</p> <p>建築模型は博物館展示品としては日本の水準に達しないものの技術的には高い面もみられる。ジオラマは低い水準であるが、一般見学者の興味を引いていた。機材の一部として、展示品の交換が可能な大型のガラスケース(オランダ製)を利用しているが、ケース自体が仮設展示用ケースであるため、仮設的な雰囲気生まれてしまっている。また、当時の現地調達事情に合わせた展示手法(布を利用した展示壁やケースをかぶせない模型等)を採用しているが、開館より約 10 年間を経て色あせや埃の問題を生み、持続性に問題が感じられる。</p> <p>博物館の CCF 職員はオーディトリウムを活用した教育活動に力を入れており、一般向け月一回のセミナーシリーズ、より専門的な年 2 回の終日研究会を開催している。学生団体専門の案内役・教育担当職員を置くなどの取り組みがみられる。</p> <p>1 階には展示空間のほかに売店・飲食設備、地下には管理・収蔵・その他の機能空間がある。博物館の展示面積は、約 1,000 m²。収蔵庫約 200 m²、事務管理部門約 200 m²、その他約 200 m²、合計約 1,600 m²の博物館である。運営スタッフは、館長 1 名、学芸員 1 名、計 37 名である。</p>				
3	CCF ダンプゥラ絵画博物館	絵画(考古)	ダンプゥラ	約 600 m ²
<p>2003 年に新設されたダンプゥラ石窟寺院(世界遺産)近隣の博物館である。ダンプゥラは石窟の壁画で有名な場所であり、博物館には壁画の原寸大複製画が展示され、他の遺跡の有名な壁画・フレスコ画(シーギリア含む)の複製画も展示・収蔵されている。</p> <p>展示方法の完成度は高くないが、解説パネルなども配置し、見学者の興味を引く工夫がみられる。絵画に特化した博物館であり、また、ダンプゥラ寺院と CCF の関係が悪化して博物館としては十分に機能していない事情もあり、施設の類似性は弱い。</p>				
4	CCF ジェトワナ遺跡博物館	考古、歴史	アヌラーダプラ	約 600 m ²
<p>1930 年代に市役所として使われていた植民地時代の建築を利用している博物館である。1990 年頃から CCF 管轄のジェトワナ寺院遺跡(世界遺産)の遺跡博物館となったが、2000 年に改修を始める前は実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な従来の展示であった。</p> <p>2000 年以降の改修部分(現在も継続中)は解説パネルやグラフィックを NORAD の援助で制作し、完成度は高くないが展示台やケースも工夫して見学者の興味を引く努力がみられる。しかし、全体的に収蔵庫的な雰囲気が未だ漂う。</p> <p>NORAD の援助で約 50 座席のオーディトリウムと視聴覚機材を整備し、他博物館施設と同様に博物館を教育の場としてさらに活性化させる気構えがみえた。CCF 管轄下であるが古い建物を利用しており、施設の類似性は弱い。</p>				
5	CCF アバヤギリヤ遺跡博物館	考古、歴史	アヌラーダプラ	約 300 m ²
<p>アバヤギリヤ僧院遺跡(世界遺産)は中国の仏僧法顕上人が訪れた場所であり、中国の無償援助で 1982 年に「法顕博物館」として博物館建物が完成した。しかし、展示は実物が中心</p>				

	<p>で解説が少なく見学者にとって不十分な内容であったことから、2000年に改修が始まった。解説パネルやグラフィックをNORADの援助で制作し、展示台も工夫し、オランダ製の展示ケース（余剰分）をポロンナルワ博物館より移している。完成度はあまり高くないが見学者の興味を引く努力がみられる。しかしながら全体的に収蔵庫的な雰囲気は未だ漂う。</p> <p>NORADの援助で約50座席のオーディトリウムと視聴覚機材も整備し、他博物館施設と同様に博物館を教育の場としてさらに活性化させる気構えがみえた。CCF管轄下であるが規模が小さいため、施設の類似性は弱い。</p>			
6	考古局シーギリア博物館	考古、歴史	シーギリア	約150 m ²
	<p>シーギリア遺跡の遺物を、実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な従来の方法で収蔵展示している。新シーギリア博物館に遺物を収蔵し、取り壊す予定である。</p>			
7	考古局アヌラーダプラ博物館	考古、歴史	アヌラーダプラ	約2,000 m ²
	<p>北西部乾燥地帯に点在する考古遺跡（世界遺産含む）の遺物が集められた考古博物館。植民地時代の庁舎を利用している。ケース展示が求められるレベルの重要遺物が収集・収蔵監視し展示されているものも多くある。</p> <p>実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な従来の展示方法で展示している。旧態依然の博物館であり類似性は弱い。</p>			
8	博物館局国立自然史博物館	自然史	コロンボ	約3,000 m ²
	<p>コロンボ国立博物館と敷地を共有する自然史博物館は、いまだ旧態依然の展示内容であり、類似性は弱い。</p>			
9	博物館局オランダ博物館	近世の考古、歴史	コロンボ	約500 m ²
	<p>コロンボのかつての中心部に立地し、オランダ植民地時代の居館を利用したオランダ期の遺物と美術品を集めた博物館である。実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な従来の展示方法である。最近追加したらしい解説文も一部みられたが、読みにくいA4サイズの印刷物であり、展示方法に問題がみられる。時代的にも、展示方法からしても類似性は弱い。</p>			
10	博物館局キャンディ博物館	近世の歴史、民俗	キャンディ	約500 m ²
	<p>スリランカ最後の王都キャンディの中心部に立地し、かつての宮殿建物を利用した、キャンディ王朝時代の生活と歴史を主体とした展示の博物館である。実物が中心で解説が少なく見学者にとって不十分な従来の展示方法である。時代的にも、展示方法からしても類似性は弱い。</p>			

(3) 過去の類似案件からの教訓の活用

表2-4の類似施設においては、電圧変動や過電流による電気機器の故障や不備が目立っている。したがって、協力対象機材のうち、電気機器類については過電流防止装置・電圧安定装置を付帯する方針とした。

「ス」国では1998年のポロンナルワ博物館整備を機に博物館の改装・改良ラッシュが始まっている。コロンボ国立博物館の展示全面改装のほか、CCFではジェットワナ遺跡博物館、アバヤギリ遺跡博物館の改装、ダンブツラ絵画博物館の新設を実施し、ゴールでのオランダ植民地時代に関連する博物館及びビジターセンターの改修及び新設を計画するなど博物館整備に力を入れている。新シーギリア博物館の整備はこの一連の活動のなかでも重要な計画として位置づけられている。

CCFの各博物館及びコロンボ国立博物館ではオーディトリウム設備（プロジェクターや大型モニター、50席以上の座席）を備えた施設が多い。映像を利用したビジター・オリエンテーションとあ

わせ、博物館を教育活動の場と位置づけ、特に学生団体への教育指導に力をいれている。NORADの資金援助は、これらのオーディトリウム整備のほかに、博物館内及び（シーギリアを含む）遺跡内の案内板や地図整備、案内印刷物に利用されている。CCFは「ス」国全体の博物館・遺跡及び遺跡地域の観光振興を目指していることから、本プロジェクトとの相乗効果が期待される。

以上の事例から新シーギリア博物館の整備に効果的な教訓は以下の通りである。

- 博物館の技術者のみに頼らない官民連携の活用
- 専門家の起用による見学者に対する十分な展示配慮
- 初心者にもわかり易い展示コンセプトの導入
- 遺物・写真のほか建築模型やジオラマを使ったわかり易い解説
- 展示コンセプトに基づく展示用ケース等の適切な選択
- 持続性を考慮した展示機材等の選択
- 視聴覚機器を有効利用するビジター・オリエンテーションおよび教育効果への配慮
- 遺跡内の案内板や地図整備、案内印刷物等との相乗効果の活用
- 電気機器類について過電流防止装置・電圧安定装置の付帯

2-1-4 既存施設・機材

シーギリア遺跡の西正門の西側に、国家遺産省考古局が運営する既存博物館（約150㎡）がある。遺物の実物を展示しているが、解説が少なく、見学者にとって不十分な従来の方法で収蔵展示している。この既存博物館は、新シーギリア博物館に遺物を移管した後に取り壊す予定となっている。なお、新シーギリア博物館で利用可能な展示機材等は、ない。

既存博物館に隣接してCCFシーギリア・プロジェクト事務所がある。遺跡への入場券の販売カウンターが設置されているほか、遺跡発掘・保護、遺物保護・保存及び研究機能のある収蔵・研究施設、事務施設、職員食堂等が整備されている。このうちCCFの発掘研究・保護保存機能及び事務所機能も新シーギリア博物館に設けられるCCF事務所エリアに家具・什器とともに移転される予定である。

新シーギリア博物館は「ス」国側により建設工事が進められている。協力対象機材は新シーギリア博物館の建設工事完了後に、納入・据付を行う。

2-2 プロジェクト・サイト及び周辺の状況

新シーギリア博物館のプロジェクト・サイトは国内最大の都市コロomboから北東約160km、シーギリア遺跡保護区域内にあり、遺跡を訪れる主ルートである表参道の南側、遺跡への主入口である西正門の100mほど南西に位置する。新シーギリア博物館の建設工事は、2006年7月に着工されており2008年3月完成予定で進行中である。

新シーギリア博物館の建物は、木立の中にあつて水路を跨ぎ、建物内にも既存の樹木を伐採せずに取り込むなど、自然採光と通風を活用した環境と共存する建築というコンセプトに基づき設計されている。

建築概要は次のとおりである。

構造：	鉄筋コンクリート造、地上3階建
床面積：	1階 約1,790㎡、2階 約1,430㎡ 3階 約360㎡ 延べ床面積：約3,580㎡
主要外部仕上げ：	屋外劇場・テラス・通路等の面積：約760㎡ 屋根：コンクリート着色コーティング 外壁：レンガ壁プラスター、格子壁
主要内部仕上げ：	天井：躯体プラスター、ペイント塗装 内壁：躯体プラスター、ペイント塗装 床：モルタル

2-2-1 関連インフラの整備状況

シーギリア遺跡及びその周辺では、道路・簡易水道・電気・通信などのインフラ設備が整備されている。ただし、道路に関しては主要道路のみがアスファルト舗装されているものの、遺跡および新シーギリア博物館へのアクセスを含めたその他の道路はラテライト舗装等の簡易舗装である。

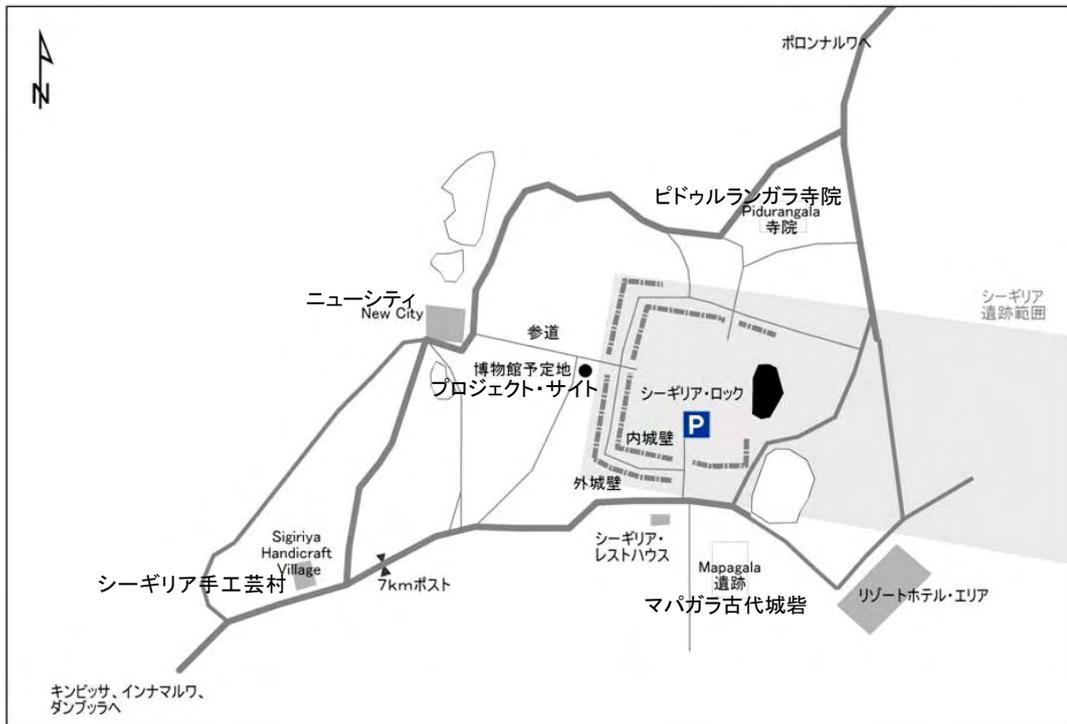


図 2-3 プロジェクト・サイト及び周辺概略図

新シーギリア博物館の周辺には、国内外の観光客を対象とした表 2-5 の施設がある。シーギリア遺跡は遺跡保護、野生生物・自然資源保護区となっており、1980年代～1990年代に実施された遺跡整

備と平行して保護区外への住民及び不認可売店等の移転が推進された。現在では、ニューシティ (New City) と呼ばれる一角に観光バス・公共バスの発着所及び売店が集められている。また、富裕観光客用のリゾートホテルがゾーンを指定されて整備されており、計画的な開発が進められている。

シーギリア遺跡を訪問する観光客のうち、外国人及び国内富裕層は乗用車・バン・バスなどをチャーターして遺跡を訪問し、ドライバーやガイドを連れて見学する。一般の国内客は団体で訪問する場合が多く、大型バスのチャーター便、または公共バスを利用して遺跡を訪問する割合が多い。

表 2-5 シーギリア遺跡周辺施設の概要

施設	概要
ニューシティ (土産物店、参道、 寺院等)	住宅、土産物店、参道、寺院などを建設し開発したエリアである。国内観光客の多くが利用する大型バスの発着場所となっているため賑わっているものの、土産物の質が悪く、周辺の清掃整備もされていないため、外国人観光客をひきつける魅力に欠ける。寺院は、シーギリア・ロック頂上からの景観を考慮して計画整備されたが、その後僧侶らによってコンクリート製の大仏が建立され、ロックからの景観を阻害する結果となった。観光セクター開発計画によるアクセス道路整備の完了後、外国人観光客を含めた全来訪者のシーギリア遺跡観光の始点となる予定であり、参道の整備も同事業の検討事項に含まれる。
宿泊・飲食施設	リゾートホテル (シーギリアビレッジ、ホテル・シーギリヤ等 US\$100 以上の宿泊施設、遺跡南東に集中)、レストハウス (遺跡南門近くに所在する半公営の宿泊施設、国内客富裕層の利用及び食事利用が多い)、安宿、ビュッフェ形式のレストラン等の宿泊・飲食施設である。 宿泊施設について特記すべきは、「大型高級リゾートホテル」が直近にないことである。大型高級リゾートはシーギリア遺跡周辺の宿泊設備とは異なり、デザイン性あふれた外観・内装、充実したレストラン設備、その他娯楽設備、ショップやエンターテインメント等を備え、特に長期滞在客の活動拠点となっている。シーギリア遺跡近辺では車で1時間程度離れたダンプラ地区やハバラナ地区にすでに大型高級リゾートホテルが多く存在し、結果的にシーギリア遺跡の直近エリアを「日帰りツアーで観光可能」な位置に押し込めている。
ピドゥランガラ 寺院	国内巡礼客に知られる近隣の僧院で、カシャパ王時代と関連が深い。シーギリア・ロックを見渡せるスポットであるが、外国人観光客の知名度は低い。
マパガラ古代城砦	カシャパ王時代より古く、同じように岩山を城砦化した跡がある遺跡である。考古局の管轄だが、案内人を含めて情報表示等が無いに等しく、来訪者も殆どいない。
シーギリア 手工芸村	2003年に地場産業育成・雇用促進省 (Ministry of Rural Industries and Self Employment Promotion) によって開設された、手工芸品・土産物品実演販売施設である。入所者 (販売者) が少なく、開業当時から閑古鳥が鳴く状況である。実演販売される土産物はスリランカの代表的工芸品 (木彫り、銀細工、真鍮細工等) であるが、他所の土産物店と区別できる特徴はない。
乾燥地帯植物園 (ハーブ園)	新シーギリア博物館建設予定地の、参道を挟んで斜向かいに位置する。現在はハーブ園・樹木ナーサリーであり、今後は観光セクター開発計画の一環として、公園・ピクニックエリア的な開発がされる予定である。

(1) 観光セクター開発計画 (JBIC-TRIP) の概要

シーギリアは、我が国の国際協力銀行(Japan Bank for International Cooperation : 以下、JBIC という)の融資で観光省が実施している観光セクター開発計画 (TRIP : Tourism Resources Improvement Project : 以下、TRIP という)の事業対象 6 地域のひとつであり、サブプロジェクトとして遺跡のビジター関連施設整備とアクセス道路の整備が計画されている。

TRIP は、2004 年度の案件形成促進調査(Special Assistance for Project Formation : SAPROF)を経て、2005 年度からの円借款事業が決定している。2007 年 2 月時点では、案件実施支援調査(Special Assistance for Project Implementation : SAPI)の最終段階にあった。

TRIP の主目的は以下のとおりである。TRIP はコロombo、キャンディを含む 6 地域を対象にしており、シーギリアは主要活動対象 4 箇所のうちの 1 箇所である (他にはアヌラーダプラ、ヌワラエリヤ、ネゴンボ)。

- 観光振興目的のインフラ整備 (対象 : 上記 4 箇所)
- 観光振興目的のマーケティング (対象 : 6 地域全般)
- 観光振興関連の人材育成 (対象 : コロombo、キャンディのホテルスクール)
- 観光振興関連の地域コミュニティ・デベロップメント (対象 : 6 地域全般)

シーギリア遺跡周辺での TRIP サブプロジェクトの活動計画には次の 2 つの焦点があり、両者とも上記主目的中、「観光振興目的のインフラ整備」に該当する。

焦点一① 遺跡内におけるビジター関連施設の整備

- フレスコポケットの閲覧回廊の拡幅、特に劣化により閉鎖中の回廊部分の修復と公開
- シーギリア・ロック頂上へのアクセス路 (ライオンの入口階段) の拡幅と双方向化
- ライオンの入口階段東側石垣の修復と、階段テラス内部 (地下) へのトイレと売店の設置
- 岩盤落下防止の調査と工事
- 参道の整備と造園
- 乾燥地帯植物園(ハーブ園)の整備と造園
- 修復された内城壁・水路の外側を巡る簡易舗装道路の埃対策工事 (スプリンクラー設置等)
- シーギリア・ロック頂上への修復・保全用物資運搬設備 (景観を害さない東側に滑車設置)

焦点一② 遺跡周辺における道路整備

遺跡周辺では、「ス」国道路局(Road Development Authority : RDA)、中央州道路局 (Provincial RDA, Central Province : PRDA) と地方行政 (ダンブッラ地区行政) が協力したアクセス道路の改善が計画されている。改善対象となる区間は 2 区間であり、インナマルワ・シーギリア区間 (図 2-4 中、点線で示した全長 9km) とマハラナガム・7km ポスト区間 (図 2-4 中、実線で示した全長 8km) が計画されている。前者は詳細設計中 (2007 年 5 月現在) で 2007 年 9 月に入札、2007 年 11 月に着工される予定、後者はコンサルタント承認手続中 (2007 年 5 月現在) で 2008 年 1 月に着工される予定となっており、ともに 2009 年の 3 月に完了予定である。

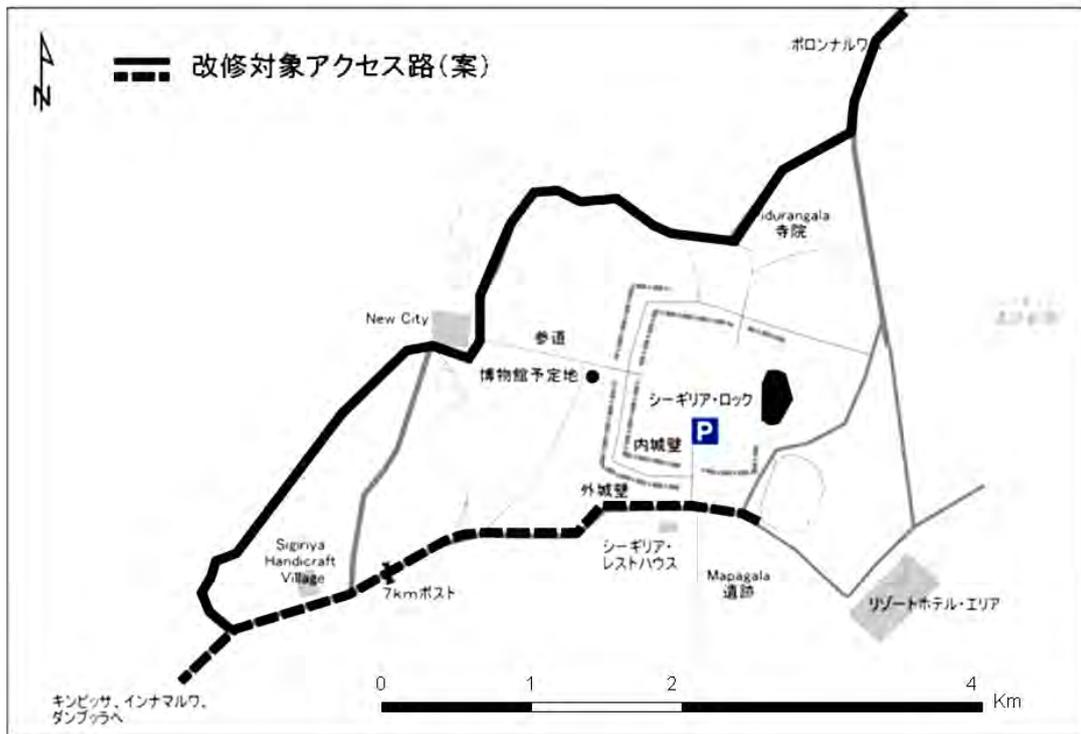


図 2-4 プロジェクト・サイト及び周辺道路整備計画図

TRIP は遺跡保存の重要性を認識し、サブプロジェクトの窓口機関に CCF を指定して積極的に遺跡保全を心がけている。シーギリア遺跡周辺での TRIP サブプロジェクトは新シーギリア博物館整備との兼ね合いを考慮に入れ、2008 年度にすべての活動が終了する予定で進行中である。

2-2-2 自然条件

(1) 気象

シーギリア地方の過去 5 年間(2002 年～2006 年)の最高気温は 35.1℃、最低気温は 20.3℃、月平均気温は 24.6～29.6℃と高温ではあるが、湿度は 57.8～82.9%、平均 70%前後であり多湿ではない。月平均風速は 0.22～3.84m/秒で、特に自然災害もなく穏やかな自然条件にある。

表 2-6 シーギリア地方(北緯 8.12 度、東経 80.47 度)の月間平均気温(2002～2006 年)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	25.4	26.3	28.4	28.7	28.8	28.8	28.7	29.2	29.1	27.7	26.3	25.5

表 2-7 シーギリア地方(北緯 8.12 度、東経 80.47 度)の月間平均湿度(2001～2005 年)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
湿度(%)	76.7	67.7	61.3	69.7	71.5	69.0	66.2	62.2	61.2	72.9	81.3	78.7

降水量については、年、月ともに変動が大きい。傾向としては5月から9月に少なく降水のない月もある一方、10月から4月に多い。過去5年間で最も降水量の多かったのは2002年4月の492.3mmである。

表 2-8 シーギリア付近(北緯 7.85 度、東経 80.64 度)の月間降水量 mm (2002~2006 年)

年 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2002	151.5	127.0	68.2	492.3	111.1	0.0	0.0	9.6	5.1	350.0	330.7	385.8
2003	202.2	180.1	62.2	173.9	20.3	14.2	97.7	3.4	61.9	38.7	236.5	10.9
2004	7.4	5.1	---	29.6	----	8.5	2.3	0.0	153.2	216.6	243.0	322.6
2005	8.0	26.3	13.5	28.3	27.5	0.0	25.5	---	0.0	45.8	129.7	20.7
2006	48.9	5.0	22.7	15.9	6.5	3.7	0.0	0.0	7.4	44.7	46.6	37.7

2-2-3 環境社会配慮

本計画は、博物館内への展示用機材を調達するものであり、プロジェクト・サイト及び周辺に対する環境社会面における影響は想定されない。

シーギリア遺跡及び新シーギリア博物館のプロジェクト・サイトは、遺跡保護、野生生物・自然資源保護区域内にある。そのため、新シーギリア博物館は、建設に先立ち初期環境評価を含む以下の事前調査と許可手続きを終えている。

- 考古局 (Department of Archaeology) : 事前サイト考古調査報告書の提出による建設許可
- 野生生物・自然資源局 (Department of Wildlife and Natural Resources : DWNR) および中央環境局 (Central Environmental Authority : 以下、CEA という)による建設許可 :
CEA が第3者機関に依頼して作成した業務指示書 (Terms of Reference : TOR) に従い実施した初期環境評価 (Initial Environment Assessment : IEA) 報告書を CEA が承認し、この承認を条件として DWNR が建設を許可した。
- 都市計画局 (Urban Development Authority) シーギリア地区による建設計画許可
- ダンブッラ地方局 (Dambulla Pradesya Sabha)による建設計画許可
- マハヴェリ庁 (Mahaweli Authority) による建設計画許可 (管轄下の人工河川を跨ぐため)

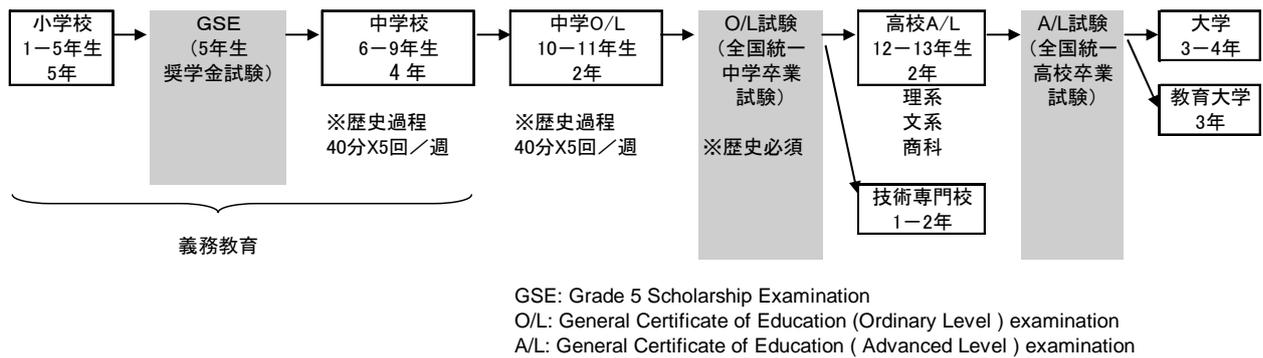
2-2-4 プロジェクトに関連する社会状況

(1) 教育とプロジェクトの関連性

「ス」国では、1997年頃から教育の質の向上と地域間格差の是正のため、伝統的な教授法の改善や古いシラバスの改定などを含む教育改革 (Education Reform Initiative) を推進している (出典: 「ス」国教育省、JICA)。このシラバス改定で、高学年レベル (義務教育内中学校 6~9 年生、義務教育後中学校 10~11 年生) では歴史授業を週 5 回行うことと、G.C.E. (General Certificate of Education)

Ordinary Level Examination（11年生が受ける全国統一中学卒業試験）での歴史科目試験が必須となった。また、教授法の改善により、歴史授業の一環で歴史に関連する場所を年一回訪問見学することになり、シーギリア遺跡はその歴史的重要性から学校グループの主要な訪問先となっている。「ス」国の政府系学校は2002年時点で9,800校以上あり、教員数は18万7千人、児童・生徒数は402万7千人である。加えて政府系以外に僧侶学校や私立校が存在し、特に私立のインターナショナルスクールが増加しつつある。

新シーギリア博物館を整備することにより「ス」国の学校教育に直接的に大きく貢献できる状況にあるため、学童教育に対する配慮が求められる。



※必須カリキュラムの歴史教育

図 2-5 「ス」国の教育システムと歴史教育

(2) 地域経済とプロジェクトの関連性

観光振興による外貨獲得は「ス」国にとって重要な政策の一つである。現状ではシーギリア遺跡への来訪者数は多いものの、周辺施設の利用が少ないため、地域経済への貢献は少ない。

新シーギリア博物館の整備により、シーギリア遺跡で新たな魅力ある見学施設を提供することになる。観光客の滞在時間を延ばし、周辺施設を紹介するなど観光振興の機能を併せ持つことになるため、地域経済に間接的に貢献できる状況にある。

第3章 プロジェクトの内容

第3章 プロジェクトの内容

3-1 プロジェクトの概要

シーギリア遺跡は、1982年にUNESCO世界文化遺産に指定されており、1980年に「ス」国文化省の傘下に設置されたCCFとUNESCOが協力し、同遺跡における文化遺産保護事業を推進してきた。シーギリア遺跡には年間約60万人が訪問しており、「ス」国を訪れる外国人のうち約10万人前後が同遺跡を訪問し、また修学旅行訪問先としても人気が高い。

「ス」国には7箇所の世界遺産（うち6箇所は世界文化遺産）があり、その他にも文化遺産・遺跡が多く存在する。文化遺産は主にアヌラーダプラ、ポロンナルワ及びキャンディの3都市を頂点とした「文化三角地帯」と呼ばれる国の中央部に集中している。

シーギリア遺跡は文化三角地帯の中心、中央州マータレ県ダンブッラ地区シーギリアに位置しており、歴史・文化上アジアの中でも重要な考古学遺跡の一つである。

「ス」国政府は、文化・観光セクターの開発事業を国の重要政策のひとつとして位置付けており、本プロジェクトに関連する文化・観光セクター開発事業等の政策が「国家開発計画10カ年戦略計画書」に示されている。同計画書ではシーギリア周辺の観光振興を含む「ダンブッラ地域の開発計画」及び重要文化財と遺跡の保存・保護を目的としたシーギリア博物館の整備を含む「文化開発計画2007-2016」が策定されている。また、「ス」国内の世界遺産の保護・保存活動を実施しているCCFの2007年からの「10カ年政策開発構想」においても新シーギリア博物館の整備が初期目標に位置づけられている。

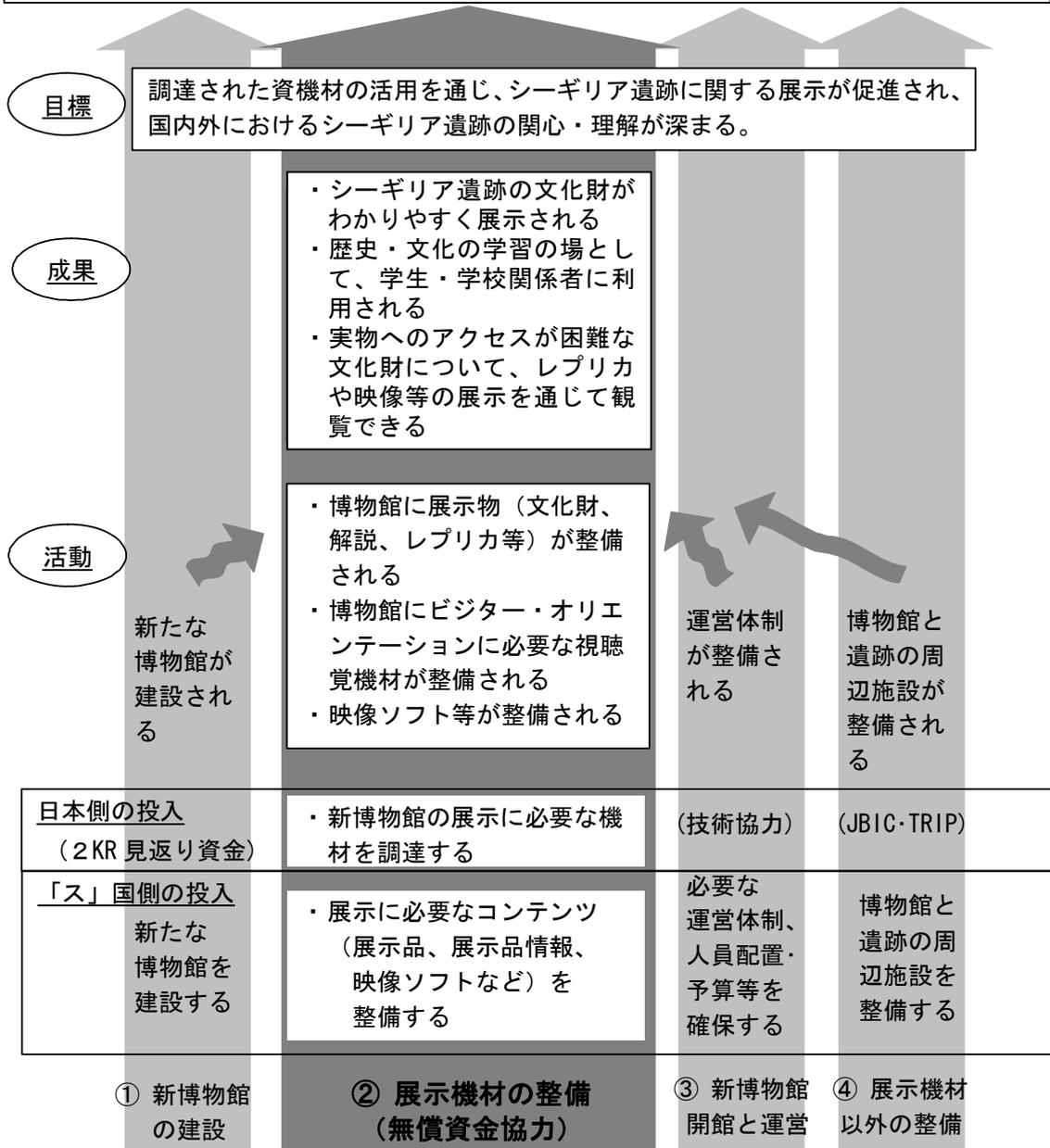
以上の状況から、「ス」国政府は「シーギリア遺跡に関する歴史・文化価値が「ス」国民及び周辺国において再認識され、来訪者が増加し観光振興に資する。さらに、観光産業振興による地域の活性化が図られ、地域住民の生活レベルの向上に寄与する」ことを新シーギリア博物館の整備プロジェクトの上位目標とし、無償資金協力の実施により、「調達された資機材の活用を通じ、シーギリア遺跡に関する展示が促進され、国内外におけるシーギリア遺跡の関心・理解が深まる」ことを目標としている。

新シーギリア博物館の整備プロジェクトは、「①施設の建設、②展示機材の整備、③施設の運営、④周辺環境の整備」により構成される。このうち無償資金協力による展示機材の整備は②に係わるものであり、①の施設建設と密接な関わりを持ち、③に関連して予定される技術協力プロジェクトとの円滑な連携が期待されている。

なお、新シーギリア博物館の建築計画では、博物館内にCCFシーギリア・プロジェクトの事務所エリアが設置されている。CCFシーギリア・プロジェクトが従来から実施している研究・保存修復の機能が、博物館の機能としても発揮されることになる。

このように、無償資金協力の対象事業は「新シーギリア博物館における展示機材の整備」という成果に向けての投入となる。

シーギリア遺跡の歴史・文化価値が「ス」国民及び周辺国において再認識され、訪問者が増加し観光振興に資する。さらに、観光産業振興による地域の活性化が図られ、地域住民の生活レベルの向上に寄与する。



問題点

- ・ シーギリア遺跡に国内外観光客の満足できるレベルの博物館が存在しない
- ・ 訪問者への展示・解説が可能な受入施設がなく、学習できる設備が整っていない
- ・ シーギリア・ロック中腹のフレスコポケット、頂上の宮殿跡はアクセスが困難である

図 3-1 プロジェクトの概要

3-2 協力対象事業の基本設計

3-2-1 設計方針

(1) 基本方針

シーギリア遺跡は、UNESCO の世界遺産に登録された国際的に貴重な文化遺産であり、「ス」国内のみならず全世界から多くの見学者を迎えている。「ス」国新シーギリア博物館整備プロジェクトは、このシーギリア遺跡への関心と理解をより深めるために必要な歴史と文化に関する情報提供、および観光振興を目的としている。本無償資金協力は、この「ス」国新シーギリア博物館整備プロジェクトの完遂に資するため、博物館の展示に必要な機材調達を行うものである。

計画にあたっては、「ス」国政府の要請と現地調査及び協議結果をふまえ、以下の方針に基づき実施することとした。

- 展示計画及び機材計画の策定にあたっては、新シーギリア博物館が重要な世界遺産を紹介する遺跡博物館であること、全世界からより多くの見学者を迎えることを考慮し、世界遺産の展示に相応しいレベルを目指す。
- 「ス」国内の既存博物館では達成できていない「見学者への配慮」と「展示の一貫性」を実現する計画とする。具体的には見学者の視点を考慮した展示デザイン（わかりやすい誘導と表示、展示品と解説の量のバランス、展示空間やパネル内での図画・文字の配分やバランスなど）、見学者の興味を持続させる物語性、わかりやすい見学動線、展示の起伏を作りただの遺物陳列で終わらない展示手法など、日本の博物館展示技術を参考にしてシーギリア世界遺産にふさわしい博物館作りを目指す。
- 学術的な価値の高い遺物の展示・保全機能、観光資源としての役割、バリアフリーなど社会面、環境上あるいは美感上の必要性、そして日本を含む国内外への広報効果に配慮する。

(2) 自然環境条件に対する方針

シーギリア地方は、月平均気温 24.6～29.6℃、月平均湿度 70%前後で高温ではあるが多湿ではなく、月平均風速も 0.22～3.84m/秒で、特に自然災害もなく穏やかな自然条件である。また、新シーギリア博物館のサイトは緑豊かな遺跡及び自然資源保護区域内にあり、建物は小川を跨いで建てられている。

このような自然環境の中、博物館の建物は開放的で、自然と一体となるような建築コンセプトに基づき設計されている。ビジター・オリエンテーションを行なう空間はその建築コンセプトを最大限に活かす。また展示空間は展示効果と考古学遺物を含む展示物保全の観点から窓が無く人工照明と空調設備を備えた展示環境を整えることを基本方針とした。

(3) 社会経済条件に対する方針

新シーギリア博物館は国内外から多数の見学者が訪れることが期待されることから、万人にわかりやすい展示とする。そのため、表示・解説文等に使用する言語は「ス」国の公用語であるシンハラ語、タミル語と英語の3言語併記を原則とし、子供でも楽に見学できるように機材の設置高などに配慮する。高齢者や体の不自由な見学者に配慮し、段差のない見学動線を確保する。また、国内の宗教感情を勘案し、聖域や宗教関連遺物に不敬のないものとする。

(4) 調達事情もしくは業界の特殊事情／商慣習に対する方針

現地では展示用の資機材等の製作技術レベルが不十分であり、展示ケースや展示パネルにおいても一定水準の博物館に製品を供給できる業者が存在していない。したがって、モデル、レプリカの製作を含み展示用の資機材等は日本調達の方針とした。

電気機器類（スペアパーツを含む）については、本プロジェクトに適切と考えられるグレードの機材は現地の一般市場には流通していないが、類似関連品を扱う代理店・輸入業者は多数存在し、注文に応じて輸入が可能である。システム構成の必要性・交換部品の調達可能性等を総合的に検証し、日本調達の方針とした。

展示パネル類の印刷シートについては、既存の製品完成度にやや難点が見られるものの、製作に必要な資料や研究者が現地に存在していること、現地語での表示が必要なことを考慮すれば、現地調達が適当である。ただし、一定水準の博物館に必要な高い完成度と精度の製品を調達するためには、日本側で適切な管理を行い、品質を確保する必要がある。デザインが博物館内で統一される必要があるのみならず、遺跡及び遺物の解説文・図版・写真等については考古学的見地からの確認が必要であり、展示のレベルを左右する重要事項であるため、コンサルタントが調達監理を行う方針とした。なお、フレスコポケットの複製画部分については、これも展示パネル類と同様に考古学的かつ美術的にも高い完成度を確保するため、現地の経験・実績のある技術者に依頼し、コンサルタントが調達監理を行ない、品質確保に留意し制作する方針とした。

(5) 現地業者の活用に係る方針

現地の輸送、内装工事業者には、展示用機材の搬入据付に関する一般的な技術を有しているものが複数存在する。本プロジェクトによる機材は注文製作機材が多いため、元請調達業者の適切な技術的管理の下で、現地業者、現地作業員を活用して搬入・据付を実施する方針とした。

(6) 実施機関の運営・維持管理能力に対する対応方針

実施機関である CCF は、類似の遺跡博物館を継続的に運営・維持しており、実績と経験がある。「ス」国では国全体の博物館・遺跡及び遺跡地域の観光振興を目指し、1990年代後半から博物館の改装・改良ラッシュが始まっており、コロombo国立博物館のほか、CCFでも各遺跡博物館の改装、新設計画を実施するなど博物館整備に力を入れている。また、各博物館ではオーディトリウム設備を整備し、映像を利用したデジタル・オリエンテーションとあわせ、博物館を教育活動の場と位置づけ、

特に学生団体への教育指導に力をいれており、案内や警備のための適正な人数が配置され、滞りなく運営されていることが確認された。

CCF シーギリア・プロジェクト事務所には遺物保存・修復部門があり、保存・修復経験及び特殊保存剤（乾燥剤）などの使用経験があり、保存剤メンテナンスのための機材も既に所有している。

なお、CCF は基本的に独立採算で、各博物館を含め主に遺跡への入場料収入により運営されており、CCF の施設の運営・維持管理能力、予算措置について特に問題はない。

類似施設における展示機材等に関する維持管理上の問題点は、主に電圧変化や過電流による電気機器の故障である。したがって、調達対象となる電気機器類には過電流防止装置・電圧安定装置を付帯する方針とした。一方、ガラスケースや展示パネルなどの維持管理、特に掃除やビジターコントロールなどは CCF 各博物館でシステムが確立されており、十分に維持管理できるとの感触が得られた。このことから、機材類の維持管理方法の周知は、納入据付時及び引渡し時に博物館の担当スタッフに対して取扱い及び維持管理の説明を行うことで対応する方針とし、納入据付時までに博物館のスタッフが確実に配置されることを確認した。

(7) 機材等のグレードの設定に係る方針

機材のグレードについては、「ス」国内の他の博物館と比較して極端に高いあるいは低いといったように著しくバランスを欠くことがなく、華やかな装飾、不要に先進的な展示機材、維持管理の難しい機材、不必要に高額な機材の導入を避けた。また、来館者が直接目にする機材は、諸外国から多数の来館者が訪れることが想定されるため、国際的な水準を基本としてシーギリア遺跡の価値を損なわないグレード、遺跡から出土した遺物の展示保存が可能なグレードの確保に留意した。

(8) 調達方法、工期に係る方針

本プロジェクトは交換公文（Exchange of Notes : 以下、E/N という）締結後のコンサルタント契約から機材の納入据付、引渡し完了まで約 18 ヶ月を要すると考えられる。

請負業者契約締結後、機材類の設計打合せ、製作図作成・承認を経て製作を開始する。

日本調達品に関しては製品検査・出荷前検査を経て輸送し、製品検査を済ませた現地調達品と併せて新シーギリア博物館に搬入し据え付ける。なお、フレスコポケットのレプリカは、他の日本調達機材とともに搬入据付し、複製画を現場作製して引き渡す方針とした。

3-2-2 基本計画（展示計画／機材計画）

3-2-2-1 展示計画

新シーギリア博物館の展示計画は、2006 年 9 月に実施されたプロジェクト形成調査で検討され、本調査で詳細が確認された下記の展示コンセプトに従い計画した。

(1) 展示コンセプト

新シーギリア博物館は純然たる考古学博物館としてだけでなく、観光目的で訪れる見学者にも対応できる、ビジターセンターの要素を兼ね備えた博物館施設として計画されている。純然たる考古学博物館とは収蔵された文化財を中心とした①展示、②研究・収蔵、③教育・普及の活動・機能に等分に対応できる場として計画されるが、新シーギリア博物館はこれら博物館活動・機能のうち①展示と並んで③教育・普及、特に観光客として遺跡を訪れる見学者への情報提供に重点を置いている。

このような新シーギリア博物館特有の施設計画を踏まえ、次の二つの展示コンセプトが確認された。詳細は以下の通りである。

1) 展示を通じて博物館空間とビジターセンター空間を敢えて明確に分離する

- 施設はロビーエリアを中心とした簡易な遺跡紹介用のビジターセンター空間と、考古遺物を主体にした博物館の展示空間に大別し、二つの展示空間は古代建築様式（コーベルアーチ）のトンネルで結び、過去に遡る旅の入り口とする。

2) 幅広い客層にアピールする、展示内容が体感できる展示を目指す

- 過去に遡る旅は、5つのギャラリーで構成されるメインの展示エリアで始まり、シーギリア遺跡及びシーギリア周辺の考古と歴史を時系列順に紹介する。
- 5つのギャラリーの空間仕様は床レベルを二層とし、見学動線と展示に起伏を持たせる構造とする。身障者対応としてフラットなデッキの見学動線も設置する。二層床構造によって建築設計上の問題点であった天井高が低すぎる欠点を克服する。
- メインギャラリーの展示にはストーリーを持たせ、かつ展示の核となるセンターピースを設け、驚きと興味と期待の持てる展示構成とする。センターピースはシーギリア・ロックを中心とした宮殿遺跡の地形モデルの展示とする。
- 各ギャラリーの展示を構成する上で、ギャラリーの主題を表わし、全体の鍵となる語句「テーマ」、展示品を通して見学者に伝えたい「メッセージ」を明確にし、ストーリー性とあわせて一貫した博物館体験を実現する。
- 展示エリアは、ギャラリー出口の螺旋階段を昇り、フレスコポケットのサイト見学の疑似体験、考古学者による「シーギリア再発見」の疑似体験ができる、フレスコポケットの実物大レプリカへ続き、過去に遡る旅は終わる。

(図 3-2 参照)

(2) ビジターセンター空間の展示計画

ビジターセンターは、映像による博物館オリエンテーション空間であるビジター・オリエンテーション・ロビー、博物館空間入場前の待機・休憩ができる象徴展示空間のロビー、団体客用博物館オリエンテーション空間のミニオーディトリウムで構成される。

1) ビジター・オリエンテーション・ロビー

ビジター・オリエンテーション・ロビーでは情報映像を活用し、観光情報センターとしての役割を担う。

(図 3-3 参照)

- シーギリア地方の観光案内を兼ね、映像展示によるオリエンテーションを行なう。
- 映像機材は、多人数が一度に観賞可能な大型フラットモニターとし、立ち見とする。
- 多言語対応・将来的な複数映像化を見据えて、3箇所の放映とする。
- 「ス」国の伝統的な祭「ウェサック」で使用される「ウェサックトラナ（装飾）」をイメージした映像展示とする。
- 映像ソフトは既存の遺跡紹介ビデオを短縮・再編集して活用する計画とする。既存ソフトのうち、1983年作成のシーギリア遺跡に関するドキュメンタリーは英語・仏語・日本語など多言語音声解説が存在する。また、CCF 他博物館のオーディトリウムで上映されている CCF 作成の DVD にはシーギリア遺跡紹介も含まれている。
- 機材種類概要：AV システム、エリア表示

2) ロビー

ロビーエリアは、建物南東部に設けられる屋外劇場（図 3-2 参照）の利用や博物館空間への入場前の待機エリアを兼ねた遺跡紹介エリアとして象徴的に展示構成する。

（図 3-3 参照）

- ロビーは様々な目的（屋外劇場利用、博物館空間入場前の待機、休憩、オリエンテーション映像鑑賞）を持った来訪者が集う場であるため、具体的展示ではなく象徴的展示とする。
- 象徴展示の遺物はシーギリアを象徴する遺物（ストゥーパの中心より掘り出された「宇宙の柱」と、チューラバムサ（「ス」国史記）の公用語 3ヶ国語抜粋記述展示とする。
- 「宇宙の柱」は現在コロombo国立博物館に収蔵されており、移籍について交渉が進められている。抜粋展示すべきチューラバムサ史記の箇所、及び英語・シンハラ語版は専門委員会によって既に指定されており、タミル語翻訳も「ス」国側負担事項に含まれる。
- 機材種類概要：展示ケース、展示パネル(ガラスパネル)、館内案内表示、エリア表示、
展示照明

3) ミニオーディトリウム

ミニオーディトリウムは、「ス」国内の他の博物館に整備されている着座式のオリエンテーション空間として、ロビーエリア上階の3階に設けられる。利用者は学生団体客（修学旅行生）、または主に英語以外の音声案内を必要とする外国人団体客を想定している。

（図 3-4 参照）

- ビジター・オリエンテーション・ロビーでは自動映像を流すのに対し、こちらでは上記の団体客対応を含め案内者の解説付きの遺跡・観光紹介を行なう映像展示の場として利用する。
- 将来的には 3D ソフトや各遺跡サイトで準備予定のデータベースなどを見学者が利用する場所としても想定している。
- 機材種類概要：プロジェクターシステム

(3) 博物館空間の展示計画

1) ギャラリー 1

ギャラリー1は「考古学的背景の解説」、「先史時代」、「原史時代」、「早期鉄器時代のエリア」を含

む、過去へ遡る旅の始まる空間となる。

テーマ： 「シーギリヤとその歴史考古学的背景 (Sigiriya in its Setting)」

メッセージ： 太古 (25 億年前の地層形成) から早期鉄器時代までの時間の旅

機材種類概要：「考古学的背景の解説」・・・展示パネル (発光表示地図、内照式を含む)

「先史時代」・・・人骨発掘現場復元地型、展示ケース、演示具

「原史時代」・・・巨石墓レプリカ、展示ケース、演示具

「早期鉄器時代」・・・溶鉱炉レプリカ、展示ケース、演示具

全体・・・ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 「考古学的背景の解説」はパネルのみの展示とし、「先史～早期鉄器時代」は発掘遺物とレプリカ (すべて原寸大の人骨発掘時の地型復元、発掘時の石棺復元、溶鉱炉の想像復元) による簡潔な展示とする。
- レプリカとパネルを組み合わせ、ケース内を「見る」だけでなく全体として考古学的発見を「体験する」状態を構築する。
- データ収集、遺物の所蔵地確認、展示パネルの内容再確認などは「ス」国側が実施する。実物展示が不可能と確認された一部遺物の複製品作成は「ス」国側負担事項に含まれる。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

(以下、丸数字は図 3-5 の数字に対応)

- ① 壁面：(配電盤及び発光表示・内照式展示パネルのコントローラ設置)
- ② 壁面：「考古学的背景の解説」解説文等展示パネル
- ③ 壁面：地層形成に関する解説文・図等展示パネル
- ④ 壁面：考古学編年に関する解説文・図等展示パネル、考古学的時代毎の変遷を標示する発光表示地図展示パネル、古代居住圏を表示する展示パネル、ギャラリー表示
- ⑤ 壁面：「先史時代」解説文・図等展示パネル、
床面：人骨発掘現場復元地型(原寸大)、展示ケース(人骨と同時代の石器・骨器、他の遺物)
- ⑥ 壁面：人骨発掘状況等写真展示パネル、床面：⑤に同じ
- ⑦ 壁面：「原史時代」解説文・図等展示パネル、床面：巨石墓レプリカ (原寸大)
- ⑧ 壁面：巨石墓関連遺物写真等展示パネル、展示ケース (巨石墓副葬品土器類、装飾品類、その他遺物のうち小型のもの)、
床面：⑦に同じ、展示ケース (巨石墓副葬品土器類、装飾品類、その他遺物)
- ⑨ 壁面：「早期鉄器時代」解説文・図等展示パネル、溶鉱炉レプリカ (原寸大)、展示ケース (溶鉱炉部品、その他遺物)

2) ギャラリー 2

ギャラリー 2 は、「前期、後期の僧院時代」をテーマに石像、塑像を中心とする展示になる。その他に写真や各種見取り図・地図を展示する。

テーマ： 「早期・後期僧院時代 (Early and Late Period Monasteries)」

メッセージ： 王宮となる以前に僧院であったシーギリヤを幻想的に体感

機材種類概要： 展示台、演示具、ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 照明効果を取り入れた演出により、幻想的な展示空間とする。このギャラリーでは、幾分時代的に展示が混在するが、「ス」国人にとって当たり前の石像を美術品として捉え、考古遺物の重要性を認識してもらう」ことを目的に演出を優先する。
- 石像展示空間は当初二層床構造を利用しデッキ通路より低い空間とする予定であったが、宗教・文化的配慮として逆にデッキレベルより高くなる展示空間構成に切り替えた。高くすることによって見学動線に起伏を与え興味をひく展示となる。なお、大多数の見学者がデッキ通路より全体を眺めることを想定した「副室展示」であるため、バリアフリーへの配慮上、問題ない。
- ギャラリー2 の見学動線最後の通路部分にカシャパ王紹介の展示パネルを設置し、ギャラリー1-3 に連続した展示とする。
- 遺物の所蔵地確認、展示パネルの内容再確認などは「ス」国側が実施する。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

(以下、丸数字は図 3-5 の数字に対応)

床面 (ギャラリー 2 全体) : 展示台 (仏像、仏教関係遺物等)

- ⑩ 壁面 : 早期僧院時代の写真展示パネル
- ⑪ 壁面 : 早期・後期僧院時代の解説文・図等展示パネル、ギャラリー表示
- ⑫ 床面 : 展示台 (中間期仏坐像遺物)
- ⑬ 壁面 : 僧院見取り図、菩提樹寺院見取り図等展示パネル
- ⑭ 壁面 : カシャパ王解説文等展示パネル

3) ギャラリー 3

ギャラリー3 はシーギリア遺跡を有名にした宮殿遺跡を展示することで、展示構成のセンターピースとして捉えている。

テーマ： 「王宮とシーギリア黄金期 (Royal Palace、The Golden Age of Sigiriya)」

メッセージ： 世界的に有名な王宮の壮大なスケールと緻密な計算

機材種類概要： 地形モデル、プロジェクターシステム (ギャラリー 3 用)、展示ケース、展示台、演示具、ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 王宮遺跡の遺物は目玉となるものがなく展示に工夫が必要である。「ス」国側との協議・検討の結果、シーギリア・ロックを中心とした地形モデルをギャラリー床下に設置し、床面を強化ガラスとして、床上より遺跡模型を詳細に観て廻れる展示とした。
- 地形モデルは縮尺 1/200 程度とし、盛り上がったシーギリア・ロックの部分が床上 (ガラスケース内) に突出する計画とした。これにより、プロジェクト形成調査段階で指摘された、宮殿や僧院跡を含む遺跡をガラス床下に踏みつける不敬に対する危惧は解消される。同時に見学動線のなかでも溜まりの場として利用される広いスペースと、インパクトを与える展示の両立を実現する。
- 「遺跡全体の規模・構造」、「古代都市計画」、「ロック頂上の宮殿遺構の構造」、「水の庭園遺

構の構造」は重要な情報である。これらについての査読された研究成果を展示パネルで展示する。

- ロック頂上の宮殿の想像復元図、ロック中部のライオンの入口階段の想像復元図は研究者の間でも異論があるため、複数案をスライド形式でプロジェクターシステムを通して投影展示する。
- 将来的には先進的展示の一部として3D復元図（動画）の制作及びプロジェクターシステムを通しての展示を「ス」国側負担で検討する。
- 展示遺物は大きく素焼き・レンガ系の建築部材と金属製品に分類できるため、エリアを分け、展示台、ケースを利用し展示パネルの解説を併用して展示する。
- 地形モデルのデータ収集、遺物の所蔵地確認、展示パネルの内容再確認などは「ス」国側が実施する。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

（以下、丸数字は図3-5の数字に対応）

床下（ギャラリー3全体）：地形モデル

室内上部壁面：プロジェクターシステム画面（図3-5 参照）

- ⑮ 壁面：「王宮とシーギリア黄金期」解説文等展示パネル、「遺跡全体の規模・構造」展示パネル、「古代都市計画」解説文・図等展示パネル、写真展示パネル、ギャラリー表示
- ⑯ 壁面及び床面：展示ケース（主に素焼き・レンガ系の王宮建築部材、装飾品等遺物）
- ⑰ 壁面：「ロック頂上の宮殿遺構の構造」解説文・図等展示パネル、「水の庭園遺構の構造」解説文・図等展示パネル、プロジェクターシステム
- ⑱ 壁面：王宮遺物の解説文等展示パネル、
床面：展示ケース（鉄製品、銅製品、その他遺物）

4) ギャラリー4

ギャラリー4はシーギリア遺跡で宮殿に次ぎ有名かつ重要である「ミラーウォール（鏡の壁）」の落書き詩、フレスコ画、及び古代に土産品として製作された「シーギリアレディー」等の塑像群を展示する。

テーマ： 「絵画、詩、塑像 (Paintings, Poetry, and Sculpture)」

メッセージ： 世界遺産シーギリア遺跡のハイライトを掘り下げて展示解説

機材種類概要： オーディオシステム、展示ケース、演示具、ギャラリー表示、展示パネル、
展示照明

- フォーカスとなる「ミラーウォール」の落書き詩の展示は、当初予定していた実物大レプリカをやめ、壁内面の詩文を中心に据え、重層的なパネル展示と詩を朗読する音声のシャワーで表現する。「ミラーウォール」の展示空間は二層床構造を利用し、デッキ通路より低く上下に広い空間とすることで見学動線に起伏を与える。なお、大多数の見学者がデッキ通路より全体を眺めることを想定した「副室展示」でもあるので身障者対応としても問題ない。
- 「ボルダーガーデン」のフレスコ画は後述フレスコポケットのフレスコ画とは異なり、石窟寺院壁画や最近発見された「ミラーウォール」外側の壁画を原寸大のキャンバス複写画として展示

する。

- 展示遺物は古代の土産品「シーギリアレディー」と見栄えのする小品の遺物を予定している。これらは展示ケースに収め、貴重な遺物であるという実感を与える。
- 遺物の所蔵地確認、展示パネルの内容再確認などは「ス」国側が実施する。複写画の多くは既に存在するが、追加の複写画作成、新規写真撮影などが「ス」国側負担事項に含まれる。
- 「ミラーウォール」の落書き詩の展示に専門家の鑑定と関与が必要となる。これも「ス」国側負担事項に含む。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

(以下、丸数字は図 3-5 の数字に対応)

- ①⑨ 壁面：絵画解説文等展示パネル、絵画（複写画）、塑像解説文等展示パネル、ギャラリー表示
- ②⑩ 壁面：絵画（複写画）、演示具
- ③⑪ 壁面：「ミラーウォール」・「詩」写真展示パネル、解説展示パネル
床面：展示ケース（研究記録文書）
天井：オーディオシステム
- ④⑫ 壁面：絵画（複写画）、演示具

5) ギャラリー 4 / 5

ギャラリー 4 / 5 は、小品遺物のケース展示が主体となる。中でもシーギリア・イヤリング（実物展示が不可能と確認されたため複製品）を中心に展示構成し、イヤリングの演示にポイントを置く。ギャラリーの中央に曲面の展示壁を設け、その中心にイヤリングのケースを配す。イヤリングは、レンズ機能付きのガラスケースで一点展示とし、細部の細工が観賞できる演示とする。

テーマ： 「宮廷及び僧院生活 (Courtly and Monastic Life)」

メッセージ： 生活空間としてのシーギリア

機材種類概要：展示ケース、演示具、ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 曲面壁はイヤリングの詳細写真のコラージュ展示をするが、壁自体は見学者が通り抜ける仕様とし、見学者の動きを妨げない動線を作る。
- 曲面壁の向かいには、ギャラリー 2 から 4 で描かれたシーギリア遺跡での活動の跡である土器食器類、交易品、通貨などの遺物をケース展示し、展示パネルで解説する。
- ギャラリーの中心展示となるイヤリングの複製品作成は「ス」国負担事項に含む。
- このギャラリーは将来的に「ギャラリー 5」と改称される可能性がある。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

(以下、数字は図 3-5 の数字に対応)

- ⑬ 壁面：「宮廷及び僧院生活」解説文等展示パネル、世界交易地図展示パネル、
古銭・硬貨展示パネル、展示ケース（古銭・硬貨）、
床面：展示ケース（宮廷装飾品等遺物、宮廷及び僧院食器・什器類遺物）
- ⑭ 壁面：写真展示パネル（イヤリング写真コラージュ）、ギャラリー表示
床面：展示ケース（シーギリア・イヤリング複製品）

6) ギャラリー5

曲面壁の外側スペースであるギャラリー5は、最盛期を過ぎたシーギリヤ文化がそれでも綿々と続く「隠された世紀」、考古学者による「シーギリヤ再発見」と考古学史、「民俗考古学」など最近の動向、そして「将来的展望」というトピックを過去へ遡る旅の最後の部分として展示する。

テーマ： (仮題)「そして現在まで」(「隠された世紀」「シーギリヤ再発見」「民俗考古学」)

メッセージ： 綿々と利用が続いたシーギリヤ、そして全容が今明かされた

機材種類概要：展示ケース、展示台、演示具、ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 「民俗考古学」は曲面壁の外側を利用した写真と一部複製品を含む民俗遺物を交えた展示とする。内側の展示とあわせて全体的にアートギャラリー的な展示となる。
- 遺物の所蔵地確認、展示パネルの内容再確認などは「ス」国側が実施する。専門家の鑑定と関与が必要となる一部遺物解説も「ス」国側負担事項に含む。
- 民俗遺物の複製品製作は「ス」国側負担事項に含む。
- ギャラリー出口はフレスコギャラリーへ続く螺旋階段とし、階段も「シーギリヤ再発見」の展示の一部となるように配慮する。
- このギャラリーは将来的に「ギャラリー6」と改称される可能性がある。
- 壁面及び床面の展示内容は以下の通りである。

(以下、数字は図 3-5 の数字に対応)

㉕ 壁面：「隠された世紀」解説文等展示パネル、写真展示パネル、ギャラリー表示

㉖ 壁面：「考古学史」及び「将来への展望(仮題)」解説文・図等展示パネル、写真展示パネル、展示ケース(獅子土製品)、

床面：展示ケース(ヨーロッパ期錠前等)

㉗ 壁面：「民俗考古学とランドスケープ考古学」解説文・図等展示パネル

㉘ 壁面：民俗土偶解説・写真等展示パネル、展示ケース(民俗土偶、一部複製品)、展示台

7) フレスコギャラリー

フレスコギャラリーでは、展示スペースが二分割される建築的制約から、現存のフレスコポケットの形態を二分割して、それぞれを原寸大のレプリカで展示する。

テーマ： (仮題)「フレスコポケット」

メッセージ： 隅から隅まで見ることができるフレスコポケット

機材種類概要：フレスコポケットレプリカ、ギャラリー表示、展示パネル、展示照明

- 実物にアクセスできない見学者に臨場感あふれる体験をさせるとともに、実物見学では困難な、適切な照明のもとでの観察と観覧ができる施設とする。
- 階段だけでなくスロープを利用してギャラリーにアクセスすることが可能であり、螺旋階段を上れない身障者等への配慮もなされている。

(ギャラリー1～5との位置関係については、図 3-6 参照)

3-2-2-2 機材計画

(1) 全体計画

展示計画に基づき、本無償資金協力で対象とする機材の内容、設置場所、数量、仕様等について計画した。すべての機材は新シーギリア博物館に納入し一部を据付ける予定である。

(2) 機材計画

1) 展示ケース

土器・石器・鉄器・装身具等の展示物を収納・展示する展示ケースである。貴重な遺物を展示し保存するため、盗難を防止し、壊れにくく破壊時に破片が飛散しない等の安全性の高い展示ケースが必要となる。また一部のケースは調湿が可能となるよう、気密性のあるケースとする。

2) 展示台

石像、塑像等を展示するための台である。所要の重量を支持するため、スチール製とする。

3) 演示具

石像、塑像、土器、鉄器展示用の演示具である。金属、樹脂、木、ガラス等、展示物に最適な展示方法ができる仕様とする。

4) 表示

4-1) 館内案内表示

ロビー1カ所において、博物館平面図を用いて全館案内を表示する。

4-2) エリア表示

ビジター・オリエンテーション・ロビー及びロビー2カ所において、エリア名・エリア平面図・エリア概略を表示する。各エリアにおける案内・誘導用パネルとする。

4-3) ギャラリー表示

ギャラリー7カ所において、ギャラリー名・ギャラリー平面図・ギャラリー概略を表示する。各ギャラリーにおける案内・誘導用パネルとする。

5) 展示パネル類

5-1) 展示パネル

各ギャラリー、ロビー等における図版、解説、写真等による展示パネルとする。

5-2) 展示パネル(発光表示地図)

ギャラリー1において考古学的時代毎の変遷を標示し、LED発光表示でシーギリア遺跡群の各時代における位置づけを展示する。(図3-7 参照)

5-3) 展示パネル(内照式)

ギャラリー1においてシーギリア・ロックの地質を写真と照合させて展示する。

(図3-7 参照)

6) 地形モデル

シーギリア・ロックを中心とした地形モデルをギャラリー3の床下に設置し、床面を強化ガラスとし、床上より遺跡模型を詳細に観て廻れる展示とし、床上に突出したロック部分はガラスケースで保護する。ガラス床・フレームを含むものとする。

7) 人骨発掘現場復元地型

ギャラリー1において人骨発掘状況を再現して展示する。人骨周囲の地型をレプリカで復元表現し、人骨自体はオリジナルを展示する。

8) 巨石墓レプリカ

ギャラリー1において石棺の発掘状態をレプリカと復元地型で再現して展示する。

9) 溶鉱炉レプリカ

ギャラリー1において溶鉱炉の発掘状況を再現し、溶鉱炉本体をレプリカと想像復元型にて展示する。

10) フレスコポケットレプリカ及び複製画

岩壁形状レプリカ及びフレスコ画の忠実な複製を展示する。フレスコギャラリーでは、展示スペースが二分割される制約から、現存のフレスコポケットの形態を二分割して、それぞれを原寸大のレプリカで展示する。岩壁はFPR製の形状レプリカとし、その上にフレスコ画を描画複製する。

11) AV システム

シーギリア・エリアの観光案内を兼ね、映像によるオリエンテーションを行なう。映像機材は、室内照度調節・空調等が不要で多人数が一度に観賞可能な大型フラットモニターを用いる。多言語対応・将来的な複数映像化を見据えて、3箇所での放映とする。

12) プロジェクターシステム（ギャラリー3用）

ギャラリー3において、映像展示を行う。シーギリア・ロック頂上の宮殿の想像復元図、ロック中部のライオンの入口階段の想像復元図は研究者の間でも異論があるため、複数案をスライド形式でプロジェクターシステムを通して投影展示する。操作方法に関しては、見学者の参加体感型展示としてタッチパネルを利用した見学者による操作を検討したが、不特定多数の操作による予期せぬ誤動作や故障のリスクを回避するために、タッチパネルは利用せずに自動投影方式と博物館スタッフ等による操作を併用することとする。

13) オーディオシステム

ギャラリー4において、音声による演出を行う。「ミラーウォール」の落書き詩の展示については、実物が長大で落書き詩が散在しておりレプリカによる展示効果の発現が難しいことなどの理由により、当初予定していた実物大レプリカを取りやめ、重層的なパネル展示と詩を朗読する音声のシャワーで表現する。

14) プロジェクターシステム（ミニオーディトリウム用）

ミニオーディトリウムにおいて、着座式のオリエンテーションとして映像展示・解説を行う。利用者は学生団体客（修学旅行生）、または主に英語以外の音声案内を必要とする外国人団体客を想定している。ビジター・オリエンテーション・ロビーでは自動映像を流すのに対し、こちらは上記団体客等に対し、案内者が遺跡・観光紹介、解説を行なう場所として利用する。

15) 展示照明

各々の展示に適した照度を確保し、また展示物の変更に対応できるよう、ライティングトラックを用いた個別調光可能な照明とする。

なお、史記をエッチング加工して展示するガラスパネルについては、負担区分（日本側・先方）を含めた検討の結果、ロビーのガラス壁を兼ねるために建築工事との調整が不可欠である、現地調達が可能である等の理由から、「ス」国側で実施する方が有効性が高いと判断した。これを本基本設計概要書案説明時に説明し同意を得た。

表 3-1 日本側負担機材計画の概要

機材名	概要（目的）	設置場所※	数量	仕様等	備考
展示ケース	土器・石器・鉄器・装身具用のケース	LB,G1,G3,G4,G4/5,G5	19台	高透過ガラス A-1×2, A-2×3 A-3×2, B×4, C-1×1, C-2×5, D×2	A~D 7種類 サイズ違い
展示台	石像・塑像用展示台	G2,G3,G4,G5	5台	スチール	
演示具	石像・塑像・土器・鉄器用演示具	LB,G1,G2,G3,G4,G4/5,G5	66台	金具、樹脂、木、ガラス	
館内案内表示	館内案内用パネル	LB	1式	印刷シート+鋼板	
エリア表示	各エリアにおける案内・誘導用パネル	VOLB, LB	2式	印刷シート+鋼板	印刷シートは現地調達
ギャラリー表示	各ギャラリーにおける案内・誘導用パネル	FG,G1,G2,G3,G4,G4/5,G5	7式	印刷シート+鋼板	印刷シートは現地調達
展示パネル	図版・写真・解説等による展示パネル	LB, FG, G1, G2,G3,G4,G4/5,G5	56枚	印刷シート+木工パネル (写真3枚は壁直貼、パネル無し)	印刷シートは現地調達
展示パネル (発光表示地図)	シーギリア遺跡群の各時代における位置づけを展示	G1	1台	発光表示パネル	
展示パネル (内照式)	シーギリア・ロックの地質を写真と照合させて展示	G1	1台	照明内蔵式パネル 陽画フィルム	
地形モデル	シーギリア遺跡の地形モデルをガラス床下に展示	G3	1式	FRP樹脂着彩 (本体寸法：W5700×D5100×H950)	ガラス床・フレームを含む

人骨発掘現場 復元地型	人骨発掘状況の 再現	G1	1 式	FRP 樹脂着彩、 原寸大(*W3570× D3570×H200)、 ガラスカバー付	人骨実物を 展示、 *WD : 三 角形状地型 短辺寸法
巨石墓レプリカ	石棺発掘状態の 再現	G1	1 式	FRP 樹脂着彩、 原寸大(*W3250× D1400×H500)	*三角形台 座上の本体 寸法
溶鉱炉レプリカ	溶鉱炉発掘状況の 再現と想像復元	G1	1 式	FRP 樹脂着彩、 原寸大(*W1495× D1575×H2000)	*三角形台 座上の本体 寸法
フレスコ ポケット レプリカ	形状及びフレスコ 画の忠実な複製画 を展示	FG	1 式	軽量鉄骨軸組、FRP 樹脂着彩 ポケット A : W10810×H3900 ポケット B : W12310×H3900	複製画は現 地調達
AV システム	映像展示	VOLB	1 式	フラットパネルモニ ター3 台、DVD プレー ヤー、増幅器、スピー カー、電圧安定装置等	
プロジェクター システム (ギャラリー3 用)	映像展示・解説	G3	1 式	プロジェクター、スク リーン、DVD プレー ヤー、電圧安定装置等	
オーディオ システム	音声による演出	G4	1 式	音声再生装置、制御ユ ニット、指向性スピー カー、電圧安定装置等	
プロジェクター システム (オーディトリ ウム用)	映像展示・解説	MA	1 式	プロジェクター、 スクリーン、P C、 DVD プレーヤー、 ビデオ提示装置、 ワイヤレスマイク、 電圧安定装置等	
展示照明	展示用スポット ライト等	VOLB, LB, G1~5,FG	205 台	調光可能	

※設置場所 LB : ロビー、
VOLB : ビジター・オリエンテーション・ロビー
G1 : ギャラリー1
FG : フレスコギャラリー
MA : ミニオーディトリウム

表 3-2 機材配置計画

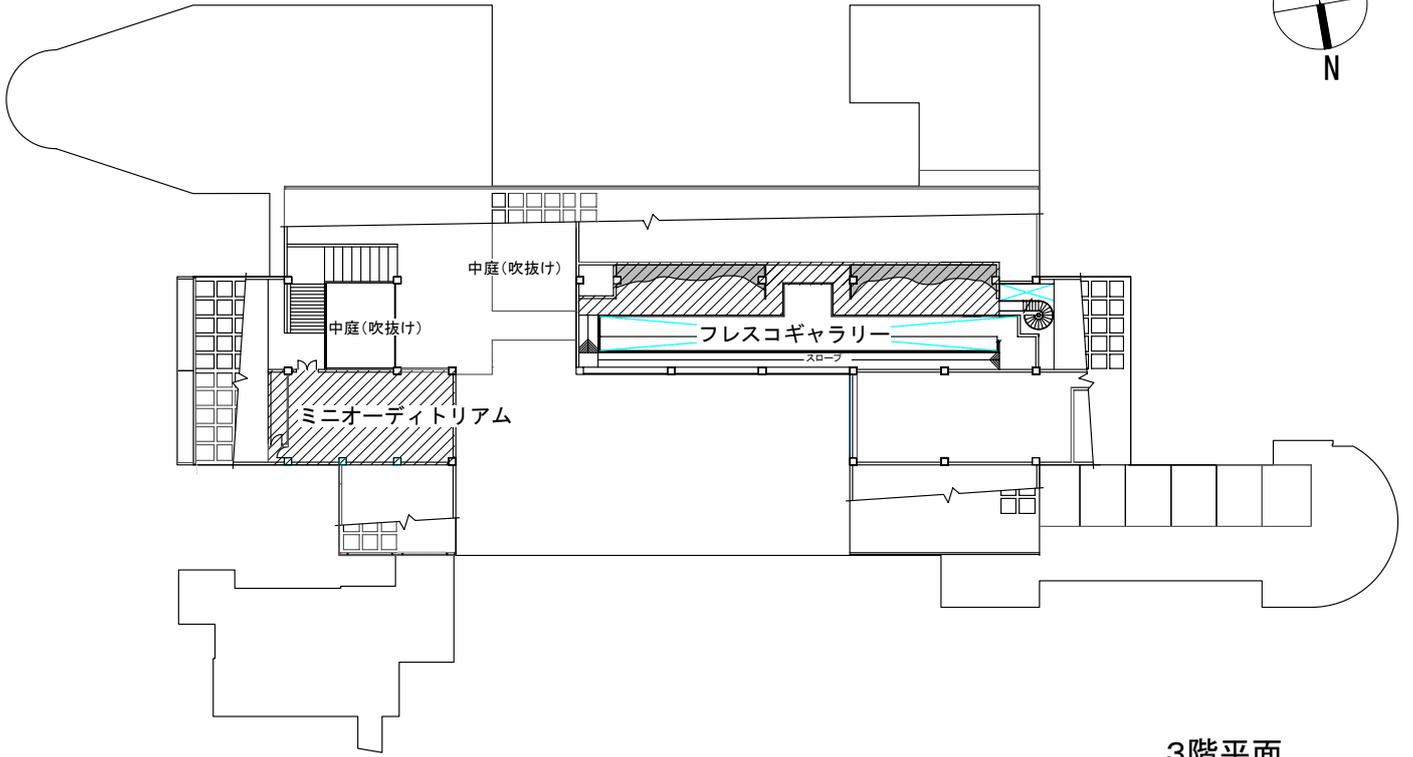
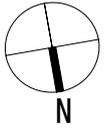
NO.	機材名	各室配置・数量											
		数量		VO LB	LB	MA	G1	G 2	G 3	G4	G4/5	G5	FG
1	展示ケース	19	台		1		3		3	6	4	2	
2	展示台	5	台					2	1	1		1	
3	演示具	66	台		1		6	11	33	6	2	7	
4	1 館内案内表示	1	式		1								
4	2 エリア表示	2	式	1	1								
4	3 ギャラリー表示	7	式				1	1	1	1	1	1	1
5	1 展示パネル	56	式	3	1		13	7	11	6	7	7	1
5	2 展示パネル(発光表示地図)	1	台				1						
5	3 展示パネル(内照式)	1	台				1						
6	地形モデル	1	式						1				
7	人骨発掘現場復元地型	1	式				1						
8	巨石墓レプリカ	1	式				1						
9	溶鉱炉レプリカ	1	式				1						
10	フレスコポケットレプリカ	1	式										1
11	AVシステム	1	式	1									
12	プロジェクターシステム (ギャラリー3用)	1	式						1				
13	オーディオシステム	1	式							1			
14	プロジェクターシステム (オーデトリウム用)	1	式			1							
15	展示照明	205	台	6	8		37	27	27	26	19	31	24

表 3-3 「ス」国側負担機材計画の概要

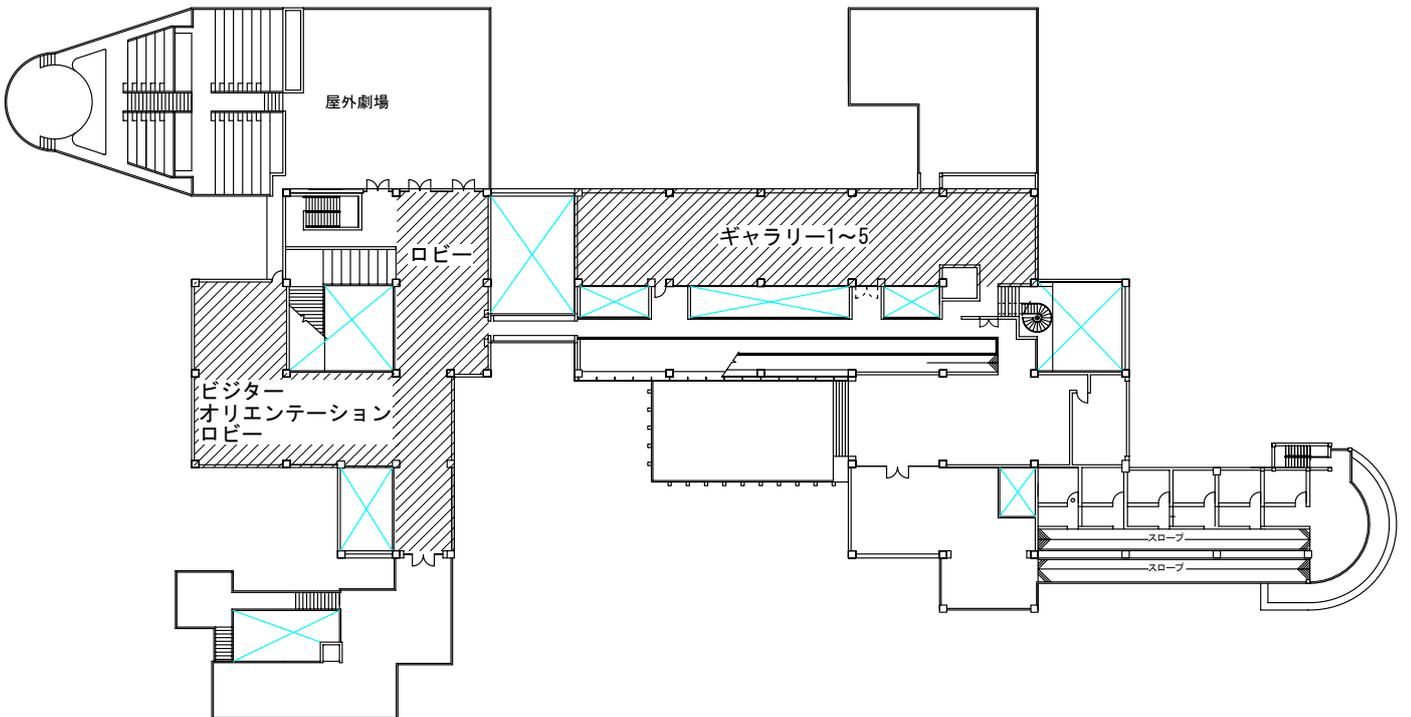
機材名	概要・仕様等	備考
展示パネル(ガラスパネル)	史記をエッチング加工して展示	建築工事に含む
キャプションボード	各展示物の名称等	CCF 制作
イアリング複製品	シーギリア・イアリング	
特殊縞ビーズ複製品	イッバンカトゥワ・特殊縞ビーズ	
ネックレス複製品	イッバンカトゥワ・ネックレス	
民俗土偶複製品	テラコッタ	
セキュリティ・システム	警備員用相互通話無線機	
チケットカウンター	従来方式、家具対応	
非常用発電機	全館電気容量対応	

3-2-3 基本設計図

機材据付対象室配置図及び諸室の平面図等について、次頁以下のとおりとする。



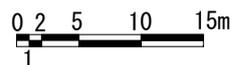
3階平面



2階平面

図3-2 機材据付対象室配置図

スリランカ国シーギリア博物館展示機材整備計画



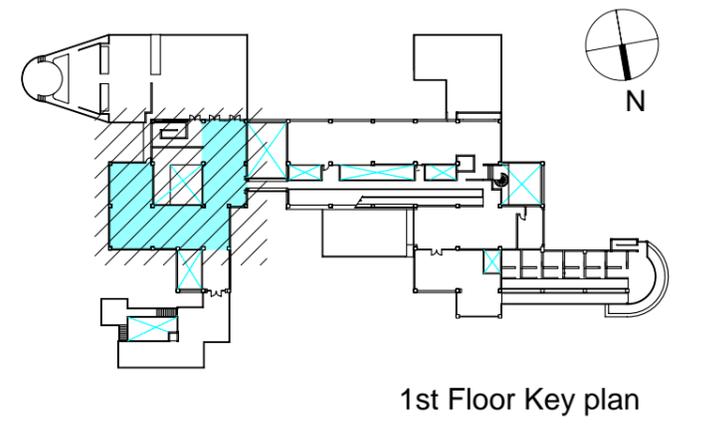
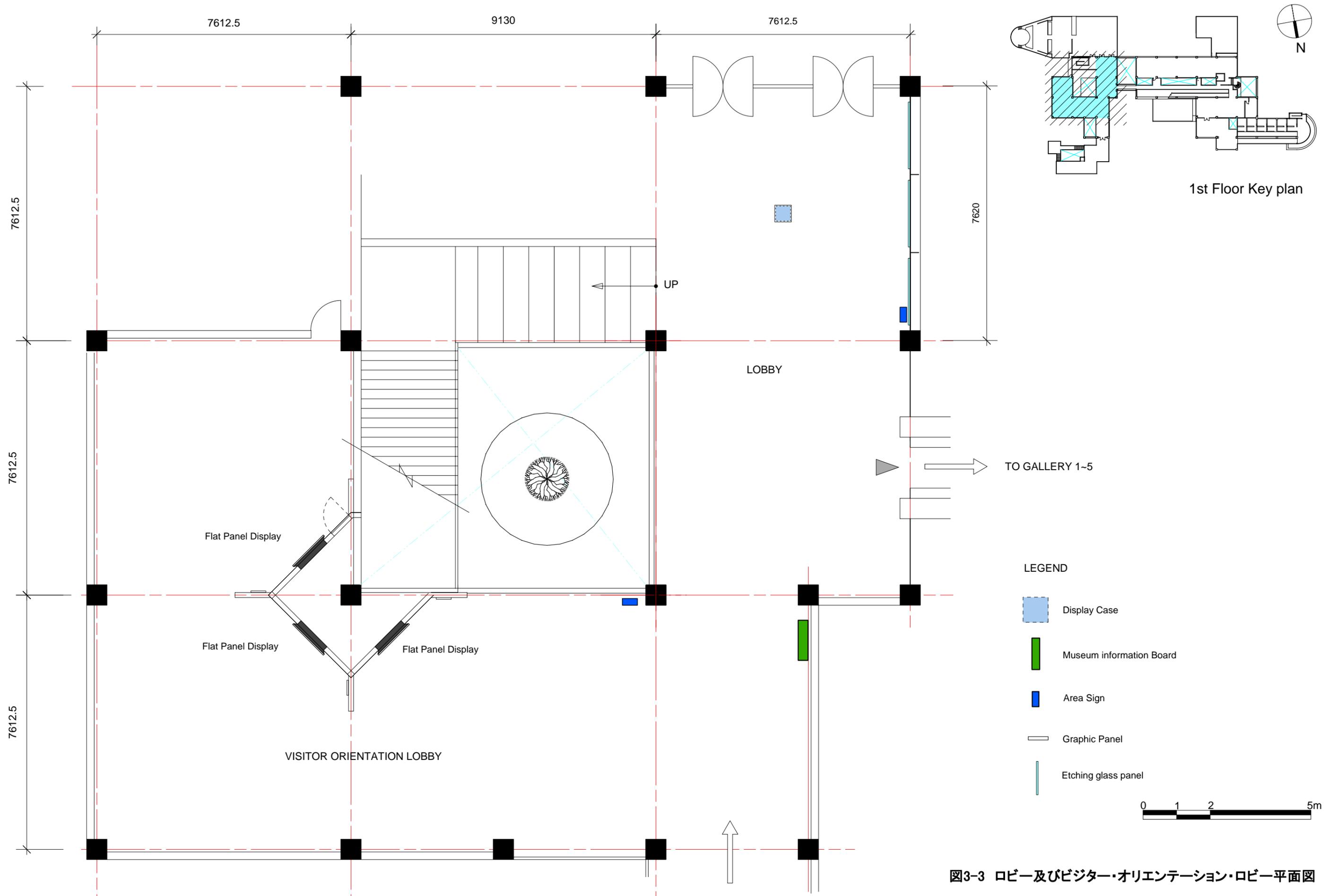
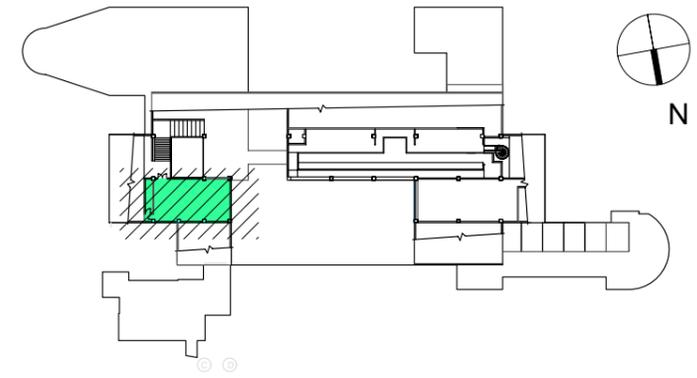
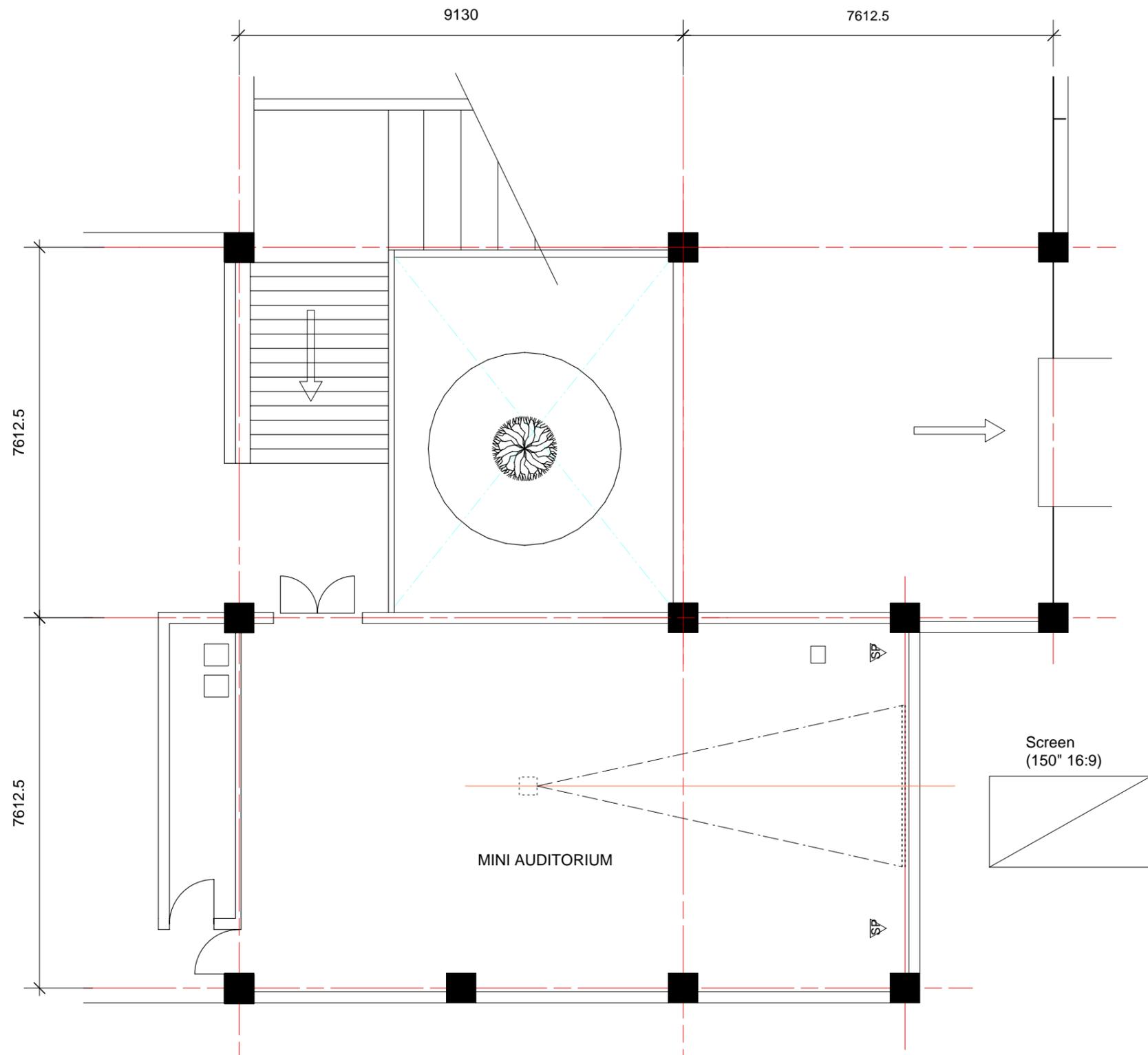


図3-3 ロビー及びビジター・オリエンテーション・ロビー平面図
スリランカ国シーギリア博物館展示機材整備計画



2nd Floor Key plan

- LEGEND
-  Projector
 -  Speaker
 -  Screen
 -  Rack Mount

図3-4 ミニオーデトリウム平面図

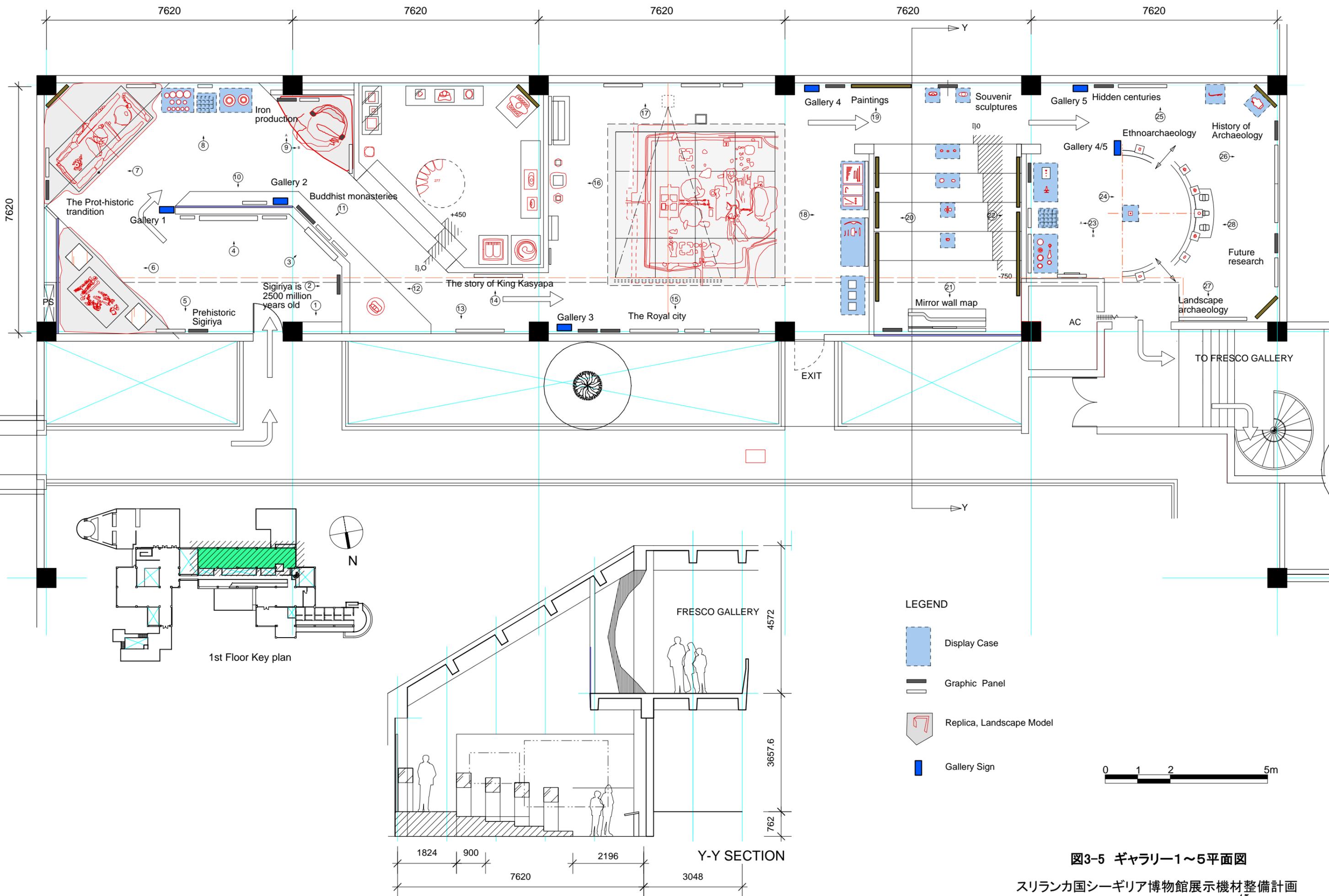


図3-5 ギャラリー1~5平面図
スリランカ国シーギリア博物館展示機材整備計画
45

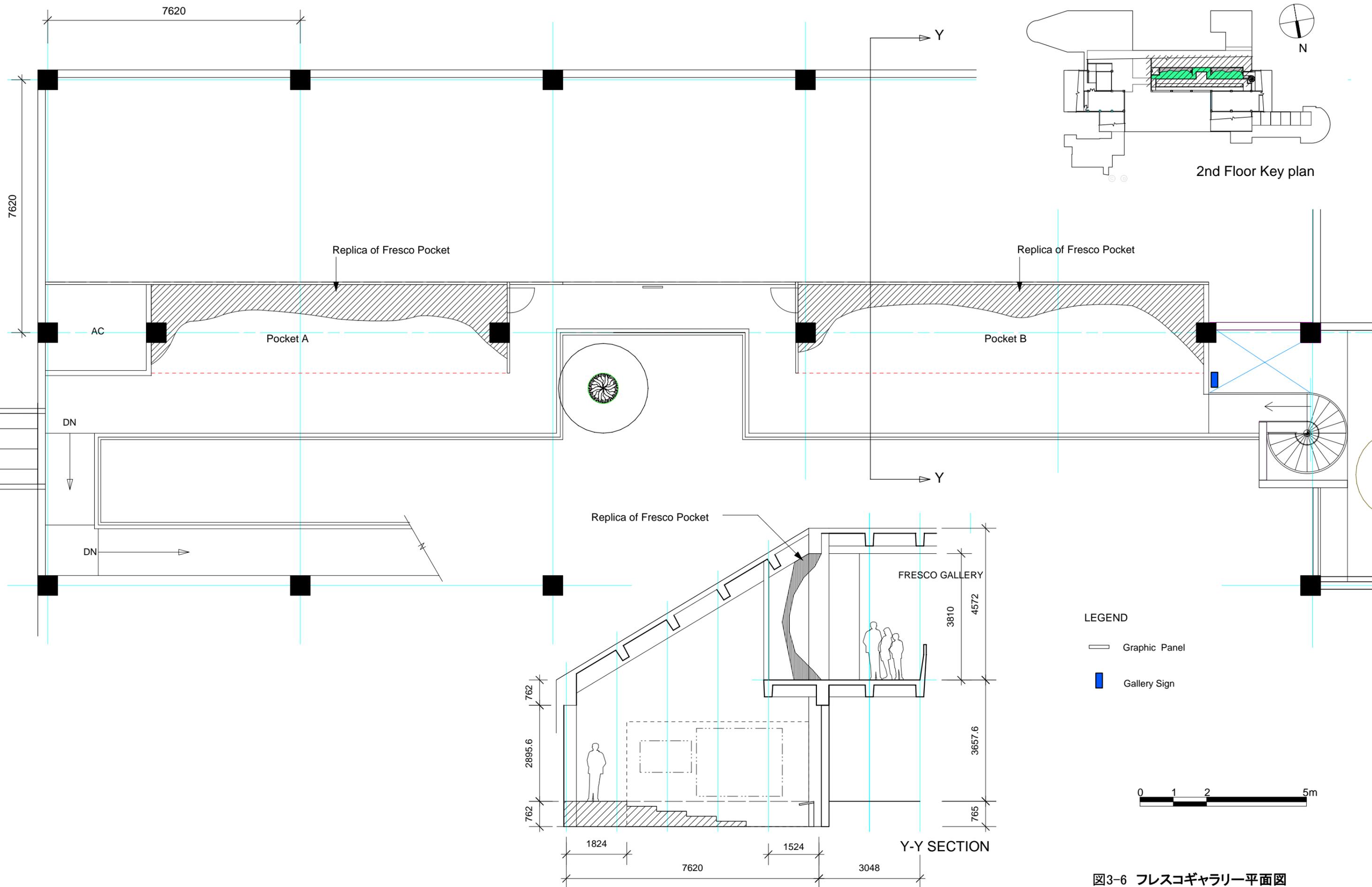
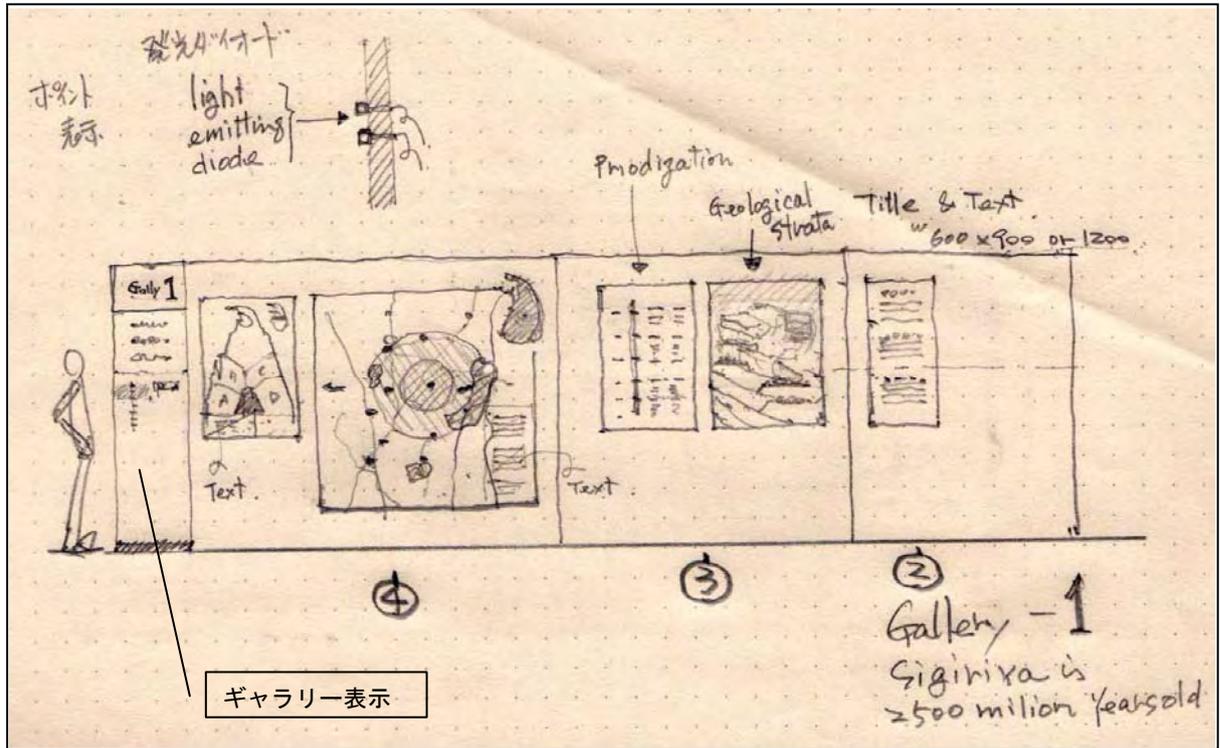
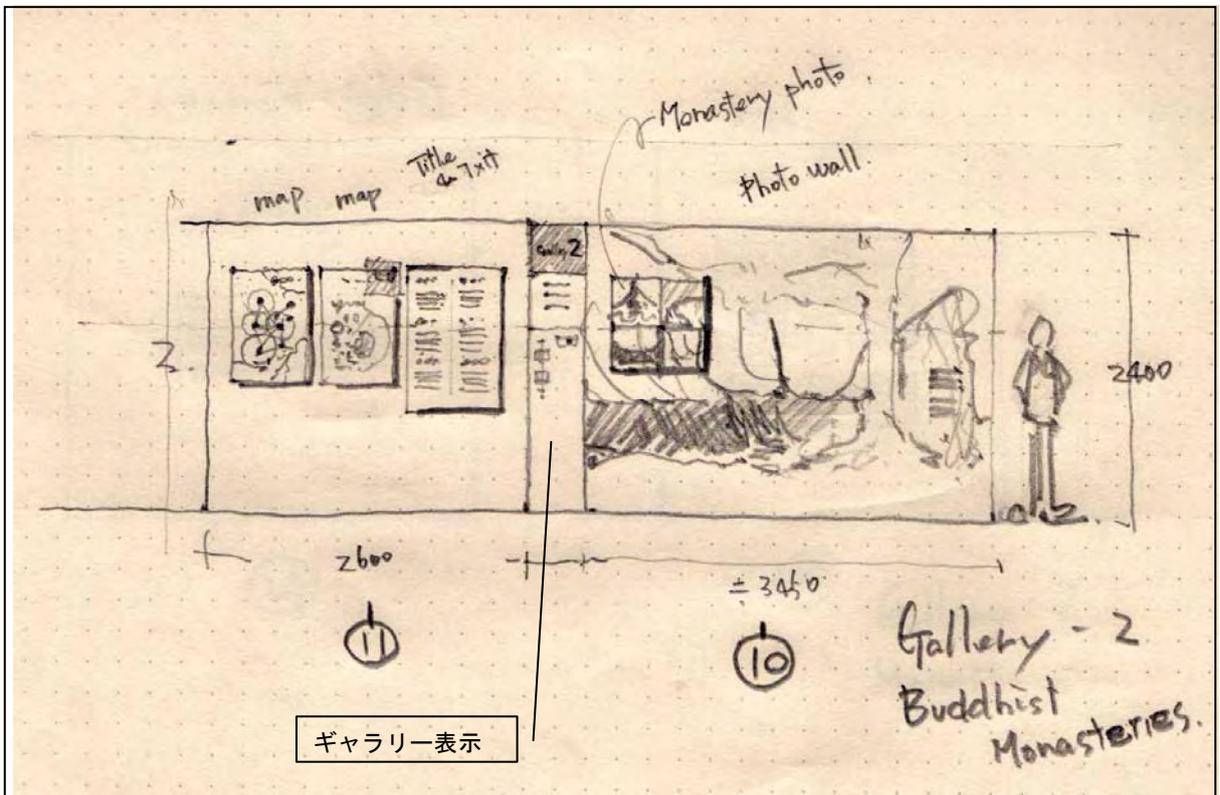


図3-6 フレスコギャラリー平面図
スリランカ国シーギリア博物館展示機材整備計画
46



④発光表示地図パネル ③内照式展示パネル(右側) ②展示パネル(解説文)



⑪展示パネル(解説文・図版等) ⑩展示パネル(写真パネル)

図 3-7 壁面展示イメージ図

3-2-4 調達計画

3-2-4-1 調達方針

新シーギリア博物館の持つべき展示機能を十分に発揮できる最適な機材の調達計画を策定するための方針を以下のとおりとした。

(1) 事業実施主体

本プロジェクトに係る「ス」国の主管官庁は文化省、実施機関は CCF である。プロジェクトを円滑に進めるため、CCF は日本のコンサルタント及び請負業者と密接な連絡及び協議を行う必要がある。そのため本プロジェクトを担当する責任者を選任する事が求められる。責任者は、「ス」国側で実施される新シーギリア博物館整備と本無償資金協力との役割分担及び調整を行うとともに、「ス」国側の負担事項を遅滞なく責任を持って実施する必要がある。

(2) コンサルタント

本プロジェクトの機材調達を実施するため、日本のコンサルタントが CCF と実施設計・調達監理業務契約を締結し、業務を実施する。またコンサルタントは入札図書を作成するとともに、入札実施業務を代行する。

(3) 調達業者

我が国の無償資金協力の枠組みに従って、「ス」国側から公開入札により選定された日本国法人の調達業者が、本プロジェクトの機材調達・納入据付を実施する。本プロジェクトの完成後も引続き修理時の対応等のアフターサービスが必要と考えられるため、調達業者は当該機材の引渡し後の連絡及び調整についても十分に配慮する必要がある。

(4) 現地業者の活用・技術者派遣の必要性

本プロジェクトで調達対象となる機材は、「ス」国負担で実施中の建設工事との調整が不可欠である。また、相手国側負担事項を含む計画全般にわたる工程、品質を監理するため、コンサルタント技術者を日本から派遣することが必要である。また、本プロジェクトにおいては、展示パネル用印刷シート、複製画等の展示機材について現地業者・労務を効果的・効率的に活用する方針である。したがって、調達業者による展示パネル用印刷シート、複製画等の製作に必要な情報の収集・確認、工法の調整や工程及び品質の管理はきわめて重要であり、日本から技術者を派遣する必要がある。

(5) 機材調達方針

展示ケース、レプリカ、地形モデル等の機材は、来館者が直接目にする機材である。諸外国から多

数の来館者が訪れることが想定されるため、遺跡の価値を損なわないよう適切なグレードの機材を調達する。

展示パネル、館内表示案内についても、来館者が直接目にする機材であるため、適切なグレードを確保できる機材を調達する。ただし、展示パネル等で表示・解説する内容については、製作に必要な資料や研究者の所在及び現地語での表示を考慮し、現地調達の方針とした。

AV等の機材については、メンテナンスの困難さなどが生じる恐れのある特殊な操作・維持管理を必要とする機材を避け、汎用機材を調達することとする。アヌラーダプラのジェットワナ及びアバヤギリヤ遺跡博物館のオーディトリウム等では、プロジェクター、コンピューター、DVDプレーヤー、ビデオ提示装置等が利用され維持管理に特段の問題が発生していないことから、本プロジェクトでもこれらの利用に関しては、技術的な支障はない。なお、これらの機材で利用する映像等は、将来の更新を含めて「ス」国側負担で整備する。

3-2-4-2 調達上の留意事項

(1) 調達事情

フレスコポケットの壁画の複製画は現地で調達可能である。しかし、レプリカ、地形モデル等については、本プロジェクトに適切なグレード・規模のものを現地で調達することが困難である。したがって、これらは日本調達の方針とするが、現地での維持管理に支障なく容易な仕様とする。具体的には、交換部品の必要性を最小限に抑えられるよう配慮するとともに、必要な交換部品が現地で容易に入手できることに留意する。

AV等一般機材等について、本プロジェクトに適切と考えられるグレードの機材は現地の一般市場には流通していないが、類似関連品を扱う代理店・輸入業者は多数存在し、注文に応じて輸入手続きを開始する事が可能である。スペアパーツについても同様に輸入が可能であり、アフターサービスも可能である。また、展示パネル用の印刷シートは現地で調達可能である。

(2) 安全対策

「ス」国では、民族問題に起因するテロに対する注意が必要である。現地の国内輸送については常に最新の情報を入手する等の安全対策を行うとともに、不慮の事態に対する保険等の対策を考慮する。

3-2-4-3 調達・据付区分

我が国と「ス」国側の調達・据付負担区分は表 3-4 に示すとおりである。なお、無償資金協力における一般的な分担事業については、「3-3 相手国側分担事業の概要」のとおりである。

表 3-4 調達・据付区分表

No.	項目	無償資金協力	「ス」国側負担
1	新シーギリア博物館、建物の建設		●
2	展示エリアの整備		
	1) 内装仕上げ工事 (床・デッキ床、壁・展示壁、天井)		●
	2) 電気設備		
	a. 受変電器及び主分電盤		●
	b. 展示用照明を除く建物内配線及び照明・コンセント		●
	c. 展示照明用の非常電源		●
	3) 空調換気設備		●
	4) セキュリティ・システムの整備		●
3	展示用機材等の整備		
	a. プロジェクトの機材 (3-2-2-2 表 3-1)	●	
	b. プロジェクトの機材 (3-2-2-2 表 3-3)		●
	c. 展示に必要な全ての情報・資料・翻訳・音声及び映像ソフト等		●
	d. 一般家具及び上記 a.b.以外の機材		●
4	展示エリア以外の設備・機材・家具の整備		●
5	新博物館のアクセス及び周辺の整備		●
6	輸送と通関		
	1) 日本からの機材の海上(空) 輸送	●	
	2) 荷揚げ港での製品の免税と通関		●
	3) 荷揚げ港からサイトへの内陸輸送	●	

3-2-4-4 調達監理計画

(1) 調達監理の基本方針

我が国の無償資金協力制度に基づき、コンサルタントは基本設計の趣旨を踏まえ、実施設計業務・調達監理業務について一貫した円滑な業務実施を図る。コンサルタントは調達監理段階において、プロジェクト・サイト周辺が世界遺産に登録されている著名な観光地であるという事情を十分に認識し、安全管理、船積み期限・履行期限の遵守、第三者機関による船積み機材の確認、機材の据付け工事の監理、引渡しを行う。また、コンサルタントは「ス」国内で調達される機材の監理を実施し、適切な品質を確保する。

(2) コンサルタントの実施設計・調達監理計画

1) 実施設計体制

「業務主任」及び「展示計画／機材計画担当技術者」により、計画内容最終確認、機材仕様書等のレビュー、入札図書作成を行い、図渡し・内容説明、入札評価を実施する。

表 3-5 コンサルタントの実施設計体制

担当名	内容
業務主任 展示計画／機材計画(1)	計画内容最終確認、機材仕様書等のレビュー、入札図書承認 図渡し・内容説明、入札評価
展示計画／機材計画(2)(3)	入札図書作成

2) 調達監理体制

適切な品質を確保し、プロジェクト効果を最大限に発現させるため、技術者が継続的な監理を行う。具体的には、現地調査、日本国内での機材製作図の照合・確認・承認、現地での納入据付環境の事前確認、日本国内および現地での中間検査、現地での監理を行う。また、検査技術者が次の各検査立会を行う。

- ・ 工場製品検査の検査
- ・ 出荷前検査の検査

機材の納入据付後に検収を行ったうえ、調達監理技術者が相手国側への引渡し業務を行う。

(3) 調達業者の調達管理計画

履行期限内に、求められる品質の機材を調達し、据付・調整を完了するため、調達業者の十分な管理が必要である。そのため、日本国内で製作・調達管理を実施するとともに経験を積んだ日本人技術者を適宜現地に派遣し、事前調査・調整を行うとともに現地業者・労務を活用し据付・調整を行う。

日本調達機材については、検査要員による製作図確認・照合、工場製品検査、出荷前検査、船積み前機材照合検査立会を実施する。また、現地でプレスコポケットレプリカおよびの他の機材に関する受入・検収・引渡しのため、現地調達管理を実施する。

(4) 安全管理

調達業者に安全管理責任者の選任を求め、協議・協力のもと、据付・調整期間中の現場での労働災害及び第三者に対する傷害や事故を未然に防止するよう指導する。現場での安全管理に関する留意点は以下の通りである。なお、事故等が発生した場合には、CCF、文化省、JICA 現地事務所、在「ス」国日本大使館、JICA 本部に速やかに報告を行う。

- 安全管理規定の制定と管理者の選任
- 安全対策の関係者への周知、徹底
- 最新の治安情報の収集、把握
- 緊急連絡網の整備、緊急時の避難態勢整備
- 機械類の定期点検の実施による災害の防止
- 運行ルート策定と安全走行の徹底
- 労働者に対する福利厚生対策

(5) 計画実施に関する全体的な関係

調達監理時を含め、本プロジェクトの実施担当者の相互関係は、図3-8の通りである。

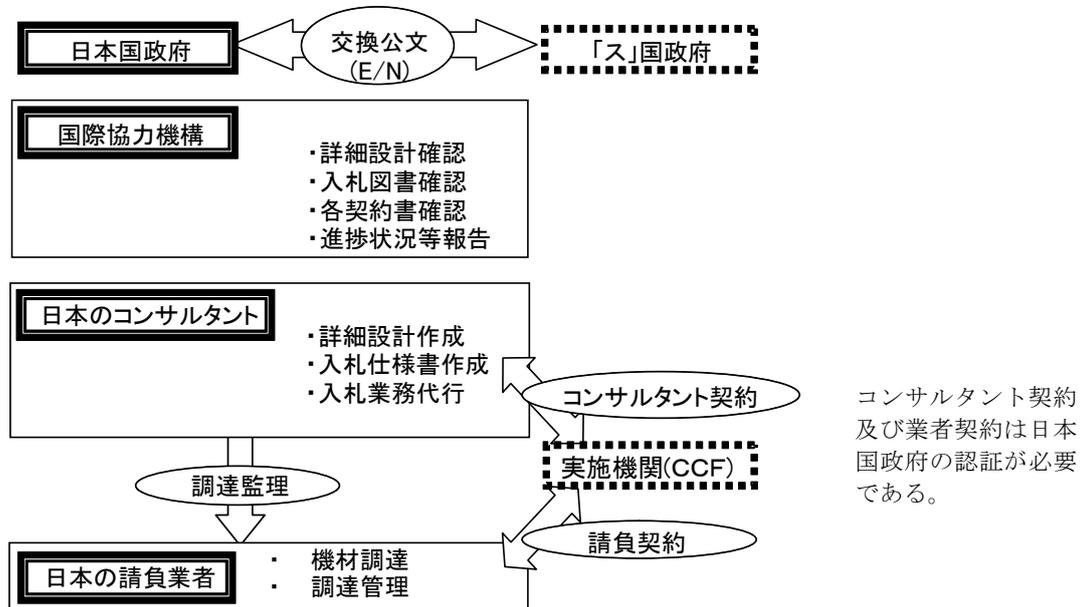


図 3-8 事業実施関係図

3-2-4-5 品質管理計画

(1) 工程管理

調達業者が契約書に示された船積み期限・履行期限を遵守するために、契約時に計画した実施工程と実際の進捗状況との比較を毎月または各週に行う。工程遅延が予測される場合は、請負業者に対し注意を促すと共にその対策案の提出と実施を求め、期限内に機材納入及び据付工事が完了するよう、指導を行う。

日本調達機材については、輸送状況について確認し、通関・サイト渡し等の手続きが迅速に行われるよう留意する。

(2) 品質管理

製作・調達される機材が、契約図書で要求されている機材の品質、規格、数量等を満足すように以下の項目に基づき監理を行う。仕様書・製作図等の確認及び照査の結果、契約図書で要求される品質と異なる可能性がある場合、コンサルタントは直ちに請負業者に訂正、変更、修正等を求めて品質を確保する。

なお、契約上、船積み時に支払いが行われる機材については、第三者検査機関により機材リストと船積み時の調達機材との照合・検査を行う。検査は、当該コンサルタント及び請負業者以外の実績・

信用のある第三者機関に委託し、実施する。検査内容は、契約書の機材リストと船積み書類との照合、及び船積み機材と船積み書類との照合による機材内容及び数量の確認とする。

サイトでの受け取り時には、検収により機材の不具合の有無を確認する。操作及び取扱い説明、引渡し等が確実に実施されるよう、監理を行う。

- 機材仕様書及び製作図の照査
- 「ス」国側負担工事・調達内容（備品・建具等含む）との製作図及び仕様書の照査
- 機材の製造・製作現場への立会い又は検査結果の照査
- 機材の据付施工図及び据付要領書の照査
- 据付状況の監理・確認

3-2-4-6 資機材等調達計画

実施機関である CCF、類似施設等から機材調達についての情報を入手し、調達事情に関する調査を行った結果、調達計画を以下のとおりとした。

- 「展示ケース」、「展示台」、「演示具」については、現地調達品があるものの完成度が低く、適正なグレードを確保するため日本調達とする。
- 「館内案内表示」、「エリア表示」、「ギャラリー表示」は印刷シートを下地となる鋼板に貼り付けて製作する。印刷シートについては、既存の製品完成度にやや難点が見られるものの、製作に必要な資料や研究者の所在及び現地語での表示を考慮すれば、現地調達が適当である。ただし、精度の高い製品にするため日本側でコンサルタントが監理を行う。下地については、現地調達品があるものの完成度にやや難点があるため、日本調達とする。
- 「展示パネル」は、①印刷シートを下地となる木工パネルに貼り付けて製作するパネル、②地図に発光表示装置を配したパネル、③照明内蔵式パネル、④ガラスパネルにエッチング加工したパネルからなる。①については「館内案内表示」と同様に計画した。②及び③については、適正なグレードを確保するために日本調達とする。④ガラスパネルは、史記をエッチング加工したパネルであるが、建築工事との調整が不可欠であるため、「ス」国側負担で実施する。
- 「地形モデル」（シーギリア遺跡の地形モデル）は、ガラス床の下に展示する。地形モデルについては、現地製作した類似例の完成度が低いため、効果的な展示とするために日本調達とする。床用のガラスについては、相応の強度が要求される。強化ガラスの現地調達は輸入により可能であるが、合わせガラス加工を現地で行うことは不可能であるため、日本調達とする。
- 「巨石墓レプリカ」、「人骨発掘現場復元地型」、「溶鉱炉レプリカ」、「フレスコポケットレプリカの形状レプリカ（岩壁の構造体）」については、現地製作した類似例の完成度が低いため、効果的な展示とするために日本調達とする。なお、人骨発掘現場復元地型については、人骨本体は遺品現物の展示とし、発掘時の地型を復元する。フレスコポケットレプリカの複製画部分に

については、現地に経験・実績のある技術者が複数名おり、現地調達が可能なおことから、グレードの確保に留意しつつ、現地調達とする。

- 「AV システム」、「オーディオシステム」、「プロジェクターシステム」、「展示照明」について、本プロジェクトに適切と考えられるグレードの機材は現地の一般市場には流通していないが、類似関連品を扱う代理店・輸入業者は多数存在し、注文に応じて輸入手続きを開始できる。また、スペアパーツについても同様に輸入が可能である。システム構成の必要性・交換部品の調達可能性等を総合的に検証し、日本調達を検討した。
- 輸入機材のコロンボ港からサイト周辺までの国内輸送に関しては、40 フィートコンテナでの輸送を想定しているが、特に支障はない。

表 3-6 機材調達先

機材項目	調達先	現地	日本	第三国
展示ケース			○	
展示台			○	
演示具			○	
館内案内表示 (本体)			○	
館内案内表示 (印刷シート)		○		
エリア表示 (本体)			○	
エリア表示 (印刷シート)		○		
ギャラリー表示 (本体)			○	
ギャラリー表示 (印刷シート)		○		
展示パネル (本体)			○	
展示パネル (印刷シート)		○		
展示パネル (発光表示地図)			○	
展示パネル (内照式)			○	
地形モデル			○	
人骨発掘現場復元地型			○	
巨石墓レプリカ			○	
溶鉱炉レプリカ			○	
フレスコポケットレプリカ (壁形状レプリカ)			○	
フレスコポケットレプリカ (複製画部分)		○		
AV システム			○	
オーディオシステム			○	
プロジェクターシステム (ギャラリー3用)			○	
プロジェクターシステム (ミニオーディトリウム用)			○	
展示照明			○	

3-2-4-7 初期操作指導・運用指導等

機材類の操作・維持管理方法については、博物館への配置が予定される技術者等のスタッフに、納入据付時、引渡し時に、取扱い及び維持管理方法を説明し周知を図る。初期操作指導および運用指導は必要としない。

3-2-4-8 ソフトコンポーネント計画

無償資金協力により調達される機材の運用及び維持管理は、新シーギリア博物館に配置されるCCF スタッフによる実施が可能なことから、ソフトコンポーネントは本件無償資金協力の対象としない。

3-2-4-9 実施工程

(1) 実施設計等

E/N締結後、速やかにCCFとコンサルタント契約を締結し、計画内容の最終確認、機材仕様書の見直し、入札図書作成を行い、承認を得て入札手続きを行う。入札及び入札評価を行い、調達業者契約締結を支援する。この期間は、約3.5ヶ月が見込まれる。

(2) 調達実施工期の策定

調達業者契約締結後、引渡し完了までの工程は以下のとおりであり、約14.5ヶ月が見込まれる。

1) 調達機材の製作期間

日本調達機材のうち、地形モデルとフレスコポケットレプリカ(形状レプリカ)については、現地における詳細な測量調査等の準備作業が必要となり、製作図作成および承認に約4ヶ月、製作に5ヶ月を見込む必要がある。その他の機材の製作、調達を含め、約9ヶ月を必要とする。

2) 輸送期間と到着時期、諸手続に要する期間

日本調達機材の輸送には、出荷前検査、海上輸送、荷揚げ、内陸輸送、プロジェクト・サイトにおける積み降ろしまでの期間として、約2ヶ月を必要とする。

3) 据付工事、現地調達等の工程

日本調達機材については、施設建設工事完了後、新シーギリア博物館内の所定の位置に搬入する。モデル・レプリカ、パネル類等について据付工事を行い、AVシステム、展示用照明については、据付、調整・試運転を行う。また、フレスコポケットレプリカについては、形状レプリカ据付後に現場で複製壁画の製作を行う。これらの作業に検査・検収を加え、引渡しまでに要する期間として約3.5ヶ月間とする。

月数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
実施設計	E/N																				
		■	計画内容最終確認																		
			機材仕様書等のレビュー・入札図書作成																		
			■	入札図書承認																	
				□		図渡し・内容説明															
		計3.5ヶ月				■	入札・入札評価														
機材調達					■	設計打合せ															
						製作図作成・承認		■	納入据付環境の事前確認												
									展示ケース等製作												
									レプリカ等製作					据付、複製画製作							
									パネル等製作		印刷製作										
											出荷前検査										
												輸送									
																		■	据付		■
																					■
		計14.5ヶ月																			引渡し

□ :国内作業 ■ :現地作業

図 3-9 事業実施工程表

3-3 相手国側分担事業の概要

無償資金協力の実施に必要な相手国側負担事項は、以下の通りである。CCF が適切な時期に関係諸機関への必要な手続きと予算措置を講じることを確認し、M/D に記載した。

- 銀行間取り決め（Banking Arrangement : B/A）に基づく日本の銀行への以下の銀行業務手数料の負担
 - 1) 支払授權証（Authrization to Pay : A/P）通知手数料
 - 2) 支払い手数料
- 荷揚げ港での荷揚げ、通関と免税の保証
- 無償資金協力で調達される製品、資材および業務へ課される付加価値税ほか国内税の免除
- 認証契約による製品の供給及び業務の遂行に必要な日本人の入国及び滞在に必要な便宜の供与
- 認証契約による製品の供給及び業務の遂行に関し、日本人に受入国で課される関税、国内税および他賦課金の免除
- 無償資金協力で備えられた機材の維持管理と適切で効果的な使用
- 機材の輸送と据付に必要な無償資金協力で負担されないすべての費用負担

なお、国内調達にかかる付加価値税については、無償資金協力プロジェクトの実施機関が課税相当額を調達業者に還付する方式が取られている。本計画では CCF がこの還付額を負担する。

(1) 新シーギリア博物館建設工事追加等の負担事項

展示計画の実施に必要な新シーギリア博物館建設工事の変更及び追加事項等とこれらに対する新たな予算措置の必要性和確保を確認した。

- 内装工事（床の造作、展示用隔壁、床や壁の仕上げ等）の追加および家具調度の調達（床及び展示用隔壁には木材を使用し、展示デザインにあわせた仕様とすること。）
- ギャラリー 1～5 の空調換気設備の設置
- 非常用電源の発電機設置（全館対応）
- 展示ガラスパネル（史記エッチング加工）のロビー西側外壁部への設置（据付けるためのフレームまたはサポートの用意を含む。）
- 展示用照明の支持材および電源供給設備、配線の設置
- 展示計画に対応した建築計画の変更（展示室の床レベルの変更、発電機室の設置等）
- チケットカウンター、書架を含む博物館家具の調達
- 警備に必要な相互通話無線機の調達
- 展示品として計画されたが、オリジナル展示品の確保が困難となったために製作が必要となった複製品（シーギリア・イヤリング、イッパンカトゥワ・特殊縞ビーズ、イッパンカトゥワ・ネックレス、民俗土偶数種）の製作。

(2) 新シーギリア博物館の改善に必要な事項

「ス」国側は、新シーギリア博物館を改善するため、予算措置を含めて次の事項を負担する。

- ミニオーディトリウム、学芸員室、収蔵庫への空調機の設置
- 高齢者や身体の不自由な来館者用の簡易エレベーターの設置
- 出入口付近の喫茶・休憩コーナーの設置
- 新シーギリア博物館周囲の景観整備

(3) 対象施設における展示に関する負担事項

展示計画のコンセプトに基づき、無償資金協力が実施される場合の「ス」国側負担を以下のとおり確認した。

- 個々の展示品名を表示する「キャプションボード」の製作
- 無償資金協力事業の調達対象外の機材調達
- 新シーギリア博物館展示準備のための実施機関（CCF）及び主管官庁内の人材確保（具体的には専門委員会の長期任命と、手足となるリサーチ・チームの確保）。それら人材によるデータ収集、発掘測量、保存修復等の準備
- 新シーギリア博物館スタッフの展示機材搬入時までの配置（特に維持管理技術者）
- 展示に必要となる外部への必要業務の発注（例：フレスコポケットレプリカのための測量図作成、展示解説準備のための各種専門家遺物鑑定依頼、新規写真撮影、上記複製品作成、一部展示資料のタミル語翻訳、音声録音、ビデオ等ソフト資料作成）

3-4 プロジェクトの運営・維持管理計画

(1) 博物館の運営・維持管理

新シーギリア博物館の運営に関して必要になる業務は、博物館の開館／閉館、来館者への対応、広報活動等である。

博物館の運営・維持管理に予定されている人員は表 3-7 の約 39 名である。これらの人員は CCF 内の人事異動により配置される計画であり、本博物館の維持管理に十分な組織・人員能力を有していると判断される。

来館者への対応、つまり展示案内／解説については CCF が運営する博物館で確立されている方法と同様に、教育員と館内解説員の二種類のスタッフが対応する。教育員は、学生団体やその他重要な団体の対応と引率形式の展示解説を担当し、AV システム等の機材を操作する。また、教育員はセミナーの計画、プレゼンテーションの工夫や教育プログラムの開発など、対外交渉と広報活動も担当する。館内解説員は各展示ギャラリーに配置されその場で来場者の質問に応じて展示内容を解説する。

建物本体、電気設備、空調設備、調達された機材等について、定期的な点検、補修、消耗品の交換、故障時の修理が必要である。これらは博物館の技術者(1)(2)が維持管理を行う。また、清掃員等が日常の清掃、整理・整頓を実施し、施設を健全な状態に保つ。

表 3-7 新シーギリア博物館の要員配置計画

担当	職務概要	人数 計39名
プロジェクト責任者	博物館を含むCCFシーギリア・プロジェクトの総括責任者	1
博物館責任者	博物館の運営責任者(OIC：Officer-In-Charge)と呼ばれ、考古学的有識者が担当する。「博物館長」に該当する。	1
技術者(1)	建物および展示空間の維持管理担当者である。展示機材の全般的な維持管理を担当し、展示機材の据付時及び引渡し時の取扱い維持管理説明の受入窓口となる。	1
技術者(2)	電気設備担当者である。展示空間を含む建物全体の電気設備および電気機器類の維持管理を担当する。	1
教育員	広報と対外交渉を担当し、学生や、その他団体の対応と展示解説を担当する。	5
館内解説員	各展示ギャラリーに配置される解説員。展示品及び展示機材の通常維持管理を担当する。	10
警備主任	博物館の建物全体及び展示室の警備を担当する。 職階により3段階に分かれる。	1
警備担当者		3
警備員		6
清掃員等		10

(2) 展示の維持管理

展示品及び展示機材の日常の維持管理は館内解説員が担当するが、レプリカ・モデル等の展示物の小規模な修理等の維持管理は、技術者(1)が納入据付時、引渡し時の取扱い及び維持管理の説明に従い行う。また、AV機器などの電気機器類は10～15年程度の更新期間を見込む必要がある。

展示パネルの展示内容の変更修正や映像ソフト等を更新していく作業は、博物館責任者が必要に応じて概要を決定し、CCF本部、CCFシーギリア・プロジェクトのスタッフ、大学、研究機関等と連携して行う。その際、博物館責任者ととも教育員が博物館側のスタッフとして参加する。

なお、本事業で整備する展示機材は常設展示用の機材であり、展示内容の全面更新は基本的に行わないが、博物館内のその他のスペースを使用しての企画展示などは博物館責任者や教育員が企画し、その都度必要な人材を配置して実施する。

CCFには博物館の運営・維持管理に経験があり、展示施設の規模及び設備等が類似するポロンナルワ遺跡博物館でも赤外線センサーや監視カメラ等のセキュリティ・システムの故障を除き維持管理に大きな問題がないことから、CCFの運営・維持管理能力に特段の問題はない。なお、セキュリティ・システムの設置は先方負担事項であり、警備員や館内解説員の数を増す等による維持管理の容易なシステムが確保される必要がある。

3-5 プロジェクトの概算事業費

3-5-1 協力対象事業の概算事業費

本協力対象事業を実施する場合に必要な概算事業費総額は約 2.12 億円である。日本側と「ス」国側の負担区分に基づく双方の経費内訳は、下記(3)積算条件によって、次のように見積られる。ただし、ここに示す概算事業費総額は暫定値であり、必ずしも交換公文上の供与限度額を示すものではなく、本協力対象事業の実施が検討される時点において更に精査される。

(1) 日本側負担経費

総概算事業費 約170.9百万円

表 3-8 概算事業費（日本側負担経費）

費目		概算事業費(百万円)	
機材	展示ケース、展示台、演示具、 館内案内表示、エリア表示、ギャラリー表示、 展示パネル、展示パネル(発光表示地図)、展示パネル(内照式)、 地形モデル、人骨発掘現場復元地型、巨石墓レプリカ、 溶鉱炉レプリカ、フレスコポケットレプリカ、 AVシステム、プロジェクターシステム(ギャラリー3用)、 プロジェクターシステム(ミニオーディトリウム用)、 オーディオシステム、展示照明	116.8	142.6
	現地調達管理据付工事費等	25.8	
設計	実施設計費	12.6	28.3
監理	調達監理費	15.7	
合計		170.9	

(2) 「ス」国負担経費 3,794万LKR(スリランカルピー) (約42.60百万円)

「ス」国側の負担事業のうち、無償資金協力実施中の予算措置が必要な負担内容を、表 3-9 に示す。「ス」国政府は、これらの経費のうち 36,800 千 LKR(スリランカルピー)は我が国の貧困農民支援無償(2KR)の見返り資金から充当する方針であるが、万一見返り資金の充当が不可能な場合にも、国家レベルの上位計画に基く新シーギリア博物館の建設整備の重要性から、2008 年の「ス」国政府予算により充当することとしている。

残る 1,137 千 LKR を CCF が負担する。これは CCF の 2008 年予算内の世界遺産・周辺サイト費から充当される。この金額は 2007 年予算の同費用の 0.19%程度であり、負担可能な額である。

表 3-9 「ス」国側の負担内容及び経費

負担内容	数量	経費 (現地通貨)	備考
展示室等の内装	1 式	5,800	「ス」国側概算による
展示室の空調設備	1 式	6,000	「ス」国側概算による
非常用発電機	1 式	3,750	「ス」国側概算による
展示ガラスパネル	1 式	500	「ス」国側概算による
展示照明用支持材・電源確保	1 式	4,000	「ス」国側概算による
建設工事の計画変更	1 式	2,750	「ス」国側概算による
博物館用家具類	1 式	2,000	「ス」国側概算による
警備用無線機	1 式	1,000	「ス」国側概算による
展示用複製品	1 式	2,000	「ス」国側概算による
展示室以外の空調設備	1 式	1,000	「ス」国側概算による
博物館周辺の景観整備	1 式	5,000	「ス」国側概算による
簡易エレベーター（身障者用）	1 式	1,500	「ス」国側概算による
喫茶・休憩コーナー	1 式	1,500	「ス」国側概算による
小計		36,800	
付加価値税還付金	1 式	1,137	本無償資金協力対象機材のうち、 現地調達機材に係る付加価値税 相当
キャプションボードの作成	1 式	—	中央文化基金の人的資源と 2008 年活動予算で実施
展示情報の収集、展示コンテンツの作成 (専門家による遺物鑑定や測量等を含む)	1 式	—	中央文化基金の人的資源と 2007 年・2008 年活動予算で実施
合計		37,937	

(単位：千 LKR (スリランカルピー))

(3) 積算条件

- 1) 積算時点 平成 19年 2月
- 2) 為替交換レート 1 USD =118.83円 (2006年8月1日から2007年1月31日平均値)
1 LKR =1.123円 (2006年8月1日から2007年1月31日平均値)
- 3) 調達期間 実施設計、機材調達の期間は事業実施工程に示したとおりである。
- 4) その他 本プロジェクトは、日本国政府の無償資金協力の制度に従い実施されるものとする。

3-5-2 運営・維持管理費

国内にはCCFが運営管理する5つのサイト(遺跡)博物館が存在し、サイト博物館は、プロジェクト事務所が管轄している。各プロジェクト事務所の予算は、①運営、②発掘・考古学研究、③遺跡保護・開発・維持費により構成され、新博物館の運営費は①により、維持管理費は③で賄われることになる。

本事業実施によって建設・整備される施設の維持管理費は、表3-10のように見積もられる。

表 3-10 本事業実施による維持管理費

項目	金額 (千LKR/年)	算定条件
維持修繕費 (機材を含む*)	6,220	類似施設(ポロンナルワ博物館:面積約1500m ²)の実績を参考値とし、面積按分(3600/1500 m ²) (新シーギリア博物館:面積約3600m ²)
電気料金	3,700	新シーギリア博物館の電気容量のうち、40%を使用する として試算
衛生施設費	280	類似施設の実績を参考値とし、面積按分(3600/1500 m ²)
電話料金	170	シーギリア・プロジェクト事務所の実績値
給水料金	77	類似施設の実績を参考値とし、面積按分(3600/1500 m ²)
その他維持費	510	シーギリア・プロジェクト事務所の実績値
合計	10,078	

*照明用の交換部品(電球)費、約100千LKR(約50個/年)が含まれる。

CCFでは新シーギリア博物館の開館時まで「ス」国人のシーギリア遺跡への入場料を、博物館の入場料も含めて現在の20LKRから40 LKRに値上げすることを計画している。40 LKRは主食である米の価格が25～40LKR/kgであることから「ス」国人に支払い可能な額である。ただし、外国人の入場料はもともと「ス」国人の約100倍のUS\$20であり差が大きいことから据置く計画である。

CCFは、上記の維持管理費約10,078千LKRについて、この入場料値上げにより見込まれる年間約10,000 千LKRの増収(年間約50万人の「ス」国人入場者から徴収する差額:20LKR×50万人=10,000 千LKR)と合わせ、近く終了するシーギリア・プロジェクト発掘計画の費用(1,264千LKR/2006年)を新シーギリア博物館の維持管理費に振り替えて予算確保を実施する計画である。この収入計画は現実的であり、予算確保に問題はない。

3-6 協力対象事業実施に当たっての留意事項

- 事業実施期間は、18ヶ月が見込まれる。我が国の単年度の無償資金協力事業は完了引渡し後の手続きを含め会計年度末3月前半に終了しなければならないことから、遅くとも事業完了が予定される前年8月にはE/Nが締結され、遅滞なく事業が開始されることが必要である。
- 遅滞のない事業実施のためには、「ス」国側負担事業として実施設計開始時までにモデル・レプリカ、演示具など展示品に応じて設計・製作が必要な機材の仕様書に必要な、全ての展示情報が準備される必要がある。
- 展示パネルの解説文・図版・写真などを含む機材製作に必要な全ての情報もまた、「ス」国側負担事業として調達業者決定後に遅滞なく提供される必要がある。
- 新シーギリア博物館の建設工事は、展示機材整備に必要な内装、空調設備工事を含め、遅くとも機材が搬入される前までに完了する必要がある。「ス」国側の機材調達も同様である。
- 新シーギリア博物館の責任者は、事業開始前からの配置が望まれる。また、スタッフは機材の搬入時までに配置され、据付機材の内容、取り扱いを把握する必要がある。

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

4-1 プロジェクトの効果

(1) 新シーギリア博物館に期待される効果

本プロジェクト実施により期待される直接効果及び間接効果は表 4-1 のとおりである。

表 4-1 プロジェクトの効果

現状と問題点	協力対象事業での対策	直接効果	間接効果
展示形態・サービスのレベルが劣っている。	<ul style="list-style-type: none"> 展示用機材（展示ケース、演示具等）を整備する。 見学者への配慮と一貫性のある展示物（案内表示・展示パネル・レプリカ等）を整備する。 	<p>① <u>シーギリア遺跡の文化財が、機材整備を通じて、わかりやすく展示されることにより、国内外の来訪者におけるシーギリア遺跡への関心・理解を深めることができる。</u></p> <p>《成果指標》 貴重遺物等のケース保護展示： 0点→19点に増加、 モデル・レプリカ展示： 0点→5点に増加、 パネル展示：0点→55点に増加、 映像展示：0点→5点に増加。</p>	<ul style="list-style-type: none"> シーギリア遺跡来訪者に対する博物館利用者の割合が増加する。 シーギリア遺跡の歴史・文化価値が「ス」国内外において再認識され、シーギリア遺跡への来訪者が増加し、周辺地域において観光が振興する。
展示物に関する解説が著しく少ない。また学習できる設備が整っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 展示パネルを整備する。 解説・映像展示を通じた学習に利用できる視聴覚機材を整備する。 	<p>② 「ス」国の教育プログラムにも組み入れられている歴史・文化の学習の場として、学生・学校関係者に利用される機会が増加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光振興により周辺地域の活性化が図られ、地域住民の生活レベルが向上する。
遺跡の中心であるロックの中腹にフレスコポケット、頂上に宮殿跡があるが、アクセス手段は階段のみであり、アクセスが困難である。	<ul style="list-style-type: none"> 忠実に再現したレプリカを整備する。 映像展示に利用できる視聴覚機材を整備する。 	<p>③ <u>フレスコポケットやロック頂上の宮殿跡等、高齢者や身体の不自由な来訪者にとって実物へのアクセスが困難な文化財について、レプリカや映像等の展示を通じて観覧できるようになる。</u></p>	

1) 直接効果①

既存博物館の展示は、土器片やレンガ片など展示環境の調整や警護の必要性の低い遺物を壁面・床面に並べた収蔵展示である。他方、新シーギリア博物館は、博物館機能とビジターセンター機能を併設する施設として建設されている。施設の中心は展示ギャラリーで構成される博物館機能を持つ部分であり、本無償資金協力プロジェクトによってシーギリア遺跡及び周辺遺跡の各時代に関するパネル、レプリカや遺物の展示が整えられる。見学動線は多様に設定され、来館者は様々な時間的制限や興味レベルに応じて新シーギリア博物館を利用し、関心と理解を増すことが可能である。中心となる展示には年齢層・教育レベルを超えて興味を持てるシーギリア遺跡周辺の地形モデルを据え、歴史や考古学、遺跡がわかりやすく身近に感じられる工夫がなされている。また、重要・希少・貴重な遺物をはじめ、レプリカ・模型・映像・パネルなどの既存博物館にはない展示方法を通してシーギリア遺跡の真価が、物語性をもって見学者にわかりやすく伝えられる。

ビジターセンター機能をもつ建物の部分では、ビジター・オリエンテーション・ロビー及びミニオーデトリアムの視聴覚機材が整備される。ビジター・オリエンテーション・ロビーでは多言語・短時間のビデオ上映を行い、時間的制限がある、または興味が薄い見学者にもシーギリア遺跡及び博物館を簡潔に紹介することができる。将来的には周辺設備や屋外シアター上演演目などの紹介も行なうことができる。

2) 直接効果②

展示ギャラリーでは重要展示品が主動線上に配置される。他方、容易に識別できて見学者自身が興味に応じて選択できる副室的な展示や詳細な解説パネルなどが配置され、多様な見学者へ配慮すると同時に、学術的レベルが高く教育効果も高い展示が実現される。ミニオーデトリウムではオーディオビジュアルを効果的に利用した説明やオリエンテーションなどが受講可能であり、主に学校関係者の歴史・文化の学習の場として利用される。また解説等に用いる3言語以外の言語を必要とする外国人団体客に対応する場としても設定されている。

3) 直接効果③

遺跡内には高齢者や身体の不自由な来訪者が行き難い場所も多くあるため、博物館では体感できる展示(アクセスの難しい場所にある中心的アトラクションであるフレスコポケットと壁画の正確な複製、レプリカによる出土状況の忠実な再現など、すべて実物大で再現した展示)が提供される。加えて、建物が少ない遺跡内で、屋内の休憩ができる貴重なスペースともなる。

(2) ベースライン調査結果

シーギリア遺跡と既存博物館の利用状況について、2007年2月にベースライン調査を実施した。内容は、既存博物館への入場者数、シーギリア遺跡への入場者数、シーギリア遺跡の利用状況、既存博物館・シーギリア遺跡に対する評価等である。方法は、統計資料調査、数量調査(属性別人数、期間:2週間)、アンケート調査(対象:外国人観光客・観光業者・学校関係者)である。

ベースライン調査結果の概要は、以下のとおりである。これらは協力対象事業の基本計画を策定する際の参考資料とした。またプロジェクト完了後、間接効果の発現をはかるための基礎資料となる。

(調査方法、調査結果詳細等は資料 7-1 ベースライン調査参照)。

1) 遺跡訪問者と博物館利用

- シーギリア遺跡への平均入場者数は約 1,200 人/日であり、そのうち「ス」国人が 77%と大多数を占める。既存博物館への平均入場者数は 99%以上が「ス」国人である。
- シーギリア遺跡を訪問する「ス」国人の 15%が既存博物館を利用している。年齢別では青年・大人層の 6%程度しか既存博物館を利用していないのに対し、児童・生徒、シニア層の 60%近くが利用している。児童・生徒は教育目的で引率されるケースが多いこと、シニア層は体力的な制限によって遺跡見学ではなく博物館見学を行うケースが多いと推察される。

2) 外国人観光客

- シーギリア遺跡を訪れる外国人の内訳は、83%が欧米系、13%が東洋系である。シーギリア遺跡を初めて訪問する者が 90%である。外国人はチャーターした車両で遺跡を訪れ、同伴ガイド付で遺跡を見学し、宿泊施設・周辺施設利用の決定は観光業者任せという場合が多い。
- シーギリア遺跡を訪問する外国人は他の文化遺産や博物館も訪問する機会が多い。シーギリア遺跡見学が文化三角地帯・世界遺産ツアーに組み込まれており、遺跡や博物館に興味を持つ人々がシーギリア遺跡を訪れていると考えられる。
- 外国人のうち既存博物館を利用したのは 1%未満である。日程・コースとも観光業者任せで決定されるが、既存博物館が満足できる内容でなく、観光業者が率先して案内する施設でないため、施設利用割合が低いと考えられる。
- 既存博物館に対する外国人のコンテンツ・満足度評価は他の博物館と比較して著しく低い。しかし、外国人・観光業者ともに 95%以上が「ス」国の歴史文化をもっと知りたい、過半数が新シーギリア博物館を利用したいと考えており、新博物館への期待度は高い。

3) 観光業者

- 観光業者の半数以上がシーギリア遺跡全体の観光に要する時間を 2~3 時間、多くても 4~6 時間で充分と考えている。一方、シーギリア遺跡の見学時間は岩山を登るといった体力と時間の必要な遺跡であることから短縮できるものではなく、また「ス」国側プロジェクト関係者は遺跡実物の見学体験は短縮すべきでないと考えている。

4) 学校関係者

- シーギリア遺跡の「ス」国人見学者は青年・大人が多く児童・生徒は 10%以下であったが、既存博物館の見学者は半数近くが児童・生徒であった。
- シーギリア遺跡を見学する学校は近隣校にとどまらず、南部や東南部など遠方、コロamboやキャンディなど都市部の学校も多い。95%の学校が年一回以上遠足・旅行を行なっている。シーギリアを見学する児童・生徒の 77%が 10 年生以上であり、歴史教育過程が始まってからの訪問が多い。
- 引率者である教員のほぼ全員が「ス」国の歴史文化についてもっと知りたい、新シーギリア博物館を利用したいと考えている。既存博物館に対しては、解説が不足していると考えている。

5) 遺跡訪問者動向

- 2002 年の「ス」国政府とタミル・イーラム解放の虎との停戦合意以来、外国人観光客数は徐々

に増加する傾向にある。2004 年末の津波の影響で一時的に大幅に減少したものの、2005 年以降は再び回復の傾向にある。

- 国内観光客数は、2004 年に一時的に減少したものの、年間 50 万人以上の観光客誘致を見込める状況にある。

4-2 課題・提言

4-2-1 相手国側が取り組むべき課題・提言

新シーギリア博物館の運営・維持管理計画は人員配置・予算確保において、CCF により準備されており特に問題はない。また、CCF は更なる改善を目指し「新シーギリア博物館活動を通じた観光振興のための技術協力プロジェクト」を我が国に要請している。

(1) 本無償資金協力プロジェクトの効果が発現・持続し、シーギリア遺跡の歴史・文化価値が「ス」国内外において再認識され、訪問者が増加し観光振興に資するために、新シーギリア博物館の活動・運営等に関して「ス」国側が取り組むべき今後の課題は以下の通りである。

1) 展示内容

展示コンテンツや映像ソフトが適切に維持管理され、見学者に最新の情報が提供されるためには、博物館責任者や教育員とともに、CCF 本部や学識経験者等の外部専門家を巻き込んだ定期的なコンテンツ・ソフトの見直しや職員講習の実施が効果的である。

2) スタッフの研修

ビジターに対応する職員は教育員と館内解説員の 2 種類あるが、どちらも訓練や講習などを通してビジター対応や歴史・文化の知識などを向上し、同時にお互いに協力し、サービスを優先した相乗作用のあるビジター対応の開発に取り組むことが望ましい。

3) 施設機材の維持管理

施設及び機材が適切に維持管理されるための人員、予算が確保され、施設運営が適切に実施される必要がある。特に展示ギャラリーの日常管理や掃除は重要であり、例えば清掃員に任せるだけでなくギャラリーに常駐する者の職掌に掃除や日常管理の一部を割り当てるなど、従来と違う対応を開発すれば、より効果的な博物館運営が実現できる。

4) 教育・普及・広報活動

本無償資金協力プロジェクトで整備する展示パネルに関し、展示内容の整備過程で「ス」国専門家委員会と CCF によって収集された情報は、展示品カタログやパンフレット等の出版物に活用できるレベルのものであり、このことは専門家委員会も認識している。広報・教育活動の一環として、外国人向けのカラー版だけでなく、学生にも購入できる展示エリア毎の廉価な解説文などの出版活動を、CCF 本部や大学・研究機関の専門家を巻き込んで取り組み実施することを提案する。

(2) 新シーギリア博物館活動を通じ、観光振興による地域の活性化を図るためには、博物館全体の活用に対して以下の提案があげられる。

1) 博物館間連携・関連機関連携

新シーギリア博物館の完成後、ポロンナルワ、アヌラーダプラ、シーギリア、ダンプッラ等、世界遺産遺跡すべてに CCF 運営の博物館が所在することになる。パンフレット等の他館情報の相互提示、データベース・ウェブサイトのリンクや共有、共催イベントの開発など、プロジェクト形成調査で提言された、入場者数を増加させるための博物館間のコーディネート提案する。また、CCF 運営の博物館に限らず、国立博物館局、考古局、大学や研究機関の関連施設のコーディネートも重要である。これらの広報・連携活動には、博物館産業という分野が確立されている我が国の技術協力が有効であるが、同時に文化省内の各局との広報・宣伝面での連携、観光省及び観光局との連携、CCF 各プロジェクト間での広報・宣伝面のより一層の連携が望ましい。

2) 博物館での観光振興

新シーギリア博物館のブックギャラリー等のスペースに、ミュージアムショップの機能を持たせることを提案する。CCF 運営のレプリカ・センターを活用し、観光振興の一環として高品質な、他所では入手できない商品の開発が望まれる。

3) 地域・観光振興

シーギリア遺跡周辺にあるホテル等観光施設、寺院、考古局運営の遺跡などと連携し、エリア全体での来訪者の滞在時間を伸ばして、結果的に博物館の入場者数を増加させるなど、観光省・観光局や地方行政の観光部門を含む官民の観光振興の視点と連携した、新たな発想で博物館を運営することが望まれる。

4-2-2 技術協力等との連携

(1) 技術協力との連携について

1) 無償資金協力の実施に必要な協力

無償資金協力実施による効果を最大限に発現させるために有効な技術協力に関して、以下 2 点が「ス」国側から要請された。内容は、①展示のトータルコーディネートへの技術協力および、②博物館用の映像ソフト制作への技術協力である。これらについては「ス」国側の 2006 年 11 月の無償資金協力要請リストに含まれていた項目であるが、別途対応が必要とされる可能性があるため、技術協力での対応の可能性を含めて対応方法について検討した。

① 展示のトータルコーディネート

「展示のトータルコーディネート」の要請には、具体的に二種類の協力内容が含まれていた。一つ目は、無償資金協力で調達する機材と内装工事および資機材調達のバランスと調和を図るための、展示デザインの総合的な調整である。すなわち、展示機材・展示空間（内装等）・展示空間内の家具・床・壁の色・一般照明等の設備が、博物館全体として統一されたデザインコンセプトのもとに整備さ

れるための協力が求められた。しかし、内装工事および無償資金協力以外の資機材調達は、設計監理を含めて「ス」国側負担として整理されたため、無償資金協力のコンサルタント業務の範囲内において支援し、展示デザイン空間の総合的な調整を図る方針とした。「ス」国側で実施する内装工事の詳細設計・施工監理、家具類の調達に対して、実施設計の計画内容最終確認時、調達監理期間中の現地調査、事前確認時などの現地業務時に、有効な提言や不適切箇所の指摘、進捗確認等を行う。

二つ目は、展示パネル類制作のために提供される解説文、写真、図版などの展示情報の選択・編集・制作及びパネル類のデザイン制作への協力である。一つ目と同様に無償資金協力のコンサルタント業務の範囲内において、展示情報と調達するデザイン制作との調和を図る方針とした。「ス」国側が実施する個々の展示情報の選択・編集・制作・調整等に対し、展示デザイン的な観点からの提案や指摘を行うなど、効果的なグラフィック・デザインとして仕上げるための支援を行う。なお、レイアウトデザインは、パネル制作に含めて調達する計画とし、最終的な仕上がりが適切かつ効果的なグラフィック・デザインとなるよう調達監理業務の中で品質を監理する。

② 映像ソフト制作

映像ソフトが必要な機材は、具体的には次の3種類である。

- 「ス」国及びシーギリア・エリアの文化・歴史案内、シーギリア遺跡案内、博物館・館内案内、シーギリア・エリア周辺施設案内などのビジターオリエンテーション映像を上映する AV システム（ビジター・オリエンテーション・ロビーに整備）
- プロジェクターを利用して映像展示・解説を行なうための、プロジェクターシステム（ミニオーディトリウムに整備）
- プロジェクターを利用して変化する大画面展示を行うための、プロジェクターシステム（ギャラリー3に整備）

これらの機材に必要となる説明資料・ソフトは、既存資料が活用可能であり同レベル・同種のものであれば「ス」国側で準備・更新も可能であることが確認された。

AV システム用の映像ソフトについては、CCF の博物館で上映している①「スリランカ：天国の根源」：「ス」国の文化遺産の紹介 DVD(48 分、CCF 制作)、②「獅子の山シーギリア」：シーギリア遺跡の紹介 CD(50 分、1983 年、CCF・フランス大使館文化部共同制作)等が利用できる。ただし、本博物館での上映を目的とする専用映像ではない。したがって、将来的に①は全国版の長編であるためシーギリア用に短編編集する、②は画像が古いため更新するなど、既存資料を活かしつつ本博物館での利用を前提とした映像等を制作することがより効果的であり、博物館活動の促進並びに持続性確保の面において技術協力が有効と考えられる。

また、「ス」国側は従来「ス」国内でみられない先進的な展示のひとつとして、バーチャル・リアリティを含めた 3D 映像の先進的ソフトの制作について、日本からの技術協力を要請していた。これは、シーギリア・ロック頂上の宮殿予想復元図等のスライドと同様に、プロジェクターシステム（ギャラリー3用）を利用できる映像ソフトである。現地調査の結果、専門家委員会が希望する 3D 映像等は、既にコロンボ大学コンピューター独立学部（以下、UCSC という）でシーギリア遺跡を対象としたコンテンツが試験的に制作されており、制作技術は「ス」国内で充分調達可能なことが確認された。博物館での展示利用を意識した専用映像は見られなかったものの、将来的に「ス」国の高度な技術を活かし、UCSC 等のスリランカ国内の研究機関と連携して、本博物館での利用を前提とした映像等を制作すれば展示効果が高いと考えられる。したがって、博物館上映用の専用映像を制作する技

術協力も有効と考えられる。

上述のように、数十分規模の長編や先進技術提示目的の映像ではなく、日本の博物館に見られる数分間の展示目的に則した映像を抽出・編集した映像ソフト利用が効果的である。技術協力プロジェクトによってこれら映像が制作されることにより、持続性確保の効果のみならず、無償資金協力実施による本博物館の展示空間の発現効果が高まることが期待できる。

なお、UCSC では、我が国の技術協力プロジェクト「情報技術分野人材育成計画(2002～2005年)」が実施されており、その中の研究開発活動の一つとして「3Dグラフィックスとバーチャル・リアリティ」制作の技術指導が実施された。上記のシーギリア遺跡を対象にした3D映像コンテンツ等はその際に移転された技術を用いて制作されたものである。

2) 技術協力プロジェクトとの連携

「シーギリア博物館活動を通じた観光振興のための技術協力プロジェクト」が CCF より 2006 年 7 月に要請された。「ス」国側が期待する成果は、職員教育、博物館活動の改善（保存、教育、情報提示・広報、記録、遺物のモニタリング、計画開発）、運営・経営指導、保存・研究機能の強化によるシーギリア遺跡研究活動の強化、運営手法のモニタリング、博物館の世界的認知、地元民に対する博物館・遺産教育、「ス」国他博物館への訓練方法の伝播であり、活動内容は、以下のとおりである。

① 博物館スタッフに対する技術指導

(博物館学、ビジター対応・広報、先進機材の維持管理、博物館計画)

- ② 記録・研究ユニットの形成と児童・生徒・一般教育への活用
- ③ 運営・経営指導
- ④ 博物館維持管理方法、利用者情報収集方法のマニュアル化・定型化
- ⑤ 博物館の認知に向けての活動
- ⑥ 「ス」国内での博物館教育と広報活動
- ⑦ 「ス」国他博物館への職員教育

これらの活動・成果を含む要請内容は、考古学的分野（保存・研究・記録）の技術向上と観光振興という、ふたつの分野に対する技術支援要請であった。

次いで、2006 年 9 月に実施されたプロジェクト形成調査では、「シーギリア遺跡を核とした本地域の観光振興について」という的を絞った技術協力の方向性が検討された。概要は、表 4-2 のとおりである。

表 4-2 プロジェクト形成調査で検討された技術協力プロジェクトの方向性

「ス」国側投入	日本側投入
新シーギリア博物館職員より 博物館長 (Museum curator) 博物館間連携・対外活動専門員 (Museum coordinator) 博物館教育員 (Museum educator) 維持管理責任者 (Maintenance engineer) CCF スタッフより 遺跡管理／観光専門家 (Heritage management / heritage tourism) ※ 地元行政・観光省より 観光行政担当者	専門家派遣 遺跡観光振興 (チームリーダー) 展示設計 博物館間連携・対外活動 博物館教育 文化無形遺産活用／観光芸術創造 観光マーケティング 研修受入 「ス」国遺跡管理／観光専門家 (=※) OJT・現地研修 日本人ビジター向け観光振興

「ス」国内では既存の博物館改良の動きが進んでいるため、博物館間連携・対外活動専門員 (Museum Coordinator) に対する技術協力を進める機が熟しており、実施による効果が期待できる。また、CCF の既存施設でも観光振興や教育目的の施設整備をすすめていることから、新シーギリア博物館の博物館教育員 (Museum Educator) への技術指導を皮切りに、他施設への普及の可能性も見える状況である。観光用土産・芸術品の計画・生産などの「観光芸術創造」についても、ごく最近の動きとして、伝統職業校が CCF 直轄のレプリカ・センターとして生まれ変わった経緯もあり、CCF の活動の幅の広がりを活かす要請内容である。観光マーケティングや観光専門家・観光行政官の育成に対する技術協力に関しては、CCF 運営の博物館員が観光局(Sri Lanka Tourist Board)の研修により関連の資格を取得しているなどの実例があり、この分野に関するさらなる技術向上を目指していることが確認された。

また、現地調査において、実施機関の CCF がプロジェクト形成調査で検討された結果に基づき、博物館長職 (Museum Curator) と維持管理責任者 (Maintenance Engineer)を含め、投入する人員を検討していることが確認された。

上述した映像ソフト制作に関する技術協力は、博物館での活用と同時に観光振興を目的とするため、この技術協力プロジェクトに含むことが望ましい。具体的な投入としては、既存ソフトの編集支援と、UCSC での技術協力活動と協力しつつ行なう展示用 3D 映像製作支援が考えられる。特に前者は、無償資金協力の効果がより発現されることから、博物館開館までに映像ソフトが完成していることが望まれる。したがって、技術協力プロジェクトにおいて早い時期に投入を行い支援することが望ましい。

(2) 観光セクター開発計画と本プロジェクトとの関連

新シーギリア博物館整備プロジェクトと観光セクター開発計画 (円借款：TRIP) のシーギリア・サブプロジェクトは密接な関係にある。

現地調査期間中の関係者合同会議および TRIP の地方合同会議へのオブザーバー参加において、基本設計調査団は TRIP 関係者に新シーギリア博物館整備プロジェクトの概要を伝え、アクセス道路及び博物館周辺整備の必要性を伝えた。

周辺整備に関しては、TRIP による参道や乾燥地帯植物園の整備が博物館開館予定前に終了するよう計画されているが、博物館周辺のランドスケイピング (造園、景観整備) は TRIP の事業予定に含まれていないことが再確認された。これを受け、「ス」国負担事項として実施されることとなった。

アクセス道路に関しては、現状では外国人の多くは、遺跡南門前から本来は歩行者専用通路とするべき修復された内城壁・水路沿いの簡易舗装道路を通り、チケット売り場とチェックポイントのある西正門前まで自動車アクセスする (図 4-1 参照)。チャーターされた自動車の場合、この地点で来訪者が降車した後、殆どの車は南門に引き返し、遺跡内に設けられた駐車場に移動する。西正門入口前に車が多数出入りしたり、駐停車したりする問題のほかに、新シーギリア博物館が遺跡へのアクセス経路から外れることになり、新シーギリア博物館が認識され難いという問題が生じる恐れがある。

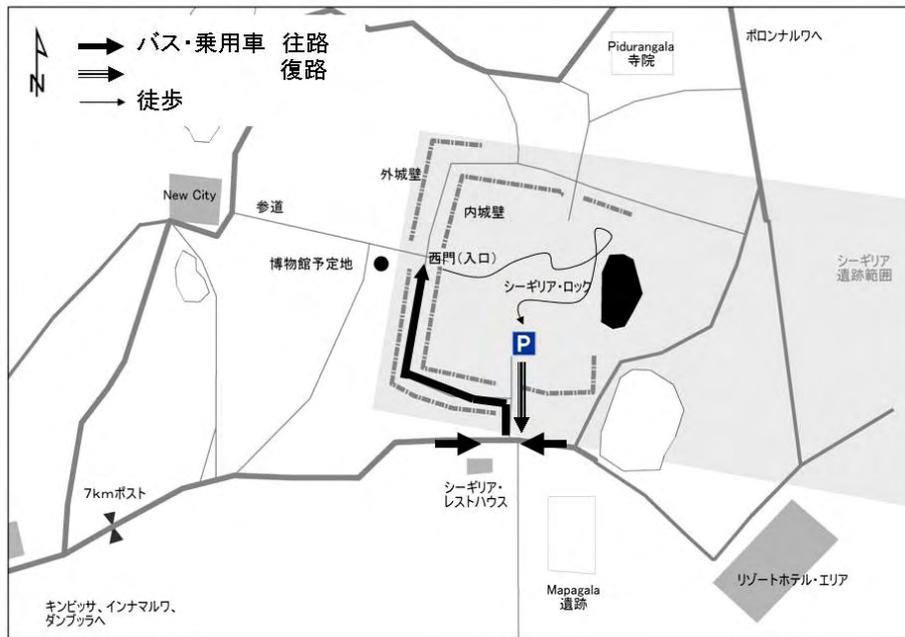


図 4-1 外国人のアクセス状況

これらの問題を解決すべく、現地調査時に TRIP の実施機関である観光省及びサブプロジェクトの窓口機関である CCF に改善策の検討を依頼し、基本設計概要書案説明時に観光省により次の改善策が示された。

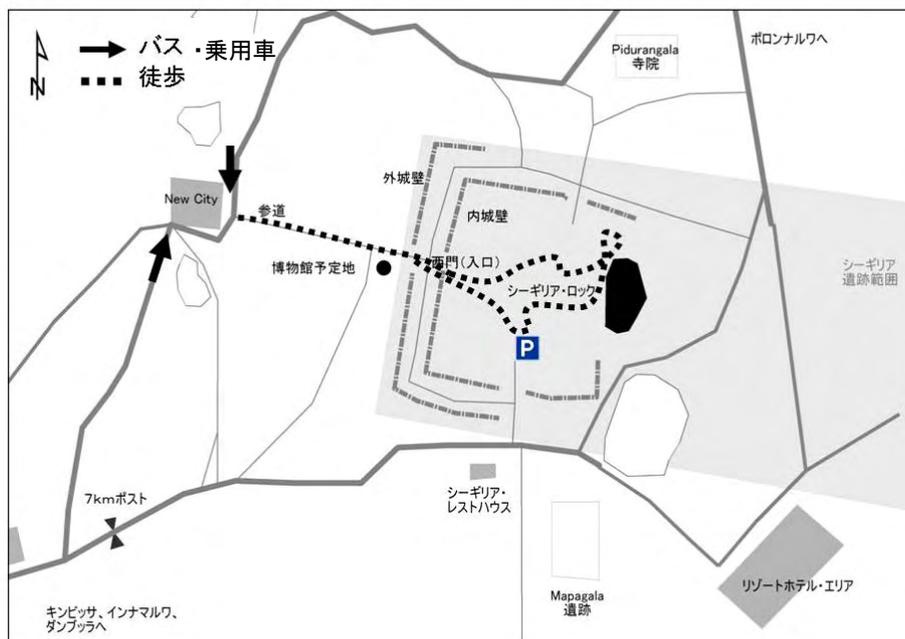


図 4-2 将来の来訪者アクセス経路（現状の国内団体客アクセス路に同じ）

①整備対象道路は TRIP の従来計画(2005 年)のとおりとし、全来訪者用のアクセス道路として整備する。②アクセス道路整備後、現在外国人がアクセス道路としている内城壁・水路沿いの簡易舗装道路への一般車両の通行を禁止し、「ス」国人来訪者と同様に外国人の表参道から徒歩のアクセスを

徹底する。(図 4-2 参照)。

①の整備対象道路の選択理由は、遺跡への主アクセス道路を遺跡・自然保護区外に整備することで保護区を保全し、同時に表参道付近に観光客を導入することで地域産業の活性化を図る、徒歩の区間が増し景観のよい正面遠方からのアプローチにより効果的な遺跡体験を与える、などの利点がある。新シーギリア博物館が順路外になる問題も解決されるが、他方、利便性・機動性が減る観光業者(ツアー運行者)の反発も予想され、CCF 及び観光省がその圧力に耐えられるかが課題である。なお、南門付近にある遺跡内の駐車場は身障者対応の観点から引き続き開放する予定であるとのことである。

TRIP シーギリア・サブプロジェクトはインフラ整備のみを実施しているが、TRIP の主目的は観光振興目的のマーケティング、人材育成、コミュニティ・デベロップメントも含むため、前述の技術協力プロジェクトとの連携も可能であり、連携によりさらなる効果発現が期待される。ただし、現状では CCF 内の本無償資金協力の担当部署と JBIC-TRIP 事業の担当部署が異なるため、このような連携を実現するにはまず、CCF 内での部署間の連携が不可欠である。

(3) 青年海外協力隊 (JOCV) との連携について

本無償資金協力と JOCV の直接連携は現時点では計画されていないが、技術協力プロジェクトの開始に先立ち短期の JOCV 派遣が検討されている。TRIP の事業に関連してネゴンボ・サブプロジェクト管内の地方自治体に派遣中の JOCV が観光振興関連の活動しており、その他ヌワエリヤ・サブプロジェクトでも観光振興関連の JOCV 要請も検討されている。したがって、「ス」国内広範囲における観光振興の JOCV 活動と、技術協力プロジェクトとの連携も有効と考えられる。

4-3 プロジェクトの妥当性

本プロジェクトは、世界の文化遺産についても支援の手を差し伸べる我が国の文化に対する意識の高さを訴え、また日本人観光客の目にも触れて我が国の支援に誇りを感じられるような案件となる。よって以下に示すとおり、本プロジェクトは我が国の無償資金協力による協力対象事業として妥当と判断される。

(1) 緊急性

シーギリア遺跡の既存博物館は、建物、展示物、展示形態、サービス等のレベルにおいて、国内の他の博物館に比べて明らかに劣っている状況にある。「ス」国政府は、観光開発を外貨獲得のための重要政策と位置づけ、その推進に積極的に取り組んでおり、世界遺産に相応しい周辺インフラ、遺跡内インフラ、展示施設などの観光環境をシーギリア遺跡に整備し、観光振興を通じた「ス」国経済の発展に貢献すること目指している。

新シーギリア博物館の建設工事は 2008 年 3 月の竣工予定で進んでいること、観光振興を目的とする TRIP によるシーギリア遺跡内インフラおよびアクセス道路の整備が、2008 年度内の完了を目差して進行していること、シーギリア地域の観光振興に関する技術協力プロジェクトが 2008 年度開始予定で検討されていることから、これらにあわせて展示施設を整備し、一般公開に備える必要がある。

(2) 裨益対象

裨益対象はシーギリア遺跡来訪者（年間約 60 万人）及び「ス」国民（約 1,967 万人）である。

(3) 教育への活用

「ス」国においては、歴史教育課程にシーギリアを含む歴史に関連する場所の視察・見学が義務づけられている。視察・見学対象は、世界遺産・博物館等、「ス」国内全般における歴史的価値の高い施設・地域であり、本件対象のシーギリア遺跡は修学旅行を含め来訪者の最も多い対象地のひとつである。無償資金協力プロジェクト完了により、シーギリア遺跡への関心・理解がより深まり、自国の有する世界遺産の貴重さ、偉大さなど、真の価値を認識し、自らの誇りとするような自国の歴史教育の効果向上が期待できる。

(4) 運営・維持管理能力

CCF は基本的に独立採算で主に遺跡への入場料収入により運営されているが、年度収支実績に応じて活動費の不足が生じた場合には政府が助成している。

新シーギリア博物館の維持管理費は、シーギリア遺跡の入場料収入の増加とあわせ、近く計画が終了する発掘費用の振りかえにより予算確保できる。CCF は、博物館を運営維持管理しており、実績と経験がある。新シーギリア博物館の運営維持管理に予定されている人員は CCF の人事異動により確保される計画であり、本博物館の運営・維持管理に必要な予算と十分な組織・人員能力、技術力と技術レベルを有していると判断される。

(5) 上位計画における位置づけ

「ス」国では、自国の文化と文化遺産の豊富さを強く意識し、対外的にも「文化の宝島」というアイデンティティを押し出そうとしており、国家レベルの開発計画、省レベルの文化政策、実施機関レベルの政策開発構想という各層において、新シーギリア博物館の整備が重点計画のひとつとして位置づけられている。

(6) 環境への配慮

新シーギリア博物館は、サイト周辺の歴史的・地理的環境を配慮した建築として計画されており、周囲の環境・景観の改善に資するものである。

4-4 結論

本プロジェクトは、上述のように多大な効果が期待できると同時に、シーギリア遺跡が世界の財産として共有されることに寄与するものであることから、プロジェクトの一部に対して我が国の無償資金協力を実施することの妥当性が認められる。

また、本プロジェクトの運営・維持管理についても、相手国体制において人員・技術・予算とも十分で実施上の問題はないと考えられる。なお、本プロジェクトがより円滑かつ効果的に実施されるためには、無償資金協力の実施工程に影響する「ス」国側分担事業が遅滞なく実施されることに留意する必要がある。

さらに、新シーギリア博物館を通じて、技術協力プロジェクトによる支援、観光セクター開発計画（円借款）との連携を積極的に活用し、地域の観光振興や開発、新シーギリア博物館を中心とした博物館連間携・遺跡間連携、博物館の運営・教育・普及・広報などの諸活動において「ス」国類似施設の先達となる新たな取り組みを実施すれば、「ス」国の観光振興に向け、本プロジェクトはより効果的なものとなると考えられる。

資 料

1. 調査団員・氏名
2. 調査行程
3. 関係者（面会者）リスト
4. 討議議事録（M/D）
5. 事業事前評価表（基本設計時）
6. 参考資料／入手資料リスト
7. その他の資料・情報

1. 調査団員・氏名

1-1 基本設計調査

氏名	担当業務	現職
坂田 英樹	総括	JICA スリランカ事務所次長
岩本 園子	計画管理	JICA 無償資金協力部業務第一グループ 情報通信ガバナンスチーム
榎原 幹基	業務主任／維持管理計画	株式会社全国農協設計
永金 宏文	展示計画／機材計画(1)	株式会社全国農協設計
阿部 嘉子	展示計画／機材計画(2)	株式会社全国農協設計
片柳 征男	調達計画／積算	株式会社全国農協設計

1-2 基本設計概要説明

氏名	担当業務	現職
坂田 英樹	総括	JICA スリランカ事務所次長
飯田 学	計画管理	JICA スリランカ事務所
榎原 幹基	業務主任／維持管理計画	株式会社全国農協設計
永金 宏文	展示計画／機材計画(1)	株式会社全国農協設計
阿部 嘉子	展示計画／機材計画(2)	株式会社全国農協設計

2. 調査行程

2-1 基本設計調査

日程			官団員		コンサルタント団員				
日数	月日	曜日	総括 [JICA] (坂田)	計画管理 [JICA] (岩本)	業務主任/ 維持管理計画 (楢原)	展示計画/ 機材計画(1) (永金)	展示計画/ 機材計画(2) (阿部)	調達計画 /積算 (片柳)	
1	1/11	木		移動 (成田→ コロombo)	移動(成田→香港→コロombo)				
2	1/12	金	JICA事務所訪問、大使館表敬、 国立博物館視察(文化遺産省専門委員会(以下、委員会)メンバー同行)、 財務計画省表敬、団内協議						
3	1/13	土	移動(コロombo→ポロナルワ)、 ポロナルワ博物館視察(委員会メンバー同行)						
4	1/14	日	新シエーギリア博物館建設工事現場視察(委員会メンバー同行)、 現シエーギリア博物館視察(委員会メンバー同行)、シエーギリア遺跡視察(委員会メン バー同行)、移動(シエーギリア→コロombo)、団内協議						
5	1/15	月	委員会協議						
6	1/16	火	文化遺産省表敬・協議(委員会メンバー同行)、 財務計画省協議(先方負担事項について、委員 会メンバー同行)				文化遺産省表敬・協議、 展示計画検討		
7	1/17	水	財務計画省協議(ミニッツ案について)、 委員会協議(ミニッツ案について)、団内協議				展示計画検討、委員会協議、 団内協議		
8	1/18	木	大使館ODAタスクフォース会議、 文化遺産省協議(ミニッツ案について)				展示計画検討、 文化遺産省協議		
9	1/19	金	ミニッツ署名、大使館報告、JICA事務所報告				ミニッツ署名、展示計画検討		
				移動	ベースライン調査再委託契約交渉				
10	1/20	土		(コロombo →成田)	類似施設視察 (オランダ博物館、自然史博物館、アートギャラリー)				
11	1/21	日			資料整理、団内協議				移動 (成田→香港 →コロombo)
12	1/22	月			JICA事務所協議(援助スキームについて)、 委員会協議(無償資金協力概要説明、展示計画について)				
13	1/23	火			ベースライン調査再委託契約・協議(調査内容について)、委員会・CCF協議 (展示計画について)、ユネスコ現地事務所訪問・活動状況調査				
14	1/24	水			委員会・CCF協議 (無償資金協力概要説明、展示計画、ベースライン調査概要について)				
15	1/25	木			委員会・CCF協議(展示計画について)				
16	1/26	金			文化遺産省協議(関連ドナーについて)、 委員会・CCF協議(展示計画について)				
17	1/27	土			移動(コロombo→キャンディ)、模型作家アトリエ視察、 CCFレプリカセンター視察、キャンディ博物館視察				
18	1/28	日			移動(キャンディ→ダンブッラ→シエーギリア→コロombo) CCFダンブッラ絵画博物館視察、新シエーギリア博物館建設工事現場視察・協 議(施工状況、設計変更内容について)				
19	1/29	月			国立博物館視察(展示内容について)、マハベリセンター地形モデル視察 JICA事務所協議(調査経過報告)、機材計画調査、調達計画調査、 統計資料調査				
20	1/30	火			質問書回答内容分析、測 量局訪問(シエーギリア周辺 地理情報調査)、地質調 査局訪問(シエーギリアロック 関連情報調査)	展示計画・ 機材計画検討	業務主任に 同じ	機材・ 調達計画調査	

日 程			官団員		コンサルタント団員			
日数	月日	曜日	総括 [JICA] (坂田)	計画管理 [JICA] (岩本)	業務主任/ 維持管理計画 (楯原)	展示計画/ 機材計画(1) (永金)	展示計画/ 機材計画(2) (阿部)	調達計画 /積算 (片柳)
21	1/31	水			観光省表敬・協議(新シーギリア博物館アクセス道路について)、観光省・JBIC-TRIP合同協議、CCF協議(質問書回答、展示物情報)	展示計画・機材計画検討	業務主任に同じ	機材・調達計画調査
22	2/1	木			移動(コロンボ→ポロナルワ→シーギリア)、CCFポロナルワ博物館視察(施設内容・維持管理状況調査)	展示計画・機材計画検討	業務主任に同じ	
23	2/2	金			CCFシーギリア協議(展示予定遺物について)、シーギリア遺跡、イバンカトゥワ、アラコラウエフ遺跡調査、移動(シーギリア→アマラーダブラ)	展示計画・機材計画検討	業務主任に同じ	
24	2/3	土			アマラーダブラCCFジェットワナ博物館視察、CCFアバヤギリ博物館視察 アマラーダブラ考古博物館視察	展示計画・機材計画検討	業務主任に同じ	
25	2/4	日			資料整理、団内協議、移動(アマラーダブラ→コロンボ)	展示計画・機材計画検討	業務主任に同じ	
26	2/5	月			委員会・CCF協議(展示計画について)	展示計画検討 機材計画調査	業務主任に同じ	機材・調達計画調査
27	2/6	火			コロンボ大学スクールオブコンピューティング(UCSC)視察(映像ソフト作成状況調査)、機材・調達計画調査	展示計画検討	ケラニア大学訪問(展示予定遺物調査)	業務主任に同じ
28	2/7	水			CCF協議(他ドナー援助、展示品追加情報について)	展示計画検討	業務主任に同じ	機材・調達計画調査
29	2/8	木			委員会・CCF協議(展示計画について)			機材・調達計画調査
30	2/9	金			委員会・CCF協議(BDテクニカルノート(案)について)、展示計画検討			機材・調達計画調査
31	2/10	土			資料整理、団内協議、展示計画案作成			
32	2/11	日			資料整理、団内協議、展示計画案作成			
33	2/12	月			JICA事務所協議、ERD協議、文化遺産省協議、関係機関合同協議	委員会・CCF協議(展示計画について)、関係機関合同協議		業務主任に同じ
34	2/13	火			測量局(シーギリア周辺地理情報補足調査)、ベースライン調査進行状況確認、資料整理	機材・調達計画調査	業務主任に同じ	機材・調達計画調査
35	2/14	水	大使館報告		展示物補足調査、大使館・JICA事務所報告、JBIC-TRIP・SAPI最終会議オブザーバー参加	大使館・JICA報告、機材・調達計画調査	業務主任に同じ	大使館・JICA報告、機材・調達計画調査
36	2/15	木			移動(コロンボ→香港→成田)、帰国			

2-2 基本設計概要説明

日 程			官 団 員		コンサルタント団員		
日 数	月 日	曜 日	総括 [JICA] (坂田)	計画管理 [JICA] (飯田)	業務主任/ 維持管理計画 (楢原)	展示計画/ 機材計画(1) (永金)	展示計画/ 機材計画(2) (阿部)
1	5/10	木			移動(成田→シンガポール)		
2	5/11	金	文化省表敬、団内協議		移動(シンガポール→コロンボ)		
3	5/12	土	移動(コロンボ→シーギリア)、 CCFシーギリア・プロジェクト事務所への基本設計概要書の説明・調査				
4	5/13	日	新シーギリア博物館建設工事現場視察、進捗確認、 移動(シーギリア→コロンボ)、団内協議				
5	5/14	月	大使館表敬、 文化省専門委員会(以下、委員会)・CCFへの基本設計概要書の説明・協議、 財務計画省表敬				
6	5/15	火	委員会・CCFへの基本設計概要書の説明・協議、 委員会・CCF協議(テクニカルノート案について)				
7	5/16	水	ミニッツ案作成、 財務計画省協議(ミニッツ案について)				
8	5/17	木	委員会・CCF・文化省協議(ミニッツ案について)、 財務計画省協議(ミニッツ案について)				
9	5/18	金	ミニッツ署名、 大使館報告、JICA事務所報告				
10	5/19	土			移動(コロンボ→シンガポール→)		
11	5/20	日			移動(→成田)、帰国		

3. 関係者（面会者）リスト

3-1 相手国関係者リスト

(1) 文化省（旧文化遺産省）（Ministry of Cultural Affairs）

G L W SAMARASINGHE 次官（Secretary）
Hema JAYAWEERA 対外文化交流顧問（Foreign Cultural Relations Consultant）

(2) 文化省任命専門家委員会（Expert Committee）

Senaka BANDARANAYAKE 委員会リーダー、考古学者
Chandana ELLEPOLA 新シーギリヤ博物館建築家及び施工監理者
Siri Nimal LAKDUSINGHE 元国立博物館局・局長
Nimal DE SILVA 考古高等研究所・所長

(3) 中央文化基金（Central Cultural Fund）

1) 本部（Central office）

W H WIJAYAPALA 局長（Director-General）
Jayasena PERERA 局長補（Additional Director-General）
Nilan COORAY 開発部長（Director of Development）

2) 新シーギリヤ博物館建設プロジェクト

P A S PRATHIRAJA Project Manager, Construction of Museum

3) シーギリヤ・プロジェクト事務所

Samedha KARUNARATNE Project Manager, Sigiriya
Samantha WIJESINGHE Information Officer, Sigiriya
Kusumsiri KODITHWAKKU Chief Research Officer, Sigiriya
Kusumpriya RAJAPAKSA Photographer, Sigiriya

4) ポロンナルワ・プロジェクト事務所

Gamini LENORA Project Manager, Polonnaruwa New Museum
Rohan GUNASIRI Officer-in-charge of Museum, Polonnaruwa New Museum
Kumari ALAHAKOON Information Officer, Polonnaruwa Museum

5) その他プロジェクト事務所等

Bagya VITANAGE Director, Replica Centre, Bataleeya
Lalith KUMARASIRI Painting Conservator, Dambulla Museum
Lal DISSANAYAKE Research Officer, Jetvana Project/Museum
S R RANGANA Information Officer, Abhayagiri Project/Museum
S G N K TIMILAKA Security Officer, Abhayagiri Project/Museum

CHANDRARATHNE Assistant Director, Kandy Museum

(4) 国家遺産省（旧文化遺産省）考古局（Department of Archaeology）

H M RATNAWEERA Officer-in-charge of Museum, Sigiriya Museum
Senake WIJERATNE Assistant to Officer-in-charge, Sigiriya Museum
Mahinda RAJAPAKSA Assistant to Officer-in-charge, Sigiriya Museum
A M L G BALEDA Officer, Anuradhapura Museum

(5) 国家遺産省博物館局（Department of National Museums）

Nanda WICKRAMASINGHE Director, Department of National Museum
Ranjith HEWAGE Museum Keeper, National Museum Colombo
PERERA Museum Keeper, Natural History Museum

(6) 財務省対外援助局（Department of External Resources, Ministry of Finance）

M P D U K MAPA PATHIRANA Director (Japan Division)

(7) 観光省（Ministry of Tourism）

Prathap RAMANUJAM 次官（Secretary）（2007年2月に退任）
George MICHAEL 次官補（Additional Secretary）
Y.H. DE SILVA JBIC-TRIP 担当官、Project Director

(8) 国土・国土開発省測量局（Survey Department）

B J P MENDIS Surveyor General
S M W FERNANDO Additional Surveyor General
C KUMARASINGHE Map Sales Manager

(9) 環境自然資源省地質調査・鉱山局（Geological Survey and Mines Bureau）

Udaya DE SILVA Senior Geologist

(10) UNESCO スリランカ現地事務所（Sri Lanka National Commission for UNESCO）

R P PERERA Secretary General
K Prasanna CHANDITH Deputy Secretary General

(11) その他

Prabath WIJESEKARA レプリカ製作者、元国立博物館デザイン部長
Prishantha GUNAWARDENA Head of Department、ケラニア大学考古学科・博物館
N D KODIKARA コロンボ大学コンピューター独立学部教授

3-2 日本側関係者リスト

(1) 在スリランカ日本大使館

阿藤 隆司
定本 憲明

一等書記官
二等書記官

(2) 国際協力銀行（JBIC）

上村康裕
S Arinda I ELAPATA

コロombo駐在員
Project Specialist

(3) JICA スリランカ事務所

植嶋 卓巳
後藤 光
Priyantha SERASINGHE
CABRAL Indika
西 千秋

所長
所員
現地所員
現地所員
ボランティア調整員